

「中西夏之 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」カタログ 文献目録

凡例

- 本目録は以下のように構成した。

- 1 中西夏之自筆文献 (a: 著述、b: 座談会・対談・共著など)
- 2 展覧会カタログ (a: 個展、b: グループ展)
- 3 単行書 (a: 作家論、b: その他)
- 4 逐次刊行物 (a: 作家論、b: 展評)

原則として、年鑑、施設年報、博士論文、書籍広告、展覧会告知は掲載しなかった。

ただし資料的に重要と思われる文献は収録した。

1.作家の自筆文献

1-a 作家の自筆文献

- 中西夏之「〈特集 若き芸術家の制作日記〉4 “ふぬけ”の哲学」『芸術新潮』no.127, 1960年7月, pp.204-208
- 中西夏之「〈私の発言—「現代美術の実験」展出品作家の主張 殻の中で胚たちが動いている」『現代の眼 (国立近代美術館ニュース)』no.77, 1961年4月, p.6
- 中西夏之「顔」『美術ジャーナル』no.23, 1961年8月, pp.38-39
- 中西夏之「タブロー概念の崩壊から行動芸術へ 行為者は仲介者ではない」慶應義塾大学新聞, 1963年1月15日
- 中西夏之「〈彫刻と私—「彫刻の新世代」展出品作家の発言」ウロボンとコンパクト・オブジェの出会い」『現代の眼 (国立近代美術館ニュース)』no.102, 1963年5月, pp.4-5
- 中西夏之「若い芸術家」『新婦人』vol.18-5, 1963年5月, pp.98-99
- 中西夏之「〈現代作家の発言・日本の先鋭たち〉中西夏之」『みづゑ』no.707, 1964年1月, p.42
- 中西夏之「美学校 中西夏之アトリエ」『美学校入学案内パンフレット』現代思潮社, 1968年
- 中西夏之「顔を吊す双曲線」『大野一雄を肖像した長野千秋展』(大野一雄ドキュメンタリー映画「0氏の肖像」プログラム) 1969年
- 中西夏之「美学校 中村宏アトリエ・中西夏之アトリエ展示」(あいさつ) 1970年3月
- 中西夏之「大使館のための天秤素描」『大使館舞踏会「開」公演パンフレット』1971年8月
- 中西夏之「〈千円札裁判〉における中西夏之証言録(一)」『美術手帖』no.333, 1971年10月, pp.89-112
- 中西夏之「〈千円札裁判〉における中西夏之証言録(二)」『美術手帖』no.334, 1971年11月, pp.201-224
- 中西夏之「〈生活者の位相から〉”ふぬけ”の哲学」(再録)『美術手帖』no.350, 1972年1月, pp.170-174
- 中西夏之「〈中西夏之・素描教場〉感覚の復習と絵造りのABC」『1972年度美学校入学案内』現代思潮社美学校, 1972年4月
- 中西夏之「編集部のアンケート〈制作の発想と意図〉に答えて」『美術手帖』no.367, 1973年5月, p.175
- 中西夏之「プラットホームのデッサン(’71.XI.5)」『美術手帖』no.367, 1973年5月, p.211
- 中西夏之「レモンティーから心器へ(’72.I.10)」『美術手帖』no.367, 1973年5月, p.219
- 中西夏之「考える数と感じる数」『数学セミナー』vol.12-8, 1973年8月, p.89
- 中西夏之「沸騰する血液 [アンケートに答えて]」『DRACURA』創刊号, 1973年 Autumn
- 中西夏之「“静物”について(中原佑介宛て私信より)」『ギャラリーマツグロツシ機関紙』(中原佑介編), 1975年
- 中西夏之「手当と復習・舞踊の足の裏 その一 フイゴ」『激しい季節(大駱駝鑑機関紙)』2号, 1975年2月11日
- 中西夏之「水中の色彩」『流動』1975年9月
- 中西夏之「〈循環する肖像画の計画〉をめぐって 顔を描いてしまった人へ」『美術手帖』no.398, 1975年9月, pp.66-68
- 中西夏之「ノートから」『美術手帖』no.398, 1975年9月, p.68
- 中西夏之「循環する肖像画の計画1969-70」(1969-70年度 美学校・中西夏之アトリエにおける教程)『美術手帖』no.398, 1975年9月, pp.69-84
- 中西夏之「〈展覧会案内〉中西夏之展」『美術手帖』no.414, 1976年12月, p.288
- 中西夏之「〈作家のことば〉背景の円」『朝日ジャーナル』no.948, 1977年4月8日, p.4
- 中西夏之「手当と復習—舞踊の足の裏—その二 真鍮の板1」『激しい季節(大駱駝鑑機関紙)』3-4合併号, 1977年4月29日
- 中西夏之「無題」『常闇形』公演プログラム, 海王企画/北龍峡, 1977年7月, p.2
- 中西夏之「[アンケートに答えて] 東京」『草月』no.113, 1977年8月, p.28
- 中西夏之「J.S.パッハー—右手は海に触れて」『ユリイカ』vol.10 no.1, 1978年1月, pp.140-145
- 中西夏之「〈わが友〉なかにし礼 眼差で訴える少年」日本読書新聞, 1978年11月20日
- 中西夏之「〈わが友〉今泉省彦 緊張を覚えさす人」日本読書新聞, 1978年11月27日
- 中西夏之「〈わが友〉宮田国男 空間の解放者」日本読書新聞, 1978年12月4日
- 中西夏之「緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」『ユリイカ』vol.11 no.4, 1979年9月増刊, pp.265-281
- 中西夏之「[アンケートに答えて] 真紅が青に還元される距離」『草月』no.124, 1979年6月, p.46
- 中西夏之「右手は海に触れて」(再録)『漂流物épaves』no.3, 1979年10月, pp.25-31
- 中西夏之「〈ゼログラフィーの冒険〉色彩の裏側・鏡の裏側」『GRAPHICATION』no.164, 富士ゼロックス, 1980年2月, pp.26-27
- 中西夏之「ただの絵」『世界の巨匠シリーズ別巻〈シュールレアリズム〉』付録, 美術出版社, 1980年5月, pp.6-8
- 中西夏之「〈わたしの古典〉14尾形光琳 二曲一双と対峙する円盤の意識」『草月』no.132, 1980年10月, pp.59-66
- 中西夏之「露骨の人—そしてまた剥がす人」図書新聞, 1981年2月14日
- 中西夏之「手当と復習」『みづゑ』no.912, 1981年3月, pp.74-77

- 中西夏之「不合流 正面性・眺めること」『〈シュルレアリスム読本-3〉シュルレアリスムの思想』思潮社, 1981年6月, pp.162-166
- 中西夏之「作家の言葉」『「富山国際現代美術展」図録』富山県立近代美術館, 1981年7月, p.144
- 中西夏之「〈ひととく〉黒いユーモア」中国新聞, 1981年11月15日
- Nakanishi Natsuyuki, "On the Bridge" Art Gallery Japan Series 3, *MITSUBISHI MOTORS*, vol.6, 1981.12, p.28
- 中西夏之「〈アンケート-1960年代と私〉メモランダム」『現代の眼 (東京国立近代美術館ニュース)』no.326, 1982年1月, pp.5-6
- 中西夏之「橋の上」(再録)『みづゑ』no.922, 1982年3月, pp.56-59
- 中西夏之「〈私と琳派〉「紅白梅図」の仕掛けを読む」[Art japanesque [日本の美と文化] 第14巻 琳派の意匠] 講談社, 1982年6月, pp.46-47
- 中西夏之「作家の言葉」(再録)『第1回現代芸術祭 滝口修造と戦後美術』図録』富山県立近代美術館, 1982年7月, p.84
- 中西夏之「〈プラハ国立美術館秘蔵名画展IIから〉6 画家は飛翔しない セザンヌ「ジョアキム・ガスケの肖像」」毎日新聞(夕刊), 1982年7月19日
- 中西夏之「〈上皿天秤の橋渡し〉について」『ユリイカ』vol.14 no.9, 1982年9月, p.171
- Nakanishi Natsuyuki, "High Red Center" *DADA in Japan, Japanische Avantgarde 1920-70: Eine Fotodokumentation*, 1983.5, pp.28-29
- 中西夏之「インタビューをうけて」『夜想』no.9, 1983年7月, p.47
- 中西夏之「ハイレッド・センターについて」(再録)『美術館ニュース』no.376, 東京都美術館, 1983年7月, pp.5-7
- 中西夏之「弓形が触れて」『日本戦後美術研究』日本戦後美術研究会, 1983年7月, pp.111-135
- 中西夏之「絵の姿」『「空白の 粒子の中へ 兆みる。」展図録』ギャラリー21, 1983年9月, p.8
- 中西夏之「凹型の言葉、高梨豊の写真—M字型の絵を描きながら 高梨豊写真集『東京人1978-1982』付録, 書肆山田, 1983年9月, pp.17-23
- 中西夏之「遠くの画布 目の絵」『「中西夏之個展 [作品・5月]』図録』西村画廊, 1984年, pp.15-20
- 中西夏之「等伯の画説より」『アトリエ』no.685, 1984年3月, pp.61-62
- 中西夏之「秋の白」『郵政』no.423, 1984年10月, p.3
- 中西夏之「〈特集=素材の関りの中で〉空白からのドラマ」『絵具箱からの手紙』no.30, 1984年11月, pp.5-7
- 中西夏之「〈美の証言者たち・現代美術を側面から支えた二人の死〉内科画廊 宮田國男」『アトリエ』no.695, 1985年1月, pp.114-117
- 中西夏之「〈80年代へ・街頭の断想—16〉一枚の水面 新宿センタービルB1水の広場, 1984年11月1日-1985年1月31日掲示
- 中西夏之「〈ART 美術〉」『びあ』1985年
- 中西夏之「遠くの画布、目の絵 作業から作業への結び目=瞬間のために(制作ノートより)」『季刊へるめす』no.2, 1985年3月, pp.97-104
- 中西夏之「立ち停まりの儀器」『季刊へるめす』no.2, 1985年3月, pp.105-106
- 中西夏之「ゴークーのエピソードから」『志水楠男と南画廊』「志水楠男と南画廊」刊行会, 1985年3月, pp.210-212
- 中西夏之「〈私の好きな1点〉尾形光琳「紅白梅図屏風」」『現代の眼 (東京国立近代美術館ニュース)』no.365, 1985年4月, p.6
- 中西夏之「舞踏の表情から逃れ、空間との振動を受けるための試み」『現代詩手帖』vol.28-6, 1985年5月, p.69
- 中西夏之「勇気づけられる底光り。」秋山祐徳太子『通俗的芸術論』しおり, 1985年7月
- 中西夏之「人は最初どのようにして絵をかくだろうか…」『「中西夏之展」図録』北九州市立美術館, 1985年7月, pp.99-120
- 中西夏之「馬場駿吉・プロフィールにかえて」『アサヒグラフ増刊「俳句の世界」』no.3281, 1985年10月10日, p.112
- 中西夏之「ドローイング 作業から作業への結び目」『アトリエ』no.708, 1986年2月, pp.69-76
- 中西夏之「土方巽との終わりなき対話」『現代詩手帖』vol.29-3, 1986年3月, pp.30-32
- 中西夏之「手当と復習・舞踏の足の裏」『美術手帖』no.561, 1986年5月, pp.63-72
- 中西夏之「『紅白梅図』讃歌」『The Japan』講談社, 1986年7月, pp.560-561
- 中西夏之「画家のノート」『草月』no.168, 1986年10月, p.101
- 中西夏之「私の立場と絵の立場一波打ち際にて(講演会記録)」『美術の森 (北九州市立美術館ニュース)』no.49, 1987年
- 中西夏之「〈オマー・ジュ・澁澤龍彦〉「交叉する二人の少女」は「magnetic sleep」をへて『朱色の黥』に』『季刊みづゑ』no.945, 1987年冬, pp.90-91
- 中西夏之「赤瀬川原平」『機関』no.14, 1987年1月, pp.39-43
- 中西夏之「ハイレッド・センターについて」(再録)『日本のダダ1920-1970』書肆風の薔薇, 1988年10月, pp.42-45
- Nakanishi Natsuyuki, "NOTES BY NAKANISHI NATSUYUKI" *BUTOH Shades of Darkness*, Shufuno-tomo-sha, 1988
- 中西夏之「顔を吊るす双曲線」『舞踏譜 御殿、空を飛ぶ。』思潮社, 1988年(増補版1998年), pp.247-249
- 中西夏之「作家の言葉」『「中西夏之展」図録』西村画廊, 1988年6月
- 中西夏之「大括弧 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」筑摩書房, 1989年4月
- 中西夏之「中西夏之」『「現代絵画の展望—祝福された絵画」展図録』毎日新聞社, 1989年4月
- 中西夏之/西武美術館編『中西夏之ノート』西武美術館, 1989年4月
- 中西夏之「〈連載エッセイ わたしのかたち〉カタチ以前の中央について」『版画芸術』no.65, 1989年7月, p.115
- 中西夏之「絵は異なるもの 豊崎光一」『中央公論』no.1253, 1989年12月号
- 中西夏之「一つの発明=観照の場—長谷川等伯「画説」をめぐる」[1989年4月23日講演会より]』西武美術館, 1989年
- 中西夏之「吉岡さんへ」『ユリイカ』vol.22 no.8, 1990年7月, pp.34-37
- 中西夏之「吉岡さんへ—弔辞」(再録)『特装版 現代詩読本 吉岡実』思潮社, 1991年4月, pp.262-263
- 中西夏之「顔を吊るす双曲線 [再録]」、大野 一雄『舞踏譜—御殿、空を飛ぶ。』思潮社, 1992年6月(増補版1998年10月), pp.247-249
- 中西夏之「正午の鏡のように」『澁澤龍彦文学館』月報12 [最後の箱], 1991年10月, pp.1-3
- 中西夏之「舞台の上で、人間が生まれつつあるのです」『サンデー毎日』no.3912, 1992年3月29日
- 中西夏之「空白からのドラマ」(再録)『男子高校生のための文章図鑑』筑摩書房, 1993年12月, pp.160-164
- 中西夏之「兎はなぜ上方にいるのか」『山海塾「常に揺れている場の中で—ゆらぎ」公演プログラム』セゾン劇場, 1994年
- 中西夏之「赤瀬川原平の体の中を降りていく」『「赤瀬川原平の冒険」展図録』名古屋市美術館, 1995年1月, p.73
- 中西夏之「小鋼球及び絵画場」『「着陸と着水 舞踏空間から絵画場へ」展図録』神奈川県立近代美術館, 1995年11月, pp.4-7
- 中西夏之「風倉匠の救急箱」『時計の振り、風倉匠』書肆山田, 1996年5月, pp.36-43
- 中西夏之「中西夏之講演会記録 絵の励ましと日本列島 想像的地表」東京都現代美術館, 1998年3月
- 中西夏之「〈追悼 高松次郎〉弔辞 高松次郎、この打ち切りは本当か?」『美術手帖』no.761, 1998年9月, p.172
- 中西夏之「無題」『美術学部の教官』東京藝術大学美術学部点検評価委員会, 1999年, p.26

- 中西夏之「無題」『こころ これからの芸術教育 平成12年度点検評価報告書』東京藝術大学美術学部油画第2研究室, 2000年, pp.74-75
- 中西夏之「新宿と『青蛾』、五味さんの思い出」『新宿歴史博物館特別展「琥珀色の記憶—新宿の喫茶店」図録』新宿区生涯学習財団, 2000年10月, p.50
- 中西夏之「絵画体験/絵画実践=絵画衝動について思うこと」『東京藝術大学美術学部 油画研究室中西ゼミ 二年生共通カリキュラム』2001年4月13日, p.26
- 中西夏之「兎はなぜ上方にいるのか」(再録)『山海塾2001』山海塾, 2001年4月
- 中西夏之「二箇所」『発生の場合/ドローイング』展図録』東京藝術大学油画研究室, 2001年11月
- 中西夏之「池内晶子」『日独交流展 青木野枝・池内晶子展』図録』Galerie ARTicle, ギャラリー21+葉, 2001年頃
- 中西夏之「『絵画への照射』展の構成」『『絵画への照射』展図録』東京パブリッシングハウス, 2002年1月, pp.24-26
- 中西夏之「『種村季弘百面相綺譚II』救い手」『別冊幻想文学』13, 2002年4月, pp.173-176
- 中西夏之「二箇所—絵画場から絵画衝動へ—中西夏之 無秩序に巡回するいくつかの言葉……」『藝大通信』no.4, 東京藝術大学, 2002年10月
- 中西夏之「作者から」『『中西夏之 弓形が触れて』展図録』ギャラリー21+葉, 2003年1月
- 中西夏之「はじめに」『『二箇所—絵画場から絵画衝動へ—中西夏之』展図録』Plates/Texts, 中西夏之展実行委員会, 2003年2月
- 中西夏之「絵と絵の姿形」『『二箇所—絵画場から絵画衝動へ—中西夏之』展図録』Plates/Texts, 中西夏之展実行委員会, 2003年2月
- 中西夏之「送られてくる高松次郎の書物について」(リーフレット), 高松次郎『世界拡大計画／不在への問い』[2冊組] 水声社, 2003年7月
- 中西夏之「作業工程日誌より」『『中西夏之展 Halation・背後の月目のひびき』展図録』SCAI THE BATHHOUSE, 2004年4月
- 中西夏之「倉敷芸術科学大学 講義概要」2004年4月
- 中西夏之「二、三の会話から」『『詩人の眼・大岡信コレクション』展図録』朝日新聞社, 2006年4月, pp.78-79
- 中西夏之「藤井博の作品をなぞり復習して」, 藤井博『藤井博 作品・集 1970-1991』スピリットプロダクツ, 2006年7月, pp.6-7
- 中西夏之「椎木静寧の作品の前で」, 椎木静寧『景色から』2008年1月
- 中西夏之「作品について」『戦争と芸術II—美の恐怖と幻影』京都造形大学国際芸術研究センター, 2008年1月, pp.26-27, p.66
- 中西夏之「自己を通過したもの」『感光と感応』「遠くの画布、近くの絵」『シミュラクルとしての制作態度』「スクリーン・フィルター・フィルム」『スーパーカミオカンデにおける研究内容と美術作品との関係』ほか多数, 中西夏之、五十嵐英之『像の拡大と拡散の試み 中西夏之×五十嵐英之 2006~2007』「超拡大計画 中西夏之×五十嵐英之」企画部, 2009年3月
- 中西夏之「櫃田伸也様」『放課後ののはらっぱ—櫃田伸也とその教え子たち—』あいちトリエンナーレ実行委員会、愛知県美術館、名古屋市美術館、中日新聞社, 2009年8月, p.32
- 中西夏之「タプロオの中央の速い白」, 谷川雁『談論風発のすすめ 谷川雁対談・座談集』ものがたり文化の会, 2010年9月
- 中西夏之「赤い船」『『谷川晃一展 南の庭のアトリエより』展図録』三鷹市芸術文化振興財団, 2011年9月, p.25
- 中西夏之「メモランダム」(再録)東京国立近代美術館編『『美術家たちの証言』『現代の眼』選集』美術出版社, 2012年10月
- 中西夏之「海を贖めて 茶の湯を贖めて」『『二年後。自然と芸術、そしてレクイエム』展図録付録リーフレット』, 茨城県近代美術館, 2013年1月
- 中西夏之「絵画に向けて ニツの環と霞橋・高梁川・岡山平野」N・REPORT, 2013年5月
- 中西夏之「堤清二・辻井喬=歴史時代終焉の危機に」『『堤清二/辻井喬さんへ』ゼン現代美術館, 2014年7月, pp.52-54
- 中西夏之「弓形が触れて」東京パブリッシングハウス, 2015年3月, p.125
- 中西夏之「詩」『『有為自然—岡崎和郎、伊勢崎淳、中西夏之展』図録』岡山県立美術館, 2015年4月, pp.77-79
- 中西夏之「絵画に向けて ニツの環と霞橋・高梁川・岡山平野」(再録)『『有為自然—岡崎和郎、伊勢崎淳、中西夏之展』図録』岡山県立美術館, 2015年4月, pp.169-215
- 中西夏之「全体と部分」エリザベート・ド・ランピリー (訳 大澤千加)『名画で遊ぶ あそびじゅつ! 世界の楽しい美術めぐり』ロクリン社, 2016年4月
- 中西夏之「池内晶子」(再録), 池内晶子『池内晶子 Akiko Ikeuchi』gallery21yo-j, 2017年
- 中西夏之「詩」(再録)『『中西夏之 私は願う 太陽に向かって種子を播きたい』展図録』女子美アートミュージアム, 2018年, p.3
- 中西夏之「兎はなぜ上方にいるのか」(再録)山海塾『Ushio Amagatsu 1949-2024』2024年11月
- 中西夏之「連れ舞 着陸と着水、又は湖面の刺戟」水声社, 2026年3月
- 中西夏之「大括弧 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」(再版) 洋洋社, 2026年3月

I-b 座談会、対談、共著など

- (座談会) 中西夏之、赤瀬川原平、荒川修作、伊藤隆康、工藤哲巳 司会=江原順、解説=中原佑介「若い冒険派は語る〈ROUND TABLE〉」『美術手帖』no.192, 1961年8月, pp.7-17
- (共著) 中西夏之、高松次郎「無題」『山手線のフェスティバル招待状』1962年10月
- (座談会) 中西夏之、高松次郎、赤瀬川原平、札二刀、中松「直接行動論の兆—ひとつの実験例について—」『形象』no.7, 1963年2月, pp.15-23
- (座談会) 中西夏之、高松次郎、赤瀬川原平、札二刀、K.ウロボン、長良棟「直接行動論の兆II」『形象』no.8, 1963年5月, pp.1-18
- (共著) ハイレッド・センター「声明」『ハイ・レッド通信』No.3, 1963年5月
- (パンフレット) 赤瀬川原平、小池龍、中西夏之『ベリカン・クローヴァ 営業案内』1964年頃
- (共著) ハイレッド・センター『[シェルター計画 招待状]』1964年1月
- (共著) ハイレッド・センター『[シェルター計画 入室者の心得]』1964年1月
- (共著) ハイレッド・センター『[シェルター計画 インストラクション]』1964年1月
- (共著) ハイレッド・センター『ハイ・レッド通信『目録特報!』』1964年2月
- (共著) ハイレッド・センター『[大パノラマ展 案内状]』1964年5月
- (座談会) 針生一郎、岡本太郎、高松次郎、谷川晃一、中西夏之、西野 (東京都美術館)、川上 (読売新聞)「読売アンデパンダン展の廢止をめぐって」『アンデパンダン'64展』図録』東京都美術館, 1964年6月, pp.15-18 *ラジオ放送は1964年3月2日、TBSラジオスケッチ
- (座談会) 中西夏之、高松次郎、三木富雄 司会=針生一郎「〈特集 現代日本の美術の底流・戦後美術〉『合理』と『神秘』の間隙」『美術ジャーナル』no.56, 1966年1月, pp.6-24
- (対談) 中西夏之 聞き手=鈴木志郎康「〈ディアローグ23〉中西夏之」『みづゑ』no.803, 1971年12月, pp.30-43
- (座談会) 中西夏之、高松次郎、三木富雄 司会=針生一郎「『合理』と『神秘』の間隙〈美術家という特権的知覚〉」(再録)『美術手帖』no.350, 1972年1月, pp.158-165

- (座談会) 中西夏之、工藤哲巳、荒川修作、伊藤隆康、赤瀬川原平、江原順「若い冒険派は語る〈生活者の位相から〉」(再録)『美術手帖』no.350, 1972年1月, pp.178-183
- (座談会) 中西夏之、赤瀬川原平、山口勝弘 司会=東野芳明「討議 オブジェの思想」『art now現代の美術6主張するオブジェ』講談社, 1972年1月, pp.122-127
- (対談) 中西夏之、金井美恵子「紅茶をのみながら」『美術手帖』no.367, 1973年5月, pp.171-219
- (座談会) 中西夏之、高月仁、加納光於、林建夫、白倉敬彦「工房にて」『漂流物 épaves』no.2, 1977年10月
- (対談) 中西夏之、土方巽「白いテーブル・クロスが触れて〈中西夏之一覧覧会より〉」『美術手帖』no.511, 1983年6月, pp.182-195
- (対談) 中西夏之 聞き手=今野裕一「舞踏の足の裏」『夜想』no.9, 1983年7月, pp.35-47
- (座談会) 中西夏之、榎倉康二、高山登「空白の 粒子の中へ 兆みる。」『「空白の 粒子の中へ 兆みる。」展図録』ギャラリー21, 1983年9月, pp.8-14
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=芥川喜好「Front5刺激する現代作家1中西夏之」読売新聞, 1983年9月5日
- (座談会) 中西夏之、高松次郎、赤瀬川原平「寂しげで冷やかな浸透カ フィクションとしてのハイレッド・センター」『東京ミキサー計画 ハイレッド・センター直接行動の記録』PARCO出版, 1984年3月, pp.205-229
- (対談) 中西夏之、菊畑茂久馬「絵画、その可能性をめぐって」毎日新聞(夕刊), 1985年8月22日
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=山口猛「〈土方巽の遺言4〉中西夏之インタビュー 鯉の衣装」『演劇ぶっく』no.6, 1987年, pp.46-47
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=市川雅「吊るされた真鍮板」『アスベスト館通信』no.7, 1988年4月, pp.12-21
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=市川雅「吊るされた真鍮板」(再録)『「ヨコハマアートウェーブ'89」展図録』ヨコハマアートウェーブ事務局, 1989年
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=武藤いずみ「少年時代を遮断して生きているその時代に立ち戻る一瞬」『アエラ』no.27, 1989年7月4日, p.75
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=編集部「〈著作誕生の横顔〉絵の姿形『大括弧 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置』」『月刊ギャラリー』no.53, 1989年9月, pp.70-71
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=編集部「光景と盲点」『月刊アドバタイジング』no.399, 1989年10月, pp.36-37
- (対談) 中西夏之、谷川雁「物語が発する光に触れて」『十代』第11巻第5号, 1991年5月
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=編集部「変容の過程としての首(進化の、または墮落の)」『夜長姫叢書I 生首考』パロル社, 1994年12月, pp.43-66
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=編集部「中西夏之新作版画『夏至のG/Z』」『版画芸術』no.86, 1994年12月, pp.130-135
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=編集部「(Artist Interview) 中西夏之 光のたたずむ場所」『美術手帖』no.741, 1997年5月, pp.80-92
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=蜂巣敦「排除された『1』の孤独 人形と抽象芸術について」『夜長姫叢書II 人形考』パロル舎, 1997年10月, pp.46-66
- (対談) 中西夏之、土方巽「白いテーブル・クロスが触れて」(再録) 土方巽『土方巽全集II』河出書房新社, 1998年1月, pp.92-109
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=中村麗「光の条件としての『着陸と着水』」『セゾンアートプログラム・ジャーナル』no.1, 1999年9月, pp.6-32
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=中村政人『美術に教育・2004』commandN, 2004年1月30日, pp.428-447
- (インタビュー) 中西夏之 聞き手=阿部麻弥、斉藤邦彦「絵は、どこにあるのか?」『サブジェクト』第6号, 多摩美術大学大学院美術研究科芸術学専攻・大学院演習室, 2007年4月
- (談) 中西夏之「2・1・2・3柵型四群 一瞥と擦れ違い」『東京ミッドタウンのアートとデザイン』東京書籍, 2007年8月
- (採録)「ハイレッド・センター:『直接行動』の軌跡展」併催:特別講演会「中西夏之、ハイレッド・センターを語る!」から:〈HRC〉一揺れのある場所からの報告 後編『あいだ』no.215, 桂書房, 2014年9月
- (採録)「ハイレッド・センター:『直接行動』の軌跡展」併催:特別講演会「中西夏之、ハイレッド・センターを語る!」から:〈HRC〉一揺れのある場所からの報告 後編『あいだ』no.216, 桂書房, 2014年10月
- (インタビュー) 聞き手=林道郎、松浦寿夫「中西夏之インタビュー」『ART TRACE PRESS』04, 2016年11月
- 「#25 夕留のための「4ツの月」」作品紹介・作家インタビュー映像, dentsu art museum, <https://www.artmuseum.dentsu.jp/10/>

2. 展覧会カタログ

2-a 個展

- いう画廊『個展/中西夏之』1961年12月〔所収:東野芳明「中西夏之の彫刻あるいは鉄の悪意」〕
- 南画廊『中西夏之個展』1967年4月
- 南画廊『中西夏之1968~1973』1973年3月
- 南画廊『中西夏之個展』1976年11月〔所収:瀧口修造「磁界に沿って 中西夏之考」〕
- ギャラリーワタリ『中西夏之arc弓形が触れて』1979年11月
- 雅陶堂ギャラリー『arc・ellipse』1980年11月
- アキライケダギャラリー(名古屋)『中西夏之』1982年4月〔所収:馬場駿吉「ナカニシ彗星の軌道—中西夏之の近業を透視して」〕
- 雅陶堂ギャラリー竹芝『中西夏之 紫・むらさき』1983年4月〔所収:巖谷國士「中西夏之の作業、作品」〕
- 西村画廊『中西夏之 作品・5月』1984年5月
- 北九州市立美術館『中西夏之展』1985年7月〔所収:豊崎光一「中西夏之 ナツユキ Nakanishi」、宇野邦一「痕跡と境界—中西夏之の仕事場から」、後藤新治「『中西夏之ノート』から」〕
- 雅陶堂ギャラリー『中西夏之 作業から作業への結び目1981-1985』1985年11月
- 西武ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー『《山頂の石蹴り》をめぐって 中西夏之』1986年6月〔所収:辻井喬「磁界にそって」〕
- 西村画廊『0字型—左右の停止』1986年11月
- 西村画廊『中西夏之』1988年6月
- 西武美術館『中西夏之展—正面の絵 緩やかに ひらかれゆくとき—』1989年4月〔所収:辻井喬「[たとえば抽象の渚で]」、松浦寿夫「正面性の勝利」〕
- 西村画廊『中西夏之 中央の速い白』1990年7月
- 横田茂ギャラリー『Nakanishi』1990年9月
- 西村画廊『中西夏之G/全面性直進・5月』1992年5月
- ギャラリーAPA『夏至のG/Z・凹型 中西夏之』1994年7月

- 横田茂ギャラリー『中西夏之G/Z HOHO群』1994年9月
- ギャラリーAPA『ギャラリーAPA 1994』1995年
- 西村画廊『中西夏之G/Z LM・HOHO群』1995年2月
- 愛知県美術館『中西夏之〈山頂の石蹴り〉へ』1995年2月〔所収：深山孝彰「〈山頂の石蹴り〉ドローイング」〕
- 神奈川県立近代美術館『着陸と着水 舞踏空間から絵画場へ 中西夏之展』1995年11月〔所収：原田光「展覧会後記」〕
- 東京都現代美術館『中西夏之展 白く、強い、目前、へ』1997年1月〔所収：種村季弘「競演する空間へ〈白く、強い、目前、へ〉のために」、谷川渥「中西夏之一佇みの装置」、丹生谷貴志「美しくあつてはならぬと命じたのは誰か?」、南雄介「中西夏之と絵画」〕
- 横田茂ギャラリー『中西夏之 中央・瞬きなく』1997年6月
- 東京パブリッシングハウス『中西夏之 絵画への照射』2002年1月
- 名古屋市美術館『中西夏之《柔かに、還元》の絵画/思索展』, 2002年4月〔所収：山田諭「『中西夏之：《柔かに、還元》の絵画/思索」についての試論」〕
- 愛知県美術館、愛媛県美術館『中西夏之展 広さと近さ—絵の姿形』2002年12月〔所収：宇野邦一「紫と自己放下」、中村英樹「目で降り立つ不確かな居場所—『絵画』の再生に向けて」、原田平作「中西夏之を解さんとする—韻律的と思索的を中心に—」、深山孝彰「中西夏之 絵と、絵の姿形」〕
- 東京藝術大学大学美術館『二箇所—絵画場から絵画衝動へ—中西夏之』2003年2月〔所収：林道郎「縁に立てられた絵—『二箇所』の余白に」〕
- 川村記念美術館『カルテット 着陸と着水X 中西夏之展』2004年4月〔所収：馬場駿吉「身体の位相と作品発生の場—中西夏之の思紋をたどって」、上神田敬「中西夏之《カルテット 着陸と着水X》—その可能性の中心」〕
- 東京パブリッシングハウス『静物 1972 復習』2005年10月
- 渋谷区立松濤美術館『中西夏之新作展 絵画の鎖・光の森』2008年4月〔所収：林道郎「やわらかな中間地帯」、光田由里「絵画の鎖・光の森 中西夏之の絵画」〕
- SCAI THE BATHHOUSE『中西夏之「背・円」』2009年4月
- DIC川村記念美術館『中西夏之 韻 洗濯バサミは攪拌行動を主張する 擦れ違い／遠のく紫 近づく白斑』2012年10月〔所収：谷新「中西夏之初期作品と現在の作品の邂逅」、赤松祐樹「韻、洗濯バサミは攪拌行動を主張する、擦れ違い／遠のく紫 近づく白斑」、鈴木尊志「ふたつの制作日誌から見えてくるもの」〕
- Fergus McCaffrey, NATSUYUKI NAKANISHI, Michio Hayashi“NAKANISHI NATSUYUKI Demands of Painting”, 2014.5
- SCAI THE BATHHOUSE『中西夏之 キアスム/chiasme』2014年10月〔所収：飯田高誉「中西夏之—キアスム chiasme」〕
- gallery21yo-j『中西夏之 works on paper 2009-2014』2016年1月〔所収：林道郎「『歩行』『円環』『分身と存在の風』『関係の詩学』『測量の教え』『道標』」〕
- Fuji Xerox Art Space『中西夏之 Fuji Xerox Print Collection No.50』2016年9月〔所収：山田諭「中西夏之の二つの銅版画集」〕
- 名古屋画廊『中西夏之展 思考の見えざる矢』2016年9月〔所収：馬場駿吉「往還する遠心と求心 中西夏之絵画作品を射貫く不可視の矢」〕
- 横田茂ギャラリー『中西夏之《着陸と着水 I-XV》その記録と拾遺』2016年11月〔所収：横田茂「本展によせたテキスト」〕
- 名古屋画廊『中西夏之展—生命の維持体としての〈白〉』2017年4月〔所収：馬場駿吉「絵画生命維持体としての〈白〉 中西夏之展IIをめぐって」〕
- SCAI THE BATHHOUSE『中西夏之 個展』2017年9月
- 女子美アートミュージアム『中西夏之 私は願う 太陽に向かって種子を播きたいと』2018年〔所収：光田ゆり「身体・幾何学・絵—中西夏之の「砂絵」に—」、大森悟「走行列車内 その絵の存在」〕
- 名古屋画廊『中西夏之展—緩やかにみつめる時間のために—』2018年4月〔所収：馬場駿吉「緩やかにみつめる時間のために—中西夏之作品の正面に、佇んで」〕
- 国立国際美術館、山梨県立美術館、セゾン現代美術館、茨城県近代美術館『中西夏之 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置』2026年3月〔所収：永松左知「中西夏之の絵を見つづけるために」、新海実和子「砂絵の再生」、下東佳那「中西夏之作品の英語タイトル—日本語タイトルとの狭間で」、福元崇志「儀としての絵—中西夏之の絵画(と)場」、Dan Adler, “Compact Object: The Assemblage Sculptures of Nakanishi Natsuyuki within an International Context”〕

2-b グループ展

- 国立近代美術館『現代美術の実験』1961年4月
- 読売新聞社『第15回読売アンデバンダン展』1963年3月
- 新宿第一画廊『グループSWEET』1963年4月
- 国立近代美術館『彫刻の新世代』1963年5月
- 内科画廊『不在の部屋展』1963年7月
- 南画廊『Young Sevenヤングセブン展』1964年1月
- 国立近代美術館京都分館『現代美術の動向 絵画と彫塑』1964年4月
- 横浜市民ギャラリー『世界現代美術展』1964年10月
- 長岡現代美術館『第1回長岡現代美術館賞展』1964年12月
- The Museum of Modern Art, New York, *The New Japanese Painting and Sculpture*, 1965.4
- 京都国立近代美術館『現代美術の動向展』1967年7月
- 東京画廊『Tricks and Vision展/盗まれた眼』1968年4月
- 釧路市開基百年記念事業事務局『現代美術秀作展 釧路市開基百年記念』1969年9月
- 東京国立近代美術館『戦後日本美術の展開 抽象表現の多様化』1973年6月
- Städtische Kunsthalle Düsseldorf, *JAPAN Tradition and Gegenwart*, 1974.5
- 東京セントラル美術館『現代美術の四半世紀展』1975年1月
- 西村画廊『Book as Object本・オブジェ展』1975年2月
- 西武美術館『日本現代美術の展望』1975年9月
- 横浜市民ギャラリー『今日の静物・展』1975年12月
- The Art Gallery of New South Wales, *Recent International Forms in Art, the 2nd Biennale of Sydney*, 1976.11
- 南画廊『ドローイング5人展』1977年9月
- 栃木県立美術館『日本の現代美術—国内美術と国際美術と—』1977年10月
- 南画廊『志水楠男と作家たち』1979年10月
- 紀伊国屋画廊、美学校「中村宏アトリエ・中西夏之アトリエ展示」『美学校』1980年
- 神奈川県立県民ホール『現代彫刻の歩み展—41人の作家による戦後彫刻の足跡—』1980年2月

- 自由が丘画廊『コラージュ展』1980年3月
- ギャラリー白『オイル・オン・ペーパー展』1980年4月
- 文化庁『第14回現代美術選抜展』1980年11月
- 福岡市美術館『アジア現代美術展 アジア美術展第2部 福岡市美術館開館1周年記念特別展』1980年11月
- 富山県立近代美術館『富山国際現代美術展』1981年7月
- 東京国立近代美術館『1960年代—現代美術の転換期』1981年11月
- 宮城県美術館『開館記念特別展 第1部 現代日本の美術』1981年11月
- 富山県立近代美術館『第1回現代美術祭 滝口修造と戦後美術』1982年7月
- 宮城県美術館『今日のイラストレーション』1982年8月
- 富山県立近代美術館『〔現代日本美術の展望—油絵〕展』1982年11月
- 日本洋画商協同組合『日本洋画商協同組合1982年展』1982年12月
- Kunstmuseum Düsseldorf, *DaDa in Japan, Japanische Avantgarde 1920-1970, Eine Fotodokumentation*, 1983.3
- Kunsthalle Düsseldorf, *Fünf Zeitgenössische Künstler aus Japan*, 1983.7
- ギャラリー21『空白の粒子の中へ 兆みる。』1983年9月
- 日本美術交流会『日本美術交流会による洋画—世紀展』1983年9月
- 東京都美術館『現代美術の動向II 1960年代 多様化への出発』1983年10月
- 西武ザ・コンテンポラリー・アートギャラリー『日本現代美術〈先駆者志水楠男・南画廊〉の軌跡展』1983年11月
- 群馬県立近代美術館『現代絵画の20年 1960-70年代の洋画と新しい「平面」芸術の動向』1984年4月
- 心齋橋そごう『文化庁所蔵美術展』1984年10月
- Franklin Furnace, *Artist's Books: Japan*, 1985.3
- 国立国際美術館『山村コレクション コレクション・リスト』1985年4月
- フジテレビギャラリー『アーティストズ・ブック展』1985年5月
- 東京都美術館『現代美術の40年』1985年10月
- Museum of Modern Art, Oxford, *Reconstructions: Avant-Garde Art in Japan 1945-1965*, 1985.11
- 双ギャラリー『現代美術とともに —オープニング記念展』1985年12月
- 台北市立美術館『日本現代美術展』1986年5月
- 東京国立近代美術館『近代日本の美術 所蔵作品による全館陳列』1986年6月
- 神奈川県立近代美術館『20世紀の美術 大原美術館コレクション展』1986年11月
- Centre Georges Pompidou, *Japon des avant-gardes 1910-1970*, 1986.12
- 国際交流基金『前衛芸術の日本：1910-1970』1986年12月頃
- Palazzo Grassi, *The Arcimboldo Effect*, 1987
- 富山県立近代美術館『美との対話'87 [大原/西武/高輪美術館所蔵作品による]』1987年2月
- つかしんホール『オブジェ 逸脱する物質』1987年5月
- 埼玉県立近代美術館『現代のアイコン かみとひととものときとのなかに』1987年6月
- 神奈川県立近代美術館『現代日本の版画・1950-1980』1988年7月
- ギャラリー現『俳句・イン・ドロイング』1988年9月
- 富山県立近代美術館『現代日本美術の動勢—絵画Part2—展』1988年10月
- 八戸市美術館『東京国立近代美術館所蔵作品による日本の現代美術—1945年以後』1988年10月
- 文建画廊(台北)『日本現代版画展』1989年2月
- 日本国際美術振興会『第19回現代日本美術展 企画部門 現代絵画の展望—祝福された絵画』1989年4月
- ハインケンビレツジ『12人のプリント・ワークス』1989年6月
- 東京国立近代美術館『昭和の美術 所蔵作品による全館陳列』1989年7月
- 有楽町アート・フォーラム『日仏会館ポスター展』1989年9月
- 横浜市民ギャラリー『土方巽とその周辺 闇と光のイコノロジー 舞踏と美術の表現世界を探る』1989年10月
- The Japan Foundation, *Printworks by the Japanese Contemporary Artists*, 1990
- 日本現代詩歌文学館『現代詩と色彩—詩人たちは色彩をうたう』1990年5月
- 神奈川県立近代美術館(別館)『現代作家の版画』1990年6月
- 読売新聞社『第12回日本秀作美術展』, 1990年6月
- 富山県立近代美術館『現代美術の流れ [日本]』1990年11月
- 秋田市立千秋美術館『土方巽展 風のメタモルフォーゼ(変容)』1991年2月
- 日本経済新聞社『東京国立近代美術館所蔵 近代洋画の名作』1991年3月
- 姫路市立美術館『昭和の洋画—戦後の姿』1991年3月
- 板橋区立美術館『〈物体〉詩—思考するオブジェからGOMI・ARTへ』1991年4月
- 宮城県美術館『昭和の絵画：開館10周年記念特別展 第3部(戦後美術—その再生と展開)』1991年9月
- 川崎市市民ミュージアム『色相の詩学展 現代絵画・平面からのメッセージ』1991年11月
- 横浜市民ギャラリー『(横浜・コンスタンツァ姉妹都市提携15周年記念) 現代日本の版画と写真の展開—いまヨコハマから展』1992年6月
- 新潟市美術館『えほんのえ展part II』1992年9月
- 京都市美術館『筆あとの誘惑 モネ、栖鳳から現代まで』1992年11月
- 横浜美術館『戦後日本の前衛美術』1994年2月
- 東京国立近代美術館『近代日本の美術 所蔵作品による全館陳列』1993年6月
- 新潟県立近代美術館『大光コレクション展：先見の眼差し…再構成。』1993年7月
- 板橋区立美術館『KARADAがARTになるとき—物質になった器官と身体—』1994年4月

- 西村画廊『New Works at New Gallery』1994年5月
- いわき市立美術館『戦後・美術の変貌展 わかりやすい現代美術 現代美術入門』1994年7月
- Ed. Alexandra Munroe, *Japanese Art after 1945: Scream against the Sky*, 1994.9
- 横田茂ギャラリー『Walk-in sculpture』1994年11月
- アプトインターナショナル『宮沢賢治絵画館』, 1995年3月
- 板橋区立美術館『線について 不在のモダニズム、不可視のリアリズム』1995年5月
- 東京国立近代美術館、兵庫県立歴史博物館『絵画の流れ—伝統と革新：平成6年度国立博物館・美術館地方巡回展』1995年9月
- HYOGO AID '95 by ART実行委員会『阪神・淡路大震災復興支援全国ポスター展』1995年10月
- 東京都現代美術館『日本の美術 よみがえる1964年』1996年1月
- 板橋区立美術館『美術の内がわ・外がわ 何故、眼差しは変わったか』1996年4月
- 板橋区立美術館『わかってたまるか現代美術 わからないということについて』1997年5月
- 山梨県立美術館『子どものための美術展'97「2D?3D! たて、よこ、たかさ。ひろがり…」』1997年6月
- 水戸芸術館現代美術センター『日本の夏—1960-64こうなったらやけくそだ!』1997年11月
- 東京国立近代美術館、高岡市美術館、米子市美術館編『変貌する世界—日本の現代絵画1945年以後（平成9年度国立博物館・美術館巡回展）』1997年11月
- 京都市美術館『光の方へ…Into the Light』1997年11月
- 池田20世紀美術館、土方巽記念資料館『美術と舞踏の土方巽展』1997年12月
- 国立国際美術館『瀧口修造とその周辺』1998年8月
- ひろしま美術館『ふくやま美術館名品展—日本美術の近・現代』1998年10月
- 東京都現代美術館『アクション 行為がアートになるとき1949-1979』1999年2月
- 板橋区立美術館『脱・現代美術教養論』1999年10月
- 富山県立近代美術館『セゾン現代美術館コレクション展 20世紀—時代の証言』2000年2月
- 東京都現代美術館『日本美術の20世紀 美術が語るこの100年』2000年9月
- 三鷹市美術館ギャラリー『描くこと、生きること—三鷹市所蔵絵画作品展』2000年9月
- 埼玉県立近代美術館『プラスチックの時代 美術とデザイン』2000年10月
- 鳥取県立博物館『現代美術への招待—日本前衛・60年代—』2001年10月
- 東京藝術大学油画研究室『発生の場/ドローイング』2001年11月
- 東京国立近代美術館『未完の世紀 20世紀美術がのこすもの』2002年1月
- 森美術館『六本木クロッシング 日本美術の新しい展望 2004』2004年2月
- 兵庫県立美術館『松方・大原・山村コレクションなどでたどる美術館の夢』2002年4月
- 新潟県立近代美術館『長岡現代美術館賞回顧展1964-1968』2002年4月
- 東京藝術大学大学美術館、東京都現代美術館、セゾン現代美術館『再考：近代日本の絵画—美意識の形成と展開』2004年4月
- 豊田市美術館『イメージの水位 ナルキッソスをめぐる変容と反射』2004年7月
- 横浜美術館『横浜美術館コレクション展 第2期』2004年7月
- うらわ美術館『フルクサス展—芸術から日常へ』2004年11月
- 京都国立近代美術館『痕跡—戦後美術における身体と思考—』2004年11月
- 世田谷美術館、富山県立近代美術館『瀧口修造 夢の漂流物』2005年2月
- 富士ゼロックス『ゼログラフィーと70年代』東京パブリッシングハウス, 2005年9月
- 神奈川県立近代美術館 葉山『作家たちの贈り物展—川端実、堀内正和、宮崎進、保田春彦、渡辺豊重、江田週、李禹煥など23人』2006年8月
- 杉本家住宅『Casa Sugimoto 2006』(財) 奈良屋記念杉本家保存会, Casa Sugimoto実行委員会, 2006年10月
- 東京藝術大学、NHKプロモーション『日本美術「今」展：絵画・彫刻・工芸：東京藝術大学創立120周年記念企画』2007年10月
- 『横浜トリエンナーレ2008カタログ time crevasse』2008年
- 京都造形大学ギャラリー・オーブ『戦争と芸術II—美の恐怖と幻影』2008年1月
- ふくやま美術館『ふくやま美術館20周年記念 20世紀の日本と西洋 マンズーから劉生までのコレクションの軌跡』2008年4月
- 加計美術館『遠くの画布 近くの絵 有るドローイングの“拡大と拡散”による受映膜の試み 2006-2007』『超拡大計画 中西夏之×五十嵐英之』企画, 2009年3月
- DIC川村記念美術館『静寂と色彩 月光のアンフラマンズ』DIC川村記念美術館, 2009年10月
- 府中市美術館『石子順造の世界 美術発・マンガ経由・キッチン行』2011年12月
- 慶應義塾大学アート・スペース『アート・アーカイヴ資料展VIII「土方巽+中西夏之 背面」展』慶應義塾大学アート・センター, 2012年5月
- ギャラリー58『自画像：九人の美術家による新作自画像と小品展 2012』2012年10月
- 足利市立美術館『画廊の系譜 浅川コレクションと1960～80年代日本の美術』2012年11月
- The Museum of Modern Art, New York, *Tokyo 1955-1970: A New Avant-Garde*, 2012.11
- 茨城県近代美術館『二年後。自然と芸術、そしてレクイエム』2013年3月
- 茨城県近代美術館『聖なるものへ ひそやかな祝祭』2013年11月
- 名古屋市美術館、渋谷区立松濤美術館『ハイレッド・センター「直接行動」の軌跡展』2013年11月
- 東京国立近代美術館『泥とジェリー』2014年1月
- 茨城県近代美術館『岡倉天心没後100年記念展 天心の思い描いたもの ぼかしの彼方へ』2014年2月
- Freer and Sackler Galleries, *Sōtatsu Making Waves*. Washington, D.C. : Arthur M. Sackler Gallery, Smithsonian Institution, 2015
- 岡山県立美術館『有為自然—岡崎和郎、伊勢崎淳、中西夏之展』2015年5月
- 東京都現代美術館『MOTコレクション 第1部 戦後美術クローズアップ 第2部 フランス・アリスと4つの部屋』2015年11月
- DIC川村記念美術館『美術は語られる 評論家・中原佑介の眼』2016年2月
- 名古屋商工会館『THE MIRROR Hold the Mirror up to nature』2016年6月
- 京都国立近代美術館『あの時みんな熱かった! アンフォルメルと日本の美術』2016年7月
- Paço Imperial *The Emergence of the Contemporary: Avant-Garde Art in Japan, 1950-1970*, 2016.7

- [別冊・翻訳版] 国際交流基金『The Emergence of the Contemporary : Avant-Garde Art in Japan, 1950-1970』2016年12月
- 沖縄県立博物館・美術館、長崎県美術館、熊本県立美術館、久留米市美術館、宮崎県立美術館、島根県立美術館『福岡市美術館・北九州市立美術館 名品コレクション 夢の美術館～めぐりあう名画たち～』2016年12月
- 松本市美術館『堤清二 セゾン文化、という革命をおこした男。』2017年4月
- DIC川村記念美術館『静かに狂う眼差し—現代美術覚書』2017年7月
- 名古屋市美術館、横浜美術館『モネ それからの100年』2018年4月
- 武蔵野美術大学美術館・図書館『ドローイング—内なる水脈の解放—』2018年5月
- DIC川村記念美術館『言語と美術—平出隆と美術家たち』2018年12月
- DIC川村記念美術館『描く、そして現れる—画家が彫刻を作るとき』2019年9月
- 東京都現代美術館『光みつる庭 途切れないささやき』2022年3月
- 東京国立近代美術館、大阪中之島美術館、パリ市立近代美術館『TRIO : Modern art collections from Paris, Tokyo and Osaka = パリ・東京・大阪 : モダンアート・コレクション』2024年5月
- gallery21yo-j『40年後の「空白の 粒子の中へ 兆みる。」』2024年10月
- ギャラリー58『自画像 : Reflections』2024年11月
- 碧南市藤井達吉現代美術館『足利市立美術館所蔵・浅川コレクション 夢を追いかけた“前衛”の鼓動』2025年1月
- 東京都現代美術館『開館30周年記念 MOTコレクション マルチプル_セルフ・ポートレート 中西夏之 池内晶子—弓形とカタナリ—』2025年12月

2-c 図録その他 (出品はしていないが、中西への言及があるもの)、シンポジウム記録集

- 三重県立美術館『三重の美術・現代展』1982年9月
- 東京都美術館『現代美術の動向 3』1984年10月
- 世田谷区立世田谷美術館『世田谷の美術 : 世田谷美術館所蔵作品展 前期展・後期展』1986年3月
- 多摩美術大学、西武美術館『もの派とポストもの派の展開 : 1969年以降の日本の美術』1987年6月
- 福井県立美術館『福井の美術・現代 vol.1 [2] 小島信明』1990年7月
- 広島市現代美術館ほか『篠原有司男展』1992年1月
- セゾン現代美術館『宇佐美圭司回顧展—世界の構成を語り直そう』1992年2月
- 渋谷区立松濤美術館『三木富雄 特別展』1992年12月
- セゾン美術館、徳島県立近代美術館『「色彩」としてのスフィンクス—加納光於』1993年1月
- 刈谷市美術館『奥谷博展—現代の黙示録』1993年1月
- 山種美術館『近代日本画への招待III —戦後日本画の展開—』1993年2月
- 『70年代日本の前衛 抗争から内なる葛藤へ』1993年3月
- 板橋区立美術館『「再制作と引用」展 : 特別展 (シリーズArt in Tokyo no.5)』1993年9月
- 福岡市美術館『流動する美術III ネオ・ダダの写真』1993年11月
- 三鷹市美術ギャラリー『日本の自画像展「私」を視る私』1994年9月
- 伊丹市立美術館『谷川晃一デッサン展』1994年10月
- 福岡県立美術館『現代美術の展望—'94Fukuoka 七つの対話 スタンスをめぐって』1994年10月
- 国立国際美術館『工藤哲巳回顧展 異議と創造』1995年1月
- 東京都写真美術館『メタ・メディア : 飯村隆彦のメディア・インスタレーション 総合開館記念展』1995年1月
- 目黒区美術館『戦後文化の軌跡 : 1945-1995』1995年5月
- 富山県立近代美術館『富山国際現代美術展 第6回』1996年7月
- 大分市アートプラザ『アートプラザ開館記念展 ネオ・ダダJAPAN 1958-1998 —磯崎新とホワイトハウスの面々—』1998年2月
- 富山県立近代美術館、渋谷区立松濤美術館『瀧口修造の造形的実験』2001年7月
- 府中市美術館、北九州市立美術館『高松次郎—思考の宇宙』2004年6月
- 『国立国際美術館新築移転一周年記念 連続シンポジウム 野生の近代 再考—戦後日本美術史 記録集』2006年3月
- Art, Anti-Art, Non-Art : Experimentations in the Public Sphere in Postwar Japan, 1950-1970, Getty Research Institute, 2007
- 『引込線 : 所沢ビエンナーレ・ブレ美術展』2008年10月
- 森美術館『六本木クロッシング2013展 : アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために』2013年9月
- 国際交流基金『シンポジウム記録集 戦後日本美術の新たな語り口を探る—ニューヨークと東京、二つの近代美術館の展覧会を通して見えてくるもの』2014年3月
- 東京国立近代美術館『高松次郎ミステリーズ』2014年12月
- 新潟県立近代美術館、国立国際美術館、東京都現代美術館『Viva Video! 久保田成子』2021年6月
- 町田市立国際版画美術館『彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動—』2022年4月
- 横浜美術館、国立現代美術館 (韓国)『いつもとに在るから 日本と韓国、アートの80年』2026年1月
- 静岡県立美術館『中村宏展 アナクロニズム (時代錯誤) のその先へ』2026年3月

3. コレクション・カタログ等

- 滋賀県立近代美術館『滋賀県立近代美術館所蔵品目録 1984年—現代美術』1984年
- 東京都美術館『東京都美術館収蔵作品図録 1985-1』1985年
- 国立国際美術館『国立国際美術館所蔵品目録 彫刻篇 1977~1987』1987年
- 大原美術館『大原美術館II (現代絵画と彫刻)』1987年
- 高松市美術館『高松市美術館所蔵品目録』1988年

- 目黒区美術館『目黒区美術館所蔵作品目録』1988年
- 広島市現代美術館『広島市現代美術館所蔵作品図録』1989年
- 北九州市立美術館『新収蔵品展 昭和61・62・63年度』1989年
- 練馬区立美術館『練馬区立美術館所蔵品図録 1990年版』1990年
- 東京国立近代美術館『東京国立近代美術館所蔵品目録 絵画1991』1991年
- 大原美術館『大原美術館所蔵品目録: 1920-1990』1991年
- ふくやま美術館『ふくやま美術館所蔵品目録』1991年
- 北九州市立美術館『北九州市立美術館コレクション1974-1991絵画』1992年
- 愛知県美術館『愛知県美術館所蔵作品選』1992年
- 三重県立美術館『三重県立美術館所蔵品目録 1992年版』1992年
- 広島市現代美術館『広島市現代美術館所蔵作品図録: 1985~1988 第2版』1992年
- 福岡市美術館『福岡市美術館所蔵品目録 近現代美術』1992年
- 愛知県美術館『愛知県美術館所蔵作品目録』1993年
- 国立国際美術館『国立国際美術館所蔵品目録(絵画篇)』1993年
- 滋賀県立近代美術館『滋賀県立近代美術館名品選・現代美術』1994年
- 高松市美術館『高松市美術館収蔵品図録2』1994年
- 新潟市美術館『新潟市美術館所蔵作品選』1994年
- 大阪市立近代美術館(仮称) 準備室『大阪市立近代美術館(仮称) 所蔵作品選II』1994年
- いわき市立美術館『いわき市立美術館コレクション100』1995年
- 国立国際美術館『国立国際美術館所蔵品目録 水彩・素描篇 1977~1994』1995年
- 東京都現代美術館『東京都現代美術館収蔵作品選1995』1995年
- 千葉市美術館『千葉市美術館所蔵作品選』1995年
- 東京国立近代美術館『東京国立近代美術館 ギャラリーガイド近代日本美術の名作』1997年
- 愛媛県美術館『愛媛県美術館所蔵作品選』1997年
- 愛知県美術館『近代美術の100年 愛知県美術館のコレクション』1998年
- 大分市美術館『大分市美術館所蔵品選』1999年
- 高松市美術館『高松市美術館所蔵品図録III』1999年
- 名古屋市美術館『名古屋市美術館所蔵作品総目録1999』1999年
- 横浜美術館『横浜美術館所蔵品目録1989-1999』2000年
- 富山県立近代美術館『Collection III』2001年
- 宇都宮美術館『宇都宮美術館 収蔵作品目録2005』2006年
- 高松市美術館『いま知りたい、私たちの「現代アート」 高松市美術館コレクション選集』2016年
- 宇都宮美術館『開館25周年記念出版 宇都宮美術館所蔵作品選『doors: the collection 1997-2022』2022年

4. 単行本

4-a 作家論

- 中原佑介『ミイラのエロス=中西夏之・荒川修作』『ナンセンスの美学』現代思潮社, 1962年7月, pp.91-98
- 飯島耕一『中西夏之小論』(再録)『私有制にかんするエスキス付・ランボー論』思潮社, 1970年7月
- 石子順造『中西夏之論—無産性の自己膨脹欲』『表現における近代の呪縛』川島書店, 1970年12月, pp.37-54
- 谷川晃一『形而上学と絵画』(再録)『幻視とアラベスク』大和文庫, 1975年6月, pp.27-36
- 谷川晃一『視覚化された関係の論理 中西夏之』(再録)『絵画的理解 谷川晃一美術論集』昭和出版, 1977年7月, pp.101-105
- 米倉守『精神のシンメトリー『山頂の石蹴り』中西夏之』(再録)『個の創意 現代美術の現場から』形象社, 1983年3月, pp.461-475
- 馬場駿吉『中西夏之—ナカニシ彗星の軌道』(再録)『液晶の虹彩』書肆山田, 1984年6月, pp.80-89
- 谷川晃一『中西夏之』『毒曜日のギャラリー』リプロポート, 1985年10月, pp.35-41, 77-78, 85-86, p.53, 68, 90, 139, 145, 198
- 宇野邦一『痕跡と境界 中西夏之の仕事場から』(再録)『風のアポカリプス』青土社, 1985年12月, pp.190-204
- 豊崎光一『中西夏之 ナツユキNakanishi』(再録)『文手箱』書肆風の薔薇, 1986年
- 芦田みゆき『破かれた透明なベール—中西夏之の絵画について』『水色の卵』砂の会, 1986年12月, n.pag.
- 芦田みゆき『記憶の夏 詩集』昭森社, 1987年4月
- 白川昌生『ハイ・レッド・センターについて(中西夏之)』『日本のダダ 1920-1970』書肆風の薔薇, 1988年10月
- 清水哲朗『「中西夏之ノート」へあとがきにかえて』『中西夏之ノート』西武美術館, 1989年, pp.136-137
- 清水哲朗『展覧会という機構の総合性について』『新しいミュージエオロジーを探る 西武美術館からセゾン美術館へ』リプロポート, 1989年10月, p.27, 54, 66, 179, 264, pp.56-65
- 千葉成夫『中西夏之一持続』『美術の現在地点』五柳書院, 1990年3月, p.76, pp.225-228
- 菅原猛『中西夏之』『現代美術への招待』新評論, 1991年5月, p.184, 185, 322, 331, 373, 374, 376
- 酒井忠康『七人の画家と素描 7 中西夏之』(再録)『奇妙な画家たちの肖像』形文社, 1991年9月, pp.272-274
- 菅原教夫『中西夏之 絵画の「起源」へ』(再録)『日本の現代美術』丸善ブックス, 1995年
- 井澤賢隆『中西夏之一現出する絵画』『学問と悲劇「ニーチェ」から「絶対演劇」へ』情況出版, 1998年2月
- 種村季弘『感性の耳—八〇年代の中西夏之』『共演する空間—中西夏之』(再録)『奇想の展覧会 戯志画人伝』河出書房新社, 1998年7月, pp.13-20
- 巖谷國士『中西夏之』『封印された星 瀧口修造と日本のアーティストたち』平凡社, 2004年12月, pp.110-118

- 白川昌生「ハイ・レッド・センターについて(中西夏之)」『日本のダダ 1920-1970 増補新版』水声社, 2005年6月
- 土方巽「白いテーブルクロスがふれて—中西夏之 対談」, 「風だるま『講演』」, 「東北から裸体まで—土方巽の遺言(聞き手: 山口猛)」『土方巽全集II 普及版』河出書房新社, 2005年8月
- 白倉敬彦「中西夏之のこと」『夢の漂流物(エパージュ) 私の70年代』みすず書房, 2006年8月, p.113, pp.125-126, 143-162
- 林道郎「絵画は二度死ぬ、あるいは死なない ⑤中西夏之—Art Seminar Series 2002-2003」ART TRACE, 2007年3月
- 中原佑介「ミラのエロス 中西夏之・荒川修作」(再録)『中原佑介美術批評選集 第3巻 前衛のゆくえ—アンデパンダン展の時代とナンセンスの美学』現代企画室 + BankART 1929, 2012年4月, p.51, 79, 106, 156, pp.217-222
- 北澤憲昭「反覆する岡本太郎—あるいは『絵画のテロル』」水声社, 2012年11月, pp.155-180
- 谷川渥「芸術表層論—批評という物語」論創社, 2017年11月

4-b その他

- 東野芳明「『狼と少年』の展覧会・ローマ対トーキョー」『パスポートNo.328309』三彩社, 1962年3月, pp.292-307
- 『アンフォルメル以後 日本の美術はどう動いたか』美術出版社, 1964年, p.61, 91, 92
- 河北倫明編『世界美術全集 別巻 戦後美術』角川書店, 1964年, p.184
- 針生一郎「われらのなかのコミュニオン 現代芸術と大衆」晶文社, 1964年, p.118 (『美術手帖』1961.1「危機のなかの前衛群」再録)
- 大岡信「眼・ことば・ヨーロッパ 明日の芸術(美術選書)」美術出版社, 1965年, p.214
- 建島寛造ほか『彫刻をつくる(新・技法シリーズ)』美術出版社, 1965年, p.89
- 針生一郎『現代美術のカルテ』現代書房, 1965年, p.72, 90, 140, 141, 182, 185, 262
- 宗左近『美術の現代的状況 芸術の中の日本(今日の状況叢書6)』芳賀書店, 1965年, p.42
- JAPANESE ART TODAY Japanese National Committee, 1965.3
- 中原佑介『現代彫刻』角川書店, 1965年7月, pp.118-119
- 深沢七郎『人間滅亡の唄』徳間書店, 1966年, p.194
- 寺田透『日本の美術 第25巻 世界の中の日本美術』平凡社, 1966年, p.80
- 大岡信『文明のなかの詩と芸術』思潮社, 1966年, p.41
- 山口勝弘『不定形美術ろん』学芸書林, 1967年, p.211, 213, 214
- 『新しい素材と技法 新造形読本』美術出版社, 1967年, p.21
- 高橋和巳編『文学のすすめ(学問のすすめ6)』飯島耕一「二つのものを結ぶ力—新しい方法を求めて—」筑摩書房, 1968年, p.269
- 田中一光「横尾忠則の人と作品」粟津潔 編『横尾忠則遺作集』学芸書林, 1968年3月, p.115
- 深沢七郎「物と事—オフ・ミュージアム展に出品して—」『深沢七郎選集 第1巻』大和書房, 1968年3月, p.222
- 「千円札事件日録」金坂健二ほか編『アンダーグラウンド・ジュネレイション 地下の世代』ノーベル書房, 1968年6月, n.pag.
- 篠原有司男「前衛の道」『前衛の道』美術出版社, 1968年6月, p.99
- 中原佑介「解説にかえて—コラーージュふうな戦後美術の歩み 一九五六~六七—」『前衛の道』美術出版社, 1968年6月, p.222, 223, 225, 226, 230, 231, 234, 239
- 飯島耕一「ことばの世界と「私自身の現場」」『詩について』思潮社, 1968年11月, p.80, 82
- 栗田勇「栗田勇著作集4 劇的な空間・建築の展開」新書館, 1969年, p.481
- 藤枝晃雄「現代美術の状況と論理」『空間の論理 日本の現代美術』ブロンズ社, 1969年, pp.117-119, p.129
- 『ドキュメント日本人 第10 法にふれた人』学芸書林, 1969年1月, p.263
- 「松本はるみ」東京イラストレーターズ・クラブ 編『年鑑イラストレーション 1968』講談社, 1969年2月, n.pag.
- 袖木伸一「いけにえの美学」雄渾社, 1969年3月, p.155
- 石子順造「現代美術と性の思想」『性の思想』太平出版社, 1969年6月, pp.166-192
- 飯村隆彦「芸術と非芸術の間」三一書房, 1970年, p.65, 69, 175
- 伊東守男『ブラックユーモア』読売新聞社, 1970年, p.258
- 岡田隆彦『危機の結晶 現代美術覚え書』イザラ書房, 1970年, p.92, 138, 213, 239
- 岡田隆彦『幻影的現実のゆくえ』田畑書店, 1970年, pp.61-67
- 加藤郁乎『遊牧空間』三一書房, 1970年, p.383
- 『現代マンガ悲歌 対話録』赤瀬川原平、石子順造「画家からマンガ家へ」青林堂, 1970年, p.192
- 富岡多恵子「高松次郎」『行為と芸術 十三人の作家』美術出版社, 1970年, p.104
- 刀根康尚「現代芸術の位相 芸術は思想たりうるか」田畑書店, 1970年, p.6
- 針生一郎「危機の中の前衛群」『芸術の前衛(現代芸術論叢書)』弘文堂, 1970年, p.189
- 針生一郎「危機の中の前衛群」『針生一郎評論 第4(歴史の辺境)』田畑書店, 1970年, p.242
- 赤瀬川原平『オブジェを持った無産者』現代思潮社, 1970年5月, pp.15-24, 51-52, p.76, 148, 190, 358, 361
- 『現代美術家事典』美術出版社, 1970年9月, p.247
- 三木多聞「60年代の日本美術」『現代美術家事典』美術出版社, 1970年9月, pp.231-234
- 嵐山光三郎、赤瀬川原平「金メッキ野郎の発想」『キツチュ まがいもの時代』ダイヤモンド社, 1971年, p.121
- 『井上洋介画集』金井美恵子「ネクロフィールの世界」学芸書林, 1971年, p.67
- 上野昂志『沈黙の弾機 上野昂志評論集』青林堂, 1971年, p.27, pp.196-198
- 種村季弘「包装の論理」赤瀬川原平「あいまいな海(絵次元)」大門出版美術出版部, 1971年, n.pag.
- 李禹煥「認識から知覚へ—高松次郎論 II ハイレッド・センターと「反實在性」」『出会いを求めて—新しい芸術のはじまりに』1971年7月, 田畑書店, pp.88-92
- 石崎浩一郎「個人映画のための個人的覚え書き 訳者あとがきにかえて」『アメリカの実験映画<フィルム・カルチュア>映画論集』フィルムアート社, 1972年, p.297
- 赤瀬川原平『追放された野次馬 思想的変質者の十字路』現代評論社, 1972年, p.76, 82, 84
- 石崎浩一郎『映像の魔術師たち 恐怖幻想映画論』三一書房, 1972年, pp.233-234
- 『現代の美術11』講談社, 1972年, p.24, 48, 127, 128

- 東松照明『I am a king 東松照明写真集』写真評論社, 1972年, n.pag.
- 中原佑介『ミイラのエロス=中西夏之・荒川修作』『ナンセンス芸術論』(再録) フィルムアート社, 1972年, pp.65-69
- 中原佑介『見ることの神話』フィルムアート社, 1972年
- 中原佑介『人間と物質のあいだ 現代美術の状況』田畑書店, 1972年, p.82, 84, 87, 189, 203, 205
- ヨシダヨシエ『戦後前衛所縁荒事十八番』ニトリヤ書房, 1972年, p.109, 110, 135, 147, 149, 169, 208
- 東野芳明編『art now 現代の美術6主張するオブジェ』講談社, 1972年1月, p.51
- 針生一郎編『art now 現代の美術11行為に賭ける』講談社, 1972年4月, p.24
- 宗左近『恍惚の王国 宗左近芸術論集』朝日出版社, 1973年, p.215, 230, 369
- 日向あき子『ポップ文化論 都市化時代における日常性へのオマージュまたは思考と感性の未来学』ダイヤモンド社, 1973年, p.66, 113
- 赤瀬川原平『桜画報・激動の千二百五十日 赤瀬川原平資本主義共和国』青林堂, 1974年, p.353
- 『現代美術小事典 人工自然の向う側へ (Mini encyclopedia 4)』PARCO出版局, 1974年, p.115
- 白石かずこ『ブラックの朝』思潮社, 1974年, p.211
- 種村季弘『物体の軌跡』『シュールレアリスム宣言/溶ける魚』学芸書林, 1974年, 葉
- The Japan Foundation, *ART IN JAPAN TODAY*, 1974.3
- 赤瀬川原平『第十番 男の役』『夢泥棒』学芸書林, 1975年, pp.258-261
- 宗左近『中西夏之』『芸術家まんだら 世阿弥から野坂昭如まで』読売新聞社, 1975年, pp.216-222
- 武満徹『樹の鏡、草原の鏡』新潮社, 1975年, p.188
- 『三好豊一郎詩集』吉岡実『奇妙な日のこと』サンリオ, 1975年, 葉
- 清水徹編『これは本ではない』エディシオンエバーク, 1975年7月, p.17, 49, 52, 53
- 飯島耕一『優雅な哲学者土方巽』『日本雑居録』北洋社, 1976年, p.17
- 磯崎新対談『建築および建築外的思考』鹿島出版会, 1976年, p.222
- 大岡信『年魚集 文学的断章』青土社, 1976年, p.234
- 大岡信『芸術と自然』『大岡信著作集 第11巻』青土社, 1977年, p.220
- 金井美恵子『紅茶について』『添寝の悪夢 午睡の夢』中央公論社, 1976年, pp.257-258
- 庄野潤三ほか『私の中の日本人』大岡信『瀧口修造』新潮社, 1976年, p.57
- 吉増剛造『わたしは燃えたつ蜃気楼』小沢書店, 1976年, p.109
- 巖谷國士『本のオブジェ—書物・空虚・時間』『シュールレアリスムと芸術』河出書房新社, 1976年12月, p.260
- 飯島耕一『塔と蒼空』昭森社, 1977年2月, pp.196-197
- 金井美恵子『夜になっても遊びつづける (講談社文庫)』講談社, 1977年2月, p.254 (『ネクロフィールの世界—井上洋介画集』再録)
- 赤瀬川原平『桜画報大全』青林堂, 1977年7月, p.353 (『桜画報・激動の千二百五十日』再録)
- ヨシダヨシエ『流氓の解放区 ヨシダヨシエ評論集』現代創美社, 1977年7月, p.25, 26, 31, 122, 123, 275
- 針生一郎『今日の日本の絵画』『現代の絵画 23』平凡社, 1977年8月, p.17
- 本間正義『近代彫刻』『文化財講座日本の美術8』第一法規出版, 1977年9月, p.134
- 鈴木志郎康『机上で浮遊する 日常的現代詩』思潮社, 1977年11月, p.188
- 宗左近『私説戦後美術史 (芸術叢書)』美術公論社, 1978年3月, p.125, 306
- 板折久美子『製本工房から』冬樹社, 1978年6月, p.42
- 瀬木慎一『現代美術の三十年 国際化時代の証言』美術公論社, 1978年11月, p.35
- 三木多聞編『原色現代日本の美術 13 彫刻』小学館, 1979年1月, p.172
- 種村季弘『書物漫遊記』筑摩書房, 1979年1月, p.108
- 『日比谷高校百年史 上巻』日比谷高校百年史刊行委員会, 1979年3月, p.529
- 針生一郎『戦後美術盛衰史』東京書籍, 1979年3月, p.121, 126, 145, 148, 149, 151, 156, 178
- 長尾一雄『唐十郎のズボンとマント』『唐十郎の世界』新評社, 1979年5月, p.100
- 森永純『ほか述』『写真論と写心論 シャッター音の残響に遊星の郷愁を求めて』工作舎, 1979年5月, p.37
- 金井美恵子『紅茶について』(再録)『添寝の悪夢 午睡の夢 (中公文庫)』中央公論社, 1979年7月, pp.257-258
- 大岡信『アメリカ草枕』岩波書店, 1979年10月, p.11
- 乾由明編『原色 現代日本の美術 18 明日の美術』小学館, 1980年11月, p.23, 33, 44, 85, 111, 161, 190, 213
- 『新選天沢退二郎詩集 (新選現代詩文庫 119)』思潮社, 1980年3月, p.114 (エッセイ『牧神』11号, 1977.12再録)
- 池田龍雄『わたしにとってシュールレアリスムとは何か』『絵画の距離 キャンパスの裏から』創成社, 1980年3月, p.66, 68
- 『宮川淳著作集1』美術出版社, 1980年5月, p.623
- 田中一光『デザインの周辺』白水社, 1980年6月, p.218
- 『日本の美術25』(第2版) 平凡社, 1980年6月, p.80, 163
- 『滝口修造 (現代詩読本15)』思潮社, 1980年6月, p.274, 280
- 岡実『奇妙な日のこと—三好豊一郎』『「死児」という絵 随想集』思潮社, 1980年7月, p.284
- 河北倫明、土方定一監修『原色現代日本の美術 10 現代の洋画』小学館, 1980年8月, p.180, 217
- 小林昭夫編『関根伸夫 演習ゼミ』『現代美術の基礎 '70年代現代美術学習ドキュメント』アサヒ書房, 1980年8月, p.87
- 『宮川淳著作集2』美術出版社, 1980年10月, p.62, 63, 78, 95, 112
- 河北倫明、土方定一監修『原色現代日本の美術 18 明日の美術』小学館, 1980年11月, p.23, 33, 44, 85, 111, 161, 190, 213
- 『朝日百科 世界の美術8』朝日新聞社, 1981年, p.216
- 『朝日百科 世界の美術14』朝日新聞社, 1981年, p.241
- 谷川晃一『視線はいつもB級センス 脱意味の美術 1979-1981 (踏分道としての戦後)』現代企画室, p.22, 23, 232
- 西村画廊『西村画廊 展覧会記録1974.6-1981.2』西村画廊, 1981年, p.5
- 種村季弘『食物漫遊記』筑摩書房, 1981年3月, pp.14-15

- 山口勝弘『360°』六耀社, 1981年4月, p.35, 158
- 宮野澄『知的生活の時刻表 会社の時間にしばられるな』日本法令 [様式販売所], 1981年6月, p.147
- 吉増剛造『中西夏之の磁場を歩く』『螺旋形を想像せよ』小沢書店, 1981年6月, pp.217-221
- 北村由雄『現代画壇・美術記者の眼 1960-1980 (踏分道としての戦後)』現代企画室, 1981年7月, p.42, 70, 96, 99, 147, pp.307-310 (『ビジョン』1977.3「さんしきすみれの魅惑について」再録)
- 北川フラム責任編集『私ではなく、不知火の海が <表現に力ありや> 全展開映画「水俣の凶・物語」(踏分道としての戦後)』鈴木志郎康「事実と想像力の問題点」現代企画室, 1981年9月, p.279
- 雪雄子『においの彼方へ』『舞い舞いlove 闊する白き舞姫たち 鈴蘭党写真集』たざわ書房, 1981年10月, p.35
- 辻井喬『同時代の音・沈黙』『武満徹 音楽の手帖』青土社, 1981年10月, p.183
- 尾辻克彦/赤瀬川原平『本物そっくりの夢』筑摩書房, 1981年11月, p.238
- 谷川雁ほか『ピーター・パンの世界』テーマ活動文庫刊行会, 1981年11月, p.20
- 滝口修造『余白に書く1』みすず書房, 1982年, p.47
- 滝口修造『余白に書く2』みすず書房, 1982年, p.113, 373, pp.263-266
- 辻井喬『深夜の読書』新潮社, 1982年1月, p.166
- ヨシダ・ヨシエ『解体劇の幕降りて 60年代前衛美術史』造形社, 1982年1月, p.9, 18, 101, 102, 118, 125, 126, 139, 162
- 酒井忠康『彫刻の庭: 現代彫刻の世界』小沢書店, 1982年2月, p.275
- 大江健三郎ほか編『叢書文化の現在9 (美の再定義)』岩波書店, 1982年3月, p.127
- 鈴木志郎康『映画の弁証: 性と欲望のイメージ』フィルムアート社, 1982年3月, p.25, 303
- 中原佑介『現代彫刻』美術出版社, 1982年6月, pp.104-105
- 白石かずこ『Jazzに生きる: わたしの内なる異邦人の旅 (旺文社文庫)』旺文社, 1982年7月, p.225
- 朝日新聞社編『ユニークな美術館めぐり (新潮選書)』新潮社, 1982年8月, pp.141-142
- 赤瀬川原平『純文学の素』白夜書房, 1982年8月, p.19
- 尾辻克彦『優柔不断読本』文芸春秋, 1982年8月, pp.128-132, 177-179, p.192
- 『東京国立近代美術館30年の歩み 1952-1982』東京国立近代美術館, 1982年9月, n.pag.
- 『芥川賞全集 第12巻』『尾辻克彦 年譜』文芸春秋, 1983年1月, pp.449-451
- 椎名誠『男たちの真剣おもしろ話』実業之日本社, 1983年2月, p.180
- 國吉和子、合田成男編『土方巽作品目録附・関連作品』(私家版) 1983年3月
- 秋山さと子、尾辻克彦『異次元が漏れる 偶然論講義』朝日出版社, 1983年6月, pp.86-89
- 谷川雁『ネコの『してやったり』』『意識の海のものがたりへ』日本エディタースクール出版部, 1983年6月, p.142
- 北村由雄『現代画壇・美術記者の眼 1960-1983 増補改訂版 (踏分道としての戦後)』現代企画室, 1983年7月, p.42, 70, 96, 99, 147, pp.307-310 (『ビジョン』1977.3「さんしきすみれの魅惑について」再録)
- 『日本戦後美術研究』日本戦後美術研究会, 1983年7月
- 羽永光利写真集『舞踏—肉体のシュルレアリストたち』現代書館, 1983年8月
- The Japan Foundation, *ART IN JAPAN TODAY II 1970-83*, 1984
- Jean-Louis Pradel, *Art 83/84 Panorama Mondial de l'Art Contemporain*, Chêne, 1984, p.20
- 金井一孝『コトノと造形』(私家版) 1984年1月
- 伊藤隆康『無限空間 伊藤隆康作品集』六耀社, 1984年2月, p.100, 112, 116, 117
- 尾辻克彦『野次馬を見た!』筑摩書房, 1984年2月, p.45
- 赤瀬川原平『東京ミキサ計画 ハイレッド・センター直接行動の記録』PARCO出版, 1984年3月
- 『相原求一朗画集』講談社, 1984年3月, p.169
- 佐藤忠雄『画廊にて 現代絵画収集三十五年の軌跡』書苑, 1984年4月, p.13
- エドワード・ルーシー=スミス、石崎浩一郎『現代の美術』講談社, 1984年6月, p.527
- 大川栄二『美の経済学』東洋経済新報社, 1984年7月, p.167
- 高田宏『五十歳、いざ!』新潮社, 1984年7月, p.57
- 藤沢典明『造形教育のこれから: 私の造形教育論』サクラクレパス出版部, 1984年8月, p.218
- 村松友視『夢の始末書』角川書店, 1984年8月, p.256
- 『現代美術事典 アンフォルメルからニューペインティングまで』美術出版社, 1984年8月, p.19, 40, 61, 71, 80, 95, 103
- 酒井忠康ほか編『現代の水彩画5』第一法規, 1984年10月, pp.78-79
- 大岡信『ミクロコスモス滝口修造』みすず書房, 1984年12月, p.186
- 鍵谷幸信『サティ ケージ デュシャン 反芸術の透視図』小沢書店, 1984年12月, p.139
- 赤瀬川原平『いまやアクションあるのみ! (読売アンデパンダン)』という現象 (水星文庫)』筑摩書房, 1985年1月, pp.179-187, p.199, 209, 223
- 高級芸術協会編著『高級芸術宣言』JICC出版局, 1985年1月, p.71
- 椎名誠『尾辻克彦』『男たちの真剣おもしろ話 (角川文庫)』角川書店, 1985年1月, p.193
- 『中西夏之』『所蔵品鑑賞の手引き 現代美術』サンブライ出版, 1985年3月, pp.198-203
- 『志水楠男と南画廊』『志水楠男と南画廊』刊行会, 1985年3月
- 『近代日本洋画素描大系5』講談社, 1985年3月, pp.3-11, p.208
- 全国美術館会議編『軽井沢高輪美術館「全国の美術館 (美術ガイド)」』美術出版社, 1985年3月, p.162
- 月刊『アクロス』編集室 編・著『いま、超大衆の時代 新商品環境論』PARCO出版, 1985年4月, p.196
- 大岡信『抽象絵画への招待 (岩波新書)』岩波書店, 1985年5月, p.159, 160, 182
- 『日本現代美術 since1950 彫刻 (Masterpieces in the museum)』形象社, 1985年5月, pp.14-15
- 丹生谷貴志『高松次郎』『天使と増殖 Ding an sich』朝日出版社, 1985年6月, p.88
- 秋山祐徳太子『通俗的芸術論 ポップ・アートのたたかい』土曜美術社, 1985年7月, p.56, 219

- 月刊『アクロス』編集室 編・著『新人類がゆく。感性差別化社会へ向けて ニュータイプ若者論』PARCO出版, 1985年9月, p.211
- 赤瀬川原平『桜画報大全(新潮文庫)』(再録) 新潮社, 1985年10月, p.530
- 秋山邦晴『文化の仕掛人 現代文化の磁場と透視図』青土社, 1985年10月, p.404, 409, 411, 426, 430, 431, 440
- 嵐山光三郎『口笛の歌が聴こえる』新潮社, 1985年10月, p.38, 154, 176, pp.93-99
- 谷川晃一『短文楽園 コラムパラダイス』洋泉社, 1985年10月, p.51, 60, 66, 78, 93, 94, 96
- 『滝口修造(現代詩読本 新装版)』思潮社, 1985年10月, p.274, 280
- 『日本現代美術 since1950 絵画 3 (Masterpieces in the museum)』形象社, 1985年10月, p.15, 124, 125, 183
- 『セリ・サンプル3 金井美恵子・金井久美子の部屋』旺文社, 1985年11月, p.74, 79, 204, 206, 207, 213
- INAXギャラリー企画委員会『建築の忘れがたみ 一木努コレクション (INAX BOOKLET Vol.5 No.4)』INAX東京ショールーム, 1985年12月, p.38
- 関根伸夫『半自伝 美術と都市と絵空事』PARCO出版局, 1985年12月, p.159
- 種村季弘『好物漫遊記』筑摩書房, 1985年12月, p.47, 172
- 種村季弘『食物漫遊記(ちくま文庫)』(再録) 筑摩書房, 1985年12月, pp.14-15
- ビットイン20年史編纂委員会編『新宿ビットイン』晶文社, 1985年12月, p.216
- 安原顕『尾辻克彦』『なぜ「作家」なのか』講談社, 1985年12月, p.157
- 島敦彦『ARTISTS IN TOYAMA & TOKYO』1986年
- 尹学準ほか編『韓国を読む:こんなに知らないとなりの国』集英社, 1986年2月, p.115
- 千葉成夫『ハイレッドセンターから「環境芸術」へ』『現代美術逸脱史 1945~1985』晶文社, 1986年3月, p.69, 73, 75, 78, 207, pp.87-98
- 相賀徹夫編著『日本大百科全書 8』小学館, 1986年3月, p.416, 417, 422
- 『全国ギャラリーガイド』ビジョンシステムプランニング, 1986年4月, p.47, 79, 147
- 赤瀬川原平『路上観察学入門』筑摩書房, 1986年5月, p.29
- 種村季弘『書物漫遊記(ちくま文庫)』(再録) 筑摩書房, 1986年5月, pp.120-121
- 伊東順二『現在美術 Art in Front』PARCO出版局, 1986年5月, p.261
- 上野昂志監修『昭和かわら版 32ジャンルでみる世相の流れ「記入式」ひと目でわかる世代年表』実務教育出版, 1986年6月, p.230
- 飯村隆彦『映像実験のために テキスト・コンセプト・パフォーマンス』青土社, 1986年6月, p.285, 288
- 吉増剛造『緑の都市、かがやく銀』小沢書店, 1986年6月, 附録初出一覧p.6
- 土井典『葡萄色の乳房』ペヨトル工房, 1986年6月, pp.78-81
- 菊畑茂久馬『反芸術綺談』海鳥社, 1986年7月, p.44, 64, 70, 90, 91, 149, 194
- ヨシダ・ヨシエ『エロスと創造のあいだ 22人の美術家との対話』展転社, 1986年7月, p.174
- 『原色図典 日本美術史年表』集英社, 1986年7月, p.421, 476, 510, 523, 563
- 尾辻克彦『東京路上探険記』新潮社, 1986年7月, pp.90-91, 130-140
- 白石かずこ『風景が唄う』音楽之友社, 1986年7月, p.11
- 内田健三ほか編『言論は日本を動かす 第9巻』講談社, 1986年8月, p.155
- 村松友視『旅を道づれ チェーン・トラベラー』筑摩書房, 1986年9月, p.178
- 米倉守『早すぎた夕映 評伝有元利夫』講談社, 1986年9月, p.83
- 『現代日本人物事典:20世紀Who's who』旺文社, 1986年11月, p.751
- 宮城県美術館『普及活動の記録 1981-1985』1986年11月, p.85, 88
- 菊地信義『装幀=菊地信義 本の肖像 書物のドラマ』フィルムアート社, 1986年12月, p.6, 12, 86,
- 種村季弘編『東京百話 天の巻(ちくま文庫)』尾辻克彦『並木通りの超掃除』筑摩書房, 1986年12月, p.63
- 渡辺英綱『新宿ゴールデン街』晶文社, 1986年12月, p.193
- 土方巽『美貌の青空』筑摩書房, 1987年1月, pp.244-245, 菜(大野一雄「語り合い」)
- 松浦寿輝『スローモーション』思潮社, 1987年1月, p.298
- 『危機に立つ肉体 土方巽舞踏写真集』PARCO出版, 1987年1月, p.17, 20, 24, 34, 35
- 『日本の美術館 10』ぎょうせい, 1987年1月, p.37
- 山崎浩一『なぜなにキーワード図鑑(新潮文庫)』新潮社, 1987年2月, p.201
- 瀬木慎一『世紀の大画商たち』駸々堂出版, 1987年2月, p.314
- 横尾忠則『横尾忠則の画家の日記 1980-1987』アートダイジェスト, 1987年2月, p.630, 767, 808
- 『ザ・リアル・イラストレーション2』グラフィック社, 1987年3月, p.157
- 尾辻克彦『優柔不断読本(文春文庫)』文芸春秋, 1987年4月, p.156, 216, 232
- 石子順造『石子順造著作集 第2巻(イメージ論)』喇嘛舎, 1987年4月, p.151, 155, 168, 196, 206, 209, 334, 338, 461, pp.247-248, 310-326
- 芦田みゆき『詩集 記憶の夏』昭森社, 1987年4月, pp.33-35, 102-118(「破かれた透明なベール」再録)
- 四方田犬彦『哲学書簡』哲学書房, 1987年4月, p.36
- 嵐山光三郎編『現代都会語事典』講談社, 1987年4月, p.12
- 中原佑介『現代彫刻 改訂新版』(再録)美術出版社, 1987年4月, pp.104-105
- 辻井喬『深夜の読書(新潮文庫)』(再録)新潮社, 1987年5月, p.184
- 『夢は荒野を 小松辰男追悼集』小松辰男追悼集編纂委員会, 1987年5月, p.237
- 尾崎正教編著『わたくし美術館 第3巻』文化書房博文社, 1987年6月, p.170
- 『日本の美術館4』ぎょうせい, 1987年7月, pp.171-172
- 『カレンダーの研究1987(第38回全国カレンダー展特集)』印刷時報社, 1987年7月, p.63
- 飯島耕一『街上と舞踏』『四旬節なきカルナヴァル』(再録) 書肆山田, 1987年7月, p.95
- 『美術館・名作への旅4 中部編』読売新聞社, 1987年7月, p.30
- 津山昌『時代の相を求めて 富山の美術20年』桂書房, 1987年8月, p.312
- 吉岡実『土方巽頌(日記)と(引用)に依る』筑摩書房, 1987年9月, p.25, 28, 33, 36, 41, 53, 56, 83, 87, 104, 131, 147, 159, 206, 211

- 上斗米正子『有飛行 有元利夫と仲間たち』風濤社, 1987年9月, p.255
- 平岡正明『マッカーサーが帰ってきた日 テレビはアメリカ占領軍が埋めた地雷か (青豹選書)』青豹書房, 1987年9月, p.152
- 『美術館・名作への旅 6』読売新聞社, 1987年10月, p.59, 77
- 辻惟雄監修『メトロポリタン美術全集 別巻2』福武書店, 1987年12月, p.168
- 全国美術館会議編『全国美術館 (美術ガイド)』美術出版社, 1987年12月, p.183
- 『「前衛芸術の日本1910-1970」展報告書』国際交流基金, 1988年, p.14
- 梅宮英亮『福島県洋画界と三人の画家たち』歴史春秋社, 1988年1月, p.215
- 酒井忠康『魂の樹 現代彫刻の世界』小沢書店, 1988年2月, p.105
- 小沢健志ほか編『日本写真全集12』小学館, 1988年3月, p.104
- 荒川修作、マドリン・ギンズ (市川浩 訳・監修)『意味のメカニズム [本編]』リプロボート, 1988年3月, p.182
- 海野弘、小倉正史『現代美術 アール・ヌーヴォーからポストモダンまで』新曜社, 1988年3月, p.134
- 黒川創編『熱い夢・冷たい夢 黒川創インタヴュー集』思想の科学社, 1988年4月, p.84, 95
- 赤瀬川原平『芸術原論』岩波書店, 1988年7月, pp.86-89, p.147
- 宇野邦一『混成系 死と批評』青土社, 1988年7月, p.196
- 本間正義『私の近代美術論集1 (さまざまな美術家像)』美術出版社, 1988年7月, p.232, 468
- 澁澤龍彦『澁澤龍彦 夢の博物館』種村季弘「サロン、庭園、書斎」美術出版社, 1988年7月, p.47
- 飯島耕一『虹の喜劇』思潮社, 1988年7月, p.119
- 尹学準ほか編『ソウルA to Z (集英社文庫)』集英社, 1988年7月, p.188
- 布施英利『脳の中の美術館』筑摩書房, 1988年9月, pp.144-145
- 村上善男『色彩の磁場 北奥・思いあたる風景』NOVA出版, 1988年9月, p.172, 177, 184
- 吉岡実『「死児」という絵 増補版』筑摩書房, 1988年9月, p.201, 344, 346
- 谷川晃一『がらくた桃源境：がらくた・キッチュ・フォークアート 東西南北縦横無尽』勁草書房, 1988年9月, pp.214-219
- 近藤竜男『ニューヨーク現代美術 1960-1988』新潮社, 1988年9月, p.47
- 海上雅臣『やきものこの現代 八木一夫前後』文化出版局, 1988年10月, p.199
- 嵐山光三郎『口笛の歌が聴こえる (新潮文庫)』(再録)新潮社, 1988年10月, p.56, 149, 159, 251, 288, pp.150-155
- 大野一雄『ラ・アルヘンチーナ頌』『舞踏譜 御殿、空を飛ぶ。』思潮社, 1988年 (増補版1998年10月), pp.98-109
- 嵐山光三郎『気分の構造』エムジー, 1988年11月, p.250
- 加藤郁乎『閑談前後 筆拵2』小沢書店, 1988年11月, p.31
- 『日本映画・テレビ監督全集』キネマ旬報社, 1988年12月, p.14
- 柏原怜子『野に遊んだ子らへ われらの青春図鑑』尾辻克彦「夜尿症のおかげで哲学した」佼成出版社, 1988年12月, p.42
- 日本ペンクラブ編、大河内昭爾選『アンチ・グルメ読本 (福武文庫)』種村季弘「嘘ばかり」福武書店, 1989年1月, pp.183-184
- 『横尾忠則グラフィック大全』天沢退二郎「横尾忠則の挑戦」講談社, 1989年1月, p.433
- アンドレ・ブルト『シュルレアリスム宣言/溶ける魚』巖谷國士「後記一五十年後に」学芸書林, 1989年2月, pp.242-243
- 酒井忠康『左手のための協奏曲』「ステイヴン・ディーダラスの帽子」形文社, 1989年2月, pp.245-246
- 『東京アートガイド』美術出版社, 1989年3月, p.193
- 菊地信義『菊地信義装幀の本』リプロボート, 1989年4月, p.6, 10, 61, 99
- 富岡多恵子『こういう時代の小説』筑摩書房, 1989年4月, p.58
- 神林恒道ほか編『芸術学ハンドブック』勁草書房, 1989年4月, p.280
- 司修『語る絵』小沢書店, 1989年4月, p.23
- 辻井喬『磁界に沿って』『深夜の遡航』(再録)新潮社, 1989年4月, pp.181-183
- 村松友視『海猫屋の客 (朝日文庫)』朝日新聞社, 1989年5月, pp.267-269
- 秋田昌美『異形のマネリスム「邪」の民俗』青弓社, 1989年6月, p.214
- 種村季弘『小説万華鏡』日本文芸社, 1989年8月, p.229, 231
- 太田邦夫『甦るアムステルダム冬の朝』『建築一私との出会い 3』彰国社, 1989年8月, p.21
- ぼくらはカルチャー探偵団 編『新・読書の快楽 ブックガイド・ベスト500 (角川文庫)』角川書店, 1989年9月, pp.253-254
- セゾン美術館編『新しいミュージオロジーを探る 西武美術館からセゾン美術館へ』リプロボート, 1989年10月, p.27, 54, 58, 65, 66, 264
- 田中一光『デザインの周辺』白水社, 1989年10月, p.218
- 尾辻克彦/赤瀬川原平『東京路上探検記 (新潮文庫)』(再録)新潮社, 1989年10月, p.119, pp.176-191
- 金井美恵子『ジャスパール・ジョーンズの作品』『本を書く人読まぬ人とかくこの世はままならぬ』日本文芸社, 1989年11月, p.119, 155, 156, 321
- なかにし礼『翔べ! わが想いよ』東京新聞出版局, 1989年11月, p.226, 261
- 上田周二『深夜亭交遊録』沖積舎, 1989年11月, p.166
- 『東京のミュージアム 美術館・博物館・文学館・郷土館・専門図書館229 (朝日ハンディガイド)』朝日新聞社, 1989年11月, p.19
- 『日本美を語る 第6巻』ぎょうせい, 1989年11月, p.159
- 全国美術館会議編『全国美術館ガイド (美術ガイド)』美術出版社, 1989年12月, p.194
- 赤瀬川原平、渡辺和博『宇宙の御言 うむ、これで解った世界の仕組み』ネスコ, 1989年12月, p.54, 60
- 坂田栄一郎『Talking Faces』六耀社, 1990年, pp.184-185
- 美術手帖編集部編『現代美術一ウォール以後』美術出版社, 1990年1月, p.151
- 鍵谷幸信『サティ ケージ デュシャン 反芸術の透視図』(再版)小沢書店, 1990年1月, p.139
- 市川雅『舞姫物語』白水社, 1990年1月, p.214
- 国際交流基金15年史編纂委員会編『国際交流基金15年のあゆみ』国際交流基金, 1990年3月, p.120
- 横浜市民ギャラリー『今日の作家展1964-1989』横浜市教育委員会, 1990年3月, p.11, 26, 192
- 赤瀬川原平『純文学の素 (ちくま文庫)』(再録)筑摩書房, 1990年3月, p.27

- 土肥美夫ほか編『講座20世紀の芸術 7 (現代芸術の状況)』岩波書店, 1990年3月, p.323
- 土肥美夫ほか編『講座20世紀の芸術 8 (現代芸術の状況)』岩波書店, 1990年5月, p.15
- 『情報の歴史 象形文字から人工知能まで (Books in form special)』NTT出版, 1990年7月, p.371, 377, 411
- 鹿野司『オールザットウルトラ科学 (Login books)』ビジネス・アスキー, 1990年7月, p.136
- 元藤燁子『土方巽とともに』筑摩書房, 1990年8月, p.113, 127, 137, 138, 140, 152, 153, 157, 164, 169, 173, 178, 195, 198
- 『昭和 二万日の全記録 第15巻』講談社, 1990年8月, p.264
- 『昭和の美術 4 31年～40年』毎日新聞社, 1990年8月, p.186, 113, 130, 161, 164
- 『昭和の文化遺産 第5巻』ぎょうせい, 1990年8月, p.118, 121, 125
- 『昭和の文化遺産 第4巻』ぎょうせい, 1990年9月, p.114, 117, 150
- 平岡正明『ジャズ宣言』現代企画室, 1990年10月, p.142
- 村松友視『夢の始末書 (角川文庫)』角川書店, 1990年10月, p.284
- 押切伸一、川勝正幸『流行の素』JICC出版局, 1990年10月, p.149
- 『昭和の美術 5 41年～50年』毎日新聞社, 1990年11月, p.195, 219
- 『名古屋起点! 美的小旅行 美術館ガイドの決定版』海越出版社, 1990年11月, p.117
- 村松友視『村松友視のサミング・アップ 作家自身が編集する本』ナイスデイ・ブックス, 1990年12月, p.301
- グループ・ギャラリー編著『版画の買い方 マイインテリアート (Elans books)』主婦の友社, 1990年12月, p.68
- 栃折久美子『製本工房から装丁ノート (集英社文庫)』(再録)集英社, 1991年1月, p.41
- 布施英利『ハイパーアートの解剖学』冬樹社, 1991年3月, p.9, pp.92-95
- 『昭和の美術 6 51年～64年』毎日新聞社, 1991年3月, p.122, 193, 205, 240
- 小林修『誕生日365日時代の主役6000人』東方出版, 1991年4月, p.118
- 『特装版 現代詩読本 吉岡実』思潮社, 1991年4月, p.40, 172, 175, 229, 255, 296, 305, 312, 326
- 米倉守『オマージュ・滝口修造』『美の棲家 1』彩樹社, 1991年5月, p.68
- 高橋睦郎『球体の神話学』河出書房新社, 1991年6月, p.39
- 『20世紀全記録 Chronik 1900-1990 増補版』講談社, 1991年7月, p.1018, 1019, 1374
- 平岡正明『ジャズより他に神はなし』三一書房, 1991年7月, p.111
- ダヴィンチ倶楽部編『自分さがしのアートルライフ』メディアファクトリー, 1991年7月, p.29
- 創立六〇年史編集委員会編『武蔵野美術大学六〇年史 1929-1990』武蔵野美術大学, 1991年7月, p.257, 424
- 赤瀬川原平『芸術原論』岩波書店, 1991年8月, pp.93-96, p.159
- 中川素子『絵本はアート ひらかれた絵本論をめざして』教育出版センター, 1991年8月, p.23
- なかにし礼『翔べ! わが想いよ (文春文庫)』文芸春秋, 1991年10月, p.126, 258
- 安原顕『「編集者」の仕事』白地社, 1991年10月, p.111, 270
- 『日本美術史 カラー版』1991年10月, p.178
- 『現代の洋画 Graphic 3』マリア書房, 1991年10月, p.268
- セゾングループ史編集委員会編『セゾンの活動 年表・資料集 (Série Saison ; 3)』リプロポート, 1991年11月, p.386, 422, 423
- 香咲弥須子『旅、さわやかな孤独へ。』立風書房, 1991年11月, p.195
- 元藤燁子『「第4話」土方巽 生も友。死もまた友』「遺された言葉 人は死しても言葉は遺る この五年間の日本人の死とメッセージ」自由国民社, 1991年2月, p.43
- 与謝野文子『接触について』『美と略奪 詩的生態学へのまなざし』筑摩書房, 1991年12月, pp.53-61
- 尾辻克彦『ばくばく辞典』中央公論社, 1991年12月
- P.J.オローク『楽しい地獄旅行 世界紛争地帯過激レポート』芝山幹郎「訳者あとがき—地獄から来たP.J.オローク」河出書房新社, 1991年12月, p.339
- 『軽井沢セゾン現代美術館』『全国美術館ガイド (美術ガイド)』美術出版社, 1992年1月, p.213
- 谷村晃ほか責任編集『芸術学フォーラム 1』谷川渥「ジャンルの解体」勁草書房, 1992年1月, p.301
- 横尾忠則『365日の自画像 横尾忠則の画家の日記'84～'86 (ちくま文庫)』(再録)筑摩書房, 1992年1月, p.233, 381, 422
- 土方巽『慈悲心鳥がバサバサと骨の羽を拡げてくる』吉増剛造「土方巽/強さ」書肆山田, 1992年1月, p.81
- 『メトロポリタン美術全集 別巻 2』福武書店, 1992年3月, p.168
- 笹沼俊樹『企業の文化資本』日刊工業新聞社, 1992年3月, p.176, 192
- 『名画と出会う美術館: Art compass 第4巻』小学館, 1992年3月, p.55
- 東京大学『年報』編集委員会編『駒場 1991』東京大学教養学部, 1992年3月, p.55
- 『金井美恵子全短篇 3』日本文芸社, 1992年4月, p.638
- 瀧口修造『コレクション瀧口修造 7 (実験工房・アンデパンダン)』みすず書房, 1992年4月, p.498, 503
- 布施英利『電脳美学』筑摩書房, 1992年4月, p.73
- 長山靖生『コレクターシップ「集める」ことの叡智と冒険』JICC出版局, 1992年4月, p.167
- 小倉忠夫『日本洋画の道標』京都新聞社, 1992年5月, p.83
- ジョン・ネスビッツ、木村尚三郎ほか『日本という存在 ジャパンズ・アイデンティティ』日本経済新聞社, 1992年5月, p.133
- 『名画と出会う美術館 Art compass 第8巻』小学館, 1992年5月, p.51
- 土屋恵一郎『ダンスの誘惑』青土社, 1992年5月, p.144
- 権藤晋『「ねじ式」夜話 つげ義春とその周辺』喇嘛舎, 1992年5月, p.133
- 飯村隆彦『Yoko Ono オノ・ヨーコ人と作品 (講談社文庫)』講談社, 1992年6月, p.73, 90
- 大野一雄『舞踏譜 御殿、空を飛ぶ。 集成』思潮社, 1992年6月, pp.40-41, 98-102, p.209, 213, 289, 300, 302
- 飯島耕一『シュルレアリスムという伝説』みすず書房, 1992年6月, p.265
- 谷川雁『極楽ですか』集英社, 1992年6月, p.213
- 谷川渥『表象の迷宮 マニエリスムからモダニズムへ』ありな書房, 1992年6月, p.147
- 『名画と出会う美術館 Art compass 第6巻』小学館, 1992年6月, p.19, 42, 43, 51

- 奥村直正『脳組織 自己増殖を遂げる情報システム』工業調査会, 1992年7月, p.15
- 『東京南部・戦後サークル運動の記録 1. [本編]』文学同人・眼の会, 1992年7月, p.142
- 『東京南部・戦後サークル運動の記録 1.別冊』文学同人・眼の会, 1992年7月, p.106
- 小林一郎『矢印を走らせて 吉岡実詩集<神秘的な時代の詩>評釈7』文芸空間, 1992年8月, p.24
- 『吉仲太造画集 Taizo Yoshinaka 1955~1984』新潮社, 1992年9月, p.97
- 種村季弘『好物漫遊記 (ちくま文庫)』(再録) 筑摩書房, 1992年9月, p.54, 194
- 島田章三ほか『島田章三 (アート・トップ叢書 同時代の画家集成)』芸術新聞社, 1992年10月, p.124
- 『現代の洋画 Graphic 4』マリア書房, 1992年10月, p.296
- 『名画と出会う美術館 Art compass 第10巻』小学館, 1992年10月, p.8, 17, 59, 95, 98-100, 106, 108
- たにあらた『回転する表象 現代美術/脱ポストモダンの視角』現代企画室, 1992年10月, p.18, 28, 323
- 田辺園子『女の夢男の夢』作品社, 1992年10月, p.88
- 平野重光 構成・解説『名画と出会う美術館10「現代の日本美術」』小学館, 1992年10月, p.17, 59, 95, 99, 100, 106, 108
- 山田一平『ダンサー』太田出版, 1992年11月, pp.53-54, 125-127, p.191, 243, 257, 270
- 朝倉直巳編著『芸術・デザインの立体構成 (基礎造形シリーズ)』六耀社, 1992年12月, p.271
- 『ファンタスティック・コーポレーション 21世紀に向けて繁栄する企業』日本マンパワー出版, 1992年12月, p.202
- 『版画 (期待の新人作家) 大賞展作品集 1982~1992』りゅうインターナショナルギャラリー, 1993年, p.16
- 加納光於『夢のパピルス』小沢書店, 1993年1月, p.77
- 『澁澤龍彦 新文芸読本』種村季弘『サロン、庭園、書齋』河出書房新社, 1993年4月, p.119 (再録)
- 『東京アートガイド 建築+屋外彫刻+美術館・画廊 美術ガイド』美術出版社, 1993年3月, p.54, 110, 114
- ヨシダヨシエ『修辞と飛翔 現代画家の想像力』北宋社, 1993年3月, p.81
- 三上賀代『器としての身体 土方巽・暗黒舞踏技法へのアプローチ』ANZ堂, 1993年4月, p.215
- 『アドバタイジング・アート史 1950~1990: 広告という時代透視法』東日本鉄道文化財団, 1993年5月, p.181
- 大野一雄『わたしの舞踏の命』矢立出版, 1993年5月, pp.33-34
- 総合美術研究所編『日本アンデパンダン展全記録: 1949-1963』総美社, 1993年6月, pp.269-272
- 『岩波日本美術の流れ 6』岩波書店, 1993年7月, p.130
- 田中明彦『Ikarugara note 1』透土社, 1993年7月, p.81
- 斎藤俊徳『現代美術論 行為の芸術を中心として』大学教育出版, 1993年8月, p.92
- 『澁澤龍彦 (新潮日本文学アルバム 54)』新潮社, 1993年8月, p.64
- 田中宏和『文芸読本』新風舎, 1993年8月, p.45
- 高橋睦郎『友達の作り方 高橋睦郎のfriends index』マガジンハウス, 1993年9月, p.14
- 『天沢退二郎詩集 続 (現代詩文庫112)』(再録) 思潮社, 1993年10月, p.130
- 大川栄二『美術館の窓から 僕はこころの洗濯屋』芸術新聞社, 1993年10月, p.280
- 日本放送出版協会編『私の好きな美術館: NHK日曜美術館から 29人のゆたかな個性が語る』日本放送出版協会, 1993年10月 p.146
- 布施英利『脳裏一体』白水社, 1993年10月, p.185
- 菊畑茂久馬『菊畑茂久馬著作集2 戦後美術と反芸術』(再録) 海鳥社, 1993年11月, p.79, 143, 164, 170, 188, 189, 194, 235, 277
- 種村季弘ほか編『土方巽舞踏大鑑 かさぶたとキャラメル』悠思社, 1993年11月, pp.10-13, 137-139, p.144, 147, 159, 162, 163, 167
- 村松友視『夕陽炎々 (中公文庫)』なかにし礼『私、村松友視の味方です』中央公論新社, 1993年11月, p.235
- 赤瀬川原平ほか編『路上観察学入門 (ちくま文庫)』(再版) 筑摩書房, 1993年12月, p.42
- 佐々木豊『泥棒美術学校』芸術新聞社, 1993年12月, p.187
- 村上善男『色彩の磁場から』紅書房, 1993年12月, p.133
- 山口猛『紅テント青春録』立風書房, 1993年12月, p.31, 99, 140, 141, 146, 147, 255
- 宇佐美圭司『絵画の方法』小沢書店, 1994年1月, p.231
- 跡見学園短期大学図書館編『宮沢賢治関係所蔵目録 増補版1』跡見学園短期大学図書館, 1994年3月, p.280
- 『クラシックバレエおよび現代舞踊界の芸術活動に関する調査報告書』東京都文化振興会, 1994年3月, p.87
- 東京大学『年報』編集委員会編『駒場 1993』東京大学教養学部, 1994年3月, p.58
- 『河北倫明美術時評集1 (美術時評 上)』思文閣出版, 1994年4月, p.382
- 島田康寛『変容する美意識 日本洋画の展開』京都新聞社, 1994年4月, p.21
- 諏訪直樹作品集刊行委員会編『諏訪直樹作品集 1976-1990』美術出版社, 1994年4月, p.109, 111
- 高田宏『信州すみずみ紀行』新潮社, 1994年4月, p.120
- 倉林靖『現代アートの遊歩術』洋泉社, 1994年5月, p.88
- BゼミSchooling System編『現代美術演習 和英対峙 4』現代企画室, 1994年5月, p.144, 152
- 『季刊みづゑ』編集部編『澁澤龍彦をもとめて』(再録) 美術出版社, 1994年6月, p.47, 96, 97
- 『澁澤龍彦全集13』河出書房新社, 1994年6月, p.345
- 田中清光『詩人の山 わたしの詞華集』恒文社, 1994年7月, p.107
- 種村季弘『澁澤さん家で午後五時にお茶を』河出書房新社, 1994年7月, p.90, 216
- 金子賢治『誇り高く、土に還る一鯉江良二論一』『鯉江良二作品集』講談社, 1994年8月, p.8
- 『菊畑茂久馬著作集4 (素描のままに)』海鳥社, 1994年8月, p.13
- 新人物往来社編『日本全国ユニーク美術館』1994年8月, p.256
- 赤瀬川原平『反芸術アンパン (ちくま文庫)』(再録) 筑摩書房, 1994年10月, pp.185-193, p.204, 215, 231, 234
- 『北九州市立美術館20年誌: 1974年 (昭和49年) ~ 1994年 (平成6年)』北九州市立美術館, 1994年11月, p.45, 169, 171, 204, 268
- 『美術の森の中で: 北九州市立美術館美術ボランティア20年誌』北九州市立美術館, 1994年12月, p.44, 50, 61, 65
- 赤瀬川原平『勝鬃橋における山頂の石蹴り』『鶴の目鷹の目』日本カメラ社, 1994年12月, p.79

- 赤瀬川原平『東京ミキサー計画 ハイレッド・センター直接行動の記録(ちくま文庫)』(再録) 筑摩書房, 1994年12月
- 奥谷博ほか『奥谷博(アート・トップ叢書 同時代の画家集成)』芸術新聞社, 1994年12月, p.124
- 秋山さと子、赤瀬川原平『異次元が漏れる 偶然論講義』(再版) 大和書房, 1994年12月, pp.81-85, p.249
- 『朝日美術館 第0号 近代絵画の流れ』朝日新聞社, 1995年
- 『ぴあ 日本の美術館: 建物の魅力で訪ねる全国110館』ぴあ, 1995年, p.44, 112, 132, 214
- 国際交流基金・毎日新聞社 編著『ヴェネチア・ビエンナーレ: 日本参加の40年』国際交流基金, 1995年頃, p.213
- 松本有一編『スズキコージ出版作品目録抄』トムズボックス, 1995年1月, p.3
- 長谷川公之『現代版画の基礎知識』沖積舎, 1995年2月, p.209
- 木下誠監訳『アンテルナショナル・シチュアショニスト 2』インパクト出版会, 1995年3月, p.368
- 『戦後50年(毎日ムック)』毎日新聞社, 1995年3月, p.140
- 資生堂企業文化部 編『資生堂ギャラリー七十五年史: 一九一九〜一九九四』資生堂, 1995年3月, p.359
- 布施英利『ポスト・ヒューマン』法蔵館, 1995年3月, p.53
- 『現代日本アーティスト名鑑』美術出版社, 1995年4月, p.3, 78
- 富岡多恵子『富岡多恵子の発言5(物語からどこへ)』岩波書店, 1995年5月, pp.216-217
- 『澁澤龍彦全集 別巻2』河出書房新社, 1995年6月, p.497, 501, 509, 512, 529, 553, 768
- 福田俊『実践・版画収集テクニック』日経BP社, 1995年6月, p.43, 114, 132
- 上野昂志『戦後再考』朝日新聞社, 1995年7月, p.197
- 金井美恵子『岸辺のない海 完本』日本文芸社, 1995年7月, n.pag.
- 澁澤龍彦著ほか『澁澤龍彦空想博物館』平凡社, 1995年7月, p.156, 163, 237
- 西村陽平『手で見るとかたち』白水社, 1995年7月, p.209, 211
- 『澁澤龍彦事典』平凡社, 1996年
- 辻惟雄監修『まんが 反芸術運動ってなに?』『まんが日本美術史3 明治→現代の美術』美術出版社, 1996年3月
- 『日本の名随筆 別巻69』種村季弘『分家開き』(再録) 作品社, 1996年11月, pp.148-149
- 中村敬治『現代美術/パラダイム・ロスト 2』水声社, 1997年8月, p.237
- 青柳正規ほか編『日本美術館』小学館, 1997年10月, pp.1104-1105, 1128-1129
- Bゼミ Schooling System 編『現代美術演習 和英対峙5』現代企画室, 1997年10月, p.26, 200
- 『日本美術院百年史10巻』日本美術院, 1998年1月, p.592, 596
- 池田龍雄『おいしい物語—瀧口修造氏との私的時間1928-1979』『コレクション瀧口修造 別巻』みすず書房, 1998年7月, p.618
- Jean Viala, Nourit Masson-Sekine, *Butoh: Shades of Darkness*, Tuttle Pub, 1988.8
- 榎木野衣『第九章 芸術である、だけど犯罪である』『日本・現代・美術』新潮社, 1998年1月, pp.200-230
- オオタマサオ『瑛瑛看板 懐かしき昭和30年代を訪ねて』小学館, 1999年11月, p.59
- 谷川渥『中西夏之一竹みの装置』『イコノクリティック—審美涉猟』(再録) 北宋社, 2000年3月, pp.57-66
- 『ジェネティック・アーカイヴ・エンジン—デジタルの森で踊る土方巽』慶應義塾大学アート・センター, 2000年3月
- 中村文昭『舞踏の水際』思潮社, 2000年6月
- 潘力『日本美術: 従現代至当代 Japanese Art from Modern to Contemporary』河北教育出版社, 2000年8月
- 女子美術大学百年史編集委員会編『女子美100年とその時代 女子美術大学略年史 1900-2000』女子美術大学, 2000年10月, p.119, 121, 125
- 土方巽アーカイヴ編『土方巽『舞踏』資料集 第1歩』慶應義塾大学アート・センター, 2000年12月
- 種村季弘『土方巽の方へ 肉体の60年代』河出書房新社, 2001年5月
- 『夕留のための「4ツの月」』[dentsu artwork project 電通新社屋アートワークプロジェクト] 電通, 2002年, p.26
- 石井恭二『花には香り 本には毒を』現代思潮社, 2002年9月
- 榎木野衣『戦争と万博』美術出版社, 2005年2月, p.120, 176, pp.242-245
- 平田実『超芸術—前衛美術家たちの足跡 1963-1969』三五館, 2005年3月
- ミカエル・リュケン(南明日香 訳)『20世紀の日本美術 同化から越境への軌跡』三好企画, 2007年3月, pp.276-277, 282-286, p.310, 335
- 黒ダライ児『肉体のアナーキズム 1960年代・日本美術におけるパフォーマンスの地下水脈』grambooks, 2010年9月
- William Marotti, *MONEY, TRAINS, AND GUILLOTINES—ART AND REVOLUTION IN 1960s JAPAN—*, DUKE UNIVERSITY PRESS Durham and London, 2013
- 北澤憲昭、佐藤道信、森仁史編『美術の日本近現代史 制度・言説・造型』東京美術, 2014年1月
- 志賀信夫『舞踏家は語る 身体表現のエッジ』青弓社, 2014年2月
- 陶山幾朗『「現代思潮社」という閃光』2014年5月, p.69, 147
- 天見牛大『重力との対話—記憶の海辺から山海塾の舞踏へ』岩波書店, 2015年3月
- 羽永光利プロジェクト実行委員会『羽永光利一〇〇〇/紙文庫版』一〇〇〇BUNKO, 2017年4月
- 『中西夏之 bibliography』横田茂ギャラリー, 2017年10月
- 母袋俊也『絵画へ 1990-2018 美術論集』論創社, 2019年4月
- 『美学校 1969-2019—自由と実験のアカデミア』晶文社, 2019年8月, pp.57-60, p.73, pp.149-151
- KuroDalaiJee, *Anarchy of the Body: Undercurrents of Performance Art in 1960s Japan*, Leuven University Press, 2023.2
- Kitazawa Noriaki, Kuresawa Takemi, Mitsuda Yuri, *History of Japanese Art after 1945: Institutions, Discourse, Practice*, Leuven University Press, 2023.2
- 富井玲子『オペレーションの思想 戦後日本美術史における見えない手』イースト・プレス, 2024年11月, p.109, 114, 160, 162, 166, 169, 179, 198, 210, 311, 316, pp.225-233
- 榊山裕子『愛玩拒否の人形 土井典とその時代』DFJプレス, 2024年12月, p.109, 235, 239
- 中山真一『愛知洋画壇物語 PARTIII』風媒社, 2025年6月
- Amlie Ravalec, *Japan Art Revolution: The Japanese Avant-garde, from Angura to Provoke*, Thames & Hudson, 2026.1

5. 逐次刊行物

5-a 作家論

- 高階秀爾「〈鉱脈/美術ジャーナル賞候補作家〉中西夏之『春の修羅』」『美術ジャーナル』no.23, 1961年8月, pp.36-39
- 中原佑介「中西夏之論」『三彩』no.147, 1962年2月, pp.49-52
- 東野芳明「山口長男と中西夏之」『美術手帖』no.200, 1962年2月, pp.130-133
- 大岡信「〈現代画家の12人〉第4回 バランスの中の危機的な緊張」『中央公論』no.961, 1967年10月, 折込
- 宗左近「〈新人クローズアップ〉10 美術の明日を拓く中西夏之」『藝術生活』no.230, 1968年10月, pp.126-129
- 金井美恵子「紅茶の世界」『美術手帖』no.367, 1973年5月, p.218
- 東野芳明「中西夏之のレリーフ 手と正三角儀 フウ磁気」『藝術生活』no.285, 1973年5月, pp.71-74
- 谷川晃一「〈視線〉12・VII 形而上学と絵画—中西夏之論—」『美術手帖』no.369, 1973年7月, pp.152-157
- 谷川晃一「視覚化された関係の論理 中西夏之」『週刊読書人』1975年5月26日
- 吉増剛造「隙間、中西夏之の磁場を歩く」『みづゑ』no.862, 1977年1月, pp.88-91
- 白石かざこ「中西夏之へむかう一艘のカヌー」『Good Day』no.3, 1979年4月, p.40
- 坪内一忠「〈イメージの狩人たち〉中西夏之 二つの物の間の運動 観念より重い部分を突き刺す」図書新聞, 1979年6月16日
- 平井亮一「中西夏之の新作 接点としての絵画 平面とのへだたりは自明か」『美術手帖』no.458, 1979年12月, pp.198-211
- たにあらた「Comments on Current Art異空間の合体」『博物誌』no.5, 1980年5月, pp.64-67
- 種村季弘「〈80年代期待の画家〉15中西夏之氏」信濃毎日新聞, 1980年12月28日
- 種村季弘「〈現代絵画の50人〉38 中西夏之氏」(再録) 鹿島新聞, 1980年12月31日
- 東野芳明「〈中西夏之〉が触れて 新作arc・ellipseについて〈展覧会から〉」『みづゑ』no.912, 1981年3月, pp.60-73
- 谷川晃一「〈様々な戦後美術 私の出会った人々〉5中西夏之」『PRINT COMMUNICATION』no.86, 1982年11月, pp.4-5
- たにあらた「中西夏之展から 生命体が醸し出す距離」『美術手帖』no.497, 1983年6月, pp.196-197
- 芥川喜好「〈Front 5刺激する現代作家〉1中西夏之さん」読売新聞, 1983年9月5日
- 白倉敬彦「中西夏之の奇妙な欲望 絵をまえにして」『アート'84』1984年8月, pp.90-93
- 坪内一忠「〈視点〉中西夏之の奇妙な欲望 『画家に天才はいない』と画家は言う。』『アート'84』1984年8月, p.94
- 嶋剛「美・ひと・作品 近代美術館オープンに寄せて⑩ 中西夏之」中日新聞, 1984年8月18日
- 後藤新治「中西夏之の周縁で」『美術の森(北九州市立美術館ニュース)』no.44, 1985年
- 田中幸人「〈連載 感性の祖型〉4海からの報告」『いけ花龍生』no.300, 1985年4月, pp.38-39
- 「〈art〉Natsuyuki Nakanishi, l'avant-garde Japonaise" VU! (le magazine français du Japon) no.52, 1985.4, pp.28-29
- 大塚保子「〈コレクションから〉9中西夏之」『ミュージアム・レポート(西武美術館月報)』no.15, 1985年5月, pp.8-9
- 平井亮一「画布/画面/絵画 中西夏之にふれながら」『美術手帖』no.552, 1985年11月, pp.161-171
- 千葉成夫「〈美のフロンティア〉6① 持続 中西夏之」東京新聞(夕刊), 1986年7月2日
- 柴田百合子「解説『紫・むらさき』」『THE GALLERY(いわき市立美術館ニュース)』no.8, 1988年3月
- 冬野虹「知るでしようはしばみの実の声の房—中西夏之の作品から—」『むしめがね』no.4, 1989年, pp.46-48
- 光田由里「絵画をたどる 続・序 中西夏之に離れて、近く」『季刊美術批評誌 非』no.2, 1989年春, pp.28-37
- 武藤いづみ「機械工具の中から生まれた才能 少年時代を断絶して生きていまその時代に立ち戻る一瞬/表紙の人 坂田栄一郎のオフ・カメラ」『アエラ』vol.2 no.27, 1989年7月
- 宇佐美圭司「中西夏之」『月刊ボザール』no.140, 1989年8月, pp.12-13
- 彦坂尚嘉「美術の現在 絵画の溶解」『海燕』vol.8 no.8, 1989年8月, p.137
- 谷川渥「表象の冒険②中西夏之一佇みの装置」『中央公論』no.1264, 1990年11月, p.341
- 冬野虹「中西夏之作品展『G/Z HOHO群』より 火刑台のジャンヌ 紫の雲のたえまに吹く風は—」『むしめがね』no.11, 1994年, pp.24-29
- 四ツ谷龍「中西夏之 画布への雫」『むしめがね』no.11, 1994年, pp.30-43
- 菅原教夫「中西夏之 絵画の『起源』へ」『美術手帖』no.698, 1994年12月, pp.172-175
- 田中三蔵「反古・旧聞ノート①『中西夏之展』をめぐって、しつこく『日本的なるもの』について」『アート・マガジン〈エル・アール〉』no.1, 1997年4月, pp.4-6
- 川出絵理「曖昧さのポリティクス: 『シェルター・プラン』—東京、一九六四」『武蔵野美術』no.104, 1997年5月, pp.83-89
- 小倉正史「〈特集 ザ・ソフトアブストラクション〉大和絵的感性の展開 日本の抽象表現は、なぜ“情緒的”なのか」『月刊美術』no.261, 1997年6月, pp.44-47
- 樋田豊次郎「中西夏之による伝統の引用のされ方」『アート・マガジン〈エル・アール〉』no.2, 1997年6月
- 樋田豊次郎「中西夏之による伝統の引用のされ方(その2)」『アート・マガジン〈エル・アール〉』no.4, 1997年10月, pp.12-13
- Robert Reed, "Focusing Light・Natsuyuki Nakanishi" JAL WiNDS, 1998.8, pp.34-36
- 三田晴夫「〈現代アーティスト列伝〉中西夏之 前衛をくぐりたどり着いた鮮烈な光」『AMUSE』1999年1月27日
- 馬場駿吉「〈熱風の軌跡〉21 身体性と内面性の一体化 画家: 中西夏之」中日新聞(夕刊), 1999年5月29日
- 林道郎「事業としての絵画—中西夏之の『二箇所』に触れて」『季刊d/SIGN』No.4, 2003年5月, pp.6-7
- 松浦寿夫「中西夏之のクアトロ 2×2=2+2」『美術手帖』no.834, 2003年5月, pp.97-104
- 北澤憲昭「尾形光琳〈紅白梅図屏風〉と現代絵画—岡本太郎と中西夏之の見解をめぐって—」『跡見学園女子大学 人文学フォーラム』vol.3, 2005年3月, pp.62-72
- 永松左知「〈アーティスト訪問〉中西夏之 新たな試み『地塗反転』—新作展『絵画の鎖・光の森』」『月刊ギャラリー』no.277, 2008年5月, pp.17-23
- 木下長宏「断想〈失われた時〉を見出すとき(七十七)」『あまだむ』no.96, 2008年7月
- 「美術家の中西夏之さん 宇宙規模の発想 絵画の新しい扉開く」四国新聞, 2012年10月4日
- 小田原のどか「中西夏之の絵画場面の研究 土方巽との協働からの影響を中心に」『芸術学研究』第17号, 筑波大学大学院人間総合科学研究科, 2012年11月, pp.11-20
- 小田原のどか「中西夏之の絵画制作方法 1981年放映『美の世界』を手がかりに」『芸術学研究』第18号, 筑波大学大学院人間総合科学研究科, 2013年11月, pp.11-20
- 谷川晃一「大岡信が現代美術の中心にいた時代」『大岡信ことば館だより』2013年12月, pp.39-40

- 「新しいコレクション 中西夏之《コンパクト・オブジェ》『現代の眼 (東京国立近代美術館ニュース)』no.609, 2014年12月
- 河合大介「研究ノート『赤瀬川原平と『山手線事件』—(匿名性)を手がかりとして—』『美術研究』no.418, 東京文化財研究所, 2016年3月, pp.270-282
- 坂口寛敏「追悼 中西夏之 豚に跨る中西夏之」『美術手帖』no.1048, 2017年1月, p.189
- 巖谷國士「記憶のギャラリー [第10回] 中西夏之」『アートコレクターズ』no.134, 2020年5月, pp.60-63

5-b 展評

- オク・マサミ「グループ鋭」『相・SOH』(1), 1960年4月, pp.28-29
- 中原佑介「中西夏之の『韻』連作展」読売新聞(夕刊), 1960年6月6日
- 針生一郎「〈個展〉中西夏之の『韻』を主題とした連作」『芸術新潮』vol.11-7, 1960年7月, p.250
- 「展覧会評」(図版のみ)『三彩』no.128, 1960年7月, p.70
- 中原佑介「〈展覧会選評〉中西夏之個展」『美術手帖』no.177, 1960年8月, pp.149-150
- 江原順「〈展覧会選評〉中西夏之個展」『みづゑ』no.664, 1960年8月, pp.69-70
- 「〈文化ジャーナル 美術〉“実験”美術のおとし穴」『朝日ジャーナル』no.114, 1961年5月14日, p.35
- 東野芳明、高階秀爾「『芸術』の不在 『現代美術の実験』展をめぐって」『みづゑ』no.674, 1961年6月, pp.17-18
- TOSHI「〈乱反射〉現代美術の実験」『You』no.81, 1961年7月, p.42
- 植村鷹千代「〈画廊から〉中西夏之個展」『みづゑ』no.683, 1962年2月, p.78
- 大岡信「アンデパンダン展から」読売新聞(夕刊), 1963年3月13日
- 中原佑介「〈文化〉第15回読売新聞アンデパンダン展の展望」読売新聞(夕刊), 1963年3月12日
- 「オブジェの集積(アンデパンダン展)」『朝日ジャーナル』no.210, 1963年3月17日, p.40
- 編集部「〈美術〉読売アンデパンダンの末期」『芸術新潮』no.160, 1963年4月, p.14
- 柳原義達「個性的な創造の世界『彫刻の新世代』展・評」東京新聞(夕刊), 1963年5月30日
- ヨンダ・ヨシエ「展覧会評」『三彩』no.163, 1963年6月, p.82
- 「実験的な作品ズラリ 彫刻の新世代展」読売新聞(夕刊), 1963年6月2日
- 中原佑介「反写実の多様な広がり 近代美術館の『彫刻の新世代展』」読売新聞(夕刊), 1963年6月11日
- 山口勝弘「『彫刻の新世代』展をみて—実験精神と擬古的な方法」『美術手帖』no.222, 1963年7月, pp.9-11
- 織田達朗「『彫刻』と“人魂”についての序論—『彫刻の新世代』展によせて」『三彩』no.164, 1963年7月, p.56, 58
- 南英明「〈美術界展望』『彫刻の新世代』展の『新しさ』」『みづゑ』no.702, 1963年8月, p.74
- 中原佑介「不在の部屋展—温厚な犯罪者たち」日本読書新聞, 1963年8月5日
- 中原佑介「〈美術〉団体展 新人室に端的な主張 独立・自由美術・二紀会」読売新聞(夕刊), 1963年10月29日
- 「展覧会評」『三彩』no.171, 1964年3月, p.88
- 池田一郎「〈美術界展望』『ヤング・セヴン展』と『反芸術』シンポジウム」『みづゑ』no.710, 1964年4月, p.76
- 植村鷹千代「〈画廊から』ヤング・セヴン展」『みづゑ』no.710, 1964年4月, p.97
- 「特集 芸術見本市 ジャパン・アート・フェスティバルの奇怪」『芸術新潮』no.190, 1965年10月, p.154
- 安井記者「安井収蔵」『現代美術の新世代』宮脇愛子・中西夏之個展 毎日新聞(夕刊), 1967年4月7日
- 「短信短評 中西夏之個展」日本読書新聞, 1967年4月17日
- 飯島耕一「〈美術時評』金管楽器からはじまって……」『三彩』no.214, 1967年5月, pp.72-73
- 岡田隆彦「画廊から『中西夏之個展』」『美術手帖』no.283, 1967年6月, pp.124-127
- 三木多聞「レヴュー/個展評」『みづゑ』no.749, 1967年6月, p.93
- 織田達朗「展覧会—洋画—」『三彩』no.215, 1967年6月, pp.92-93
- 日向あき子「ルネ・マグリット=そのイラストレーションへの影響」『アイデア』no.83, 1967年7月, p.39
- 飯島耕一「〈詩集評』言葉の世界と『私自身の現場』」『現代詩手帖』vol.10-7, 1967年7月, p.108, 109
- 「表現の不自由展」『みづゑ』no.753, 1967年10月, p.46
- 川仁宏「条件つき『表現の自由』」『美術手帖』no.289, 1967年11月, pp.20-21
- 石子順造「創造は展覧会の外に『現代日本美術展』にみるオメデタサ」日本読書新聞, 1968年6月24日
- 「〈美術〉—魅力ある二つの個展から 中西夏之 ゆたかな想像の世界を開く」朝日新聞(夕刊), 1973年3月17日
- 「ひさびさの三つの個展 華麗さの中に幻想 中西夏之」読売新聞(夕刊), 1973年3月19日
- 「中西夏之個展」『中美』1973年5月
- 谷川晃一「〈太陽の眼 美術〉ハートと正三角形の形而上学」『太陽』no.121, 1973年7月, p.196
- 「〈文化ジャーナル 美術・デザイン〉現代と伝統のつながりを—西独で初の日本現代美術展」『朝日ジャーナル』no.790, 1974年5月3日, p.74
- 早見堯「〈COLUMN〉現代美術の4半世紀展から」『近代建築』vol.29 no.3, 1975年3月
- 剣「〈美術〉弱点を露呈した『本・オブジェ』展」『朝日ジャーナル』no.835, 1975年3月14日, p.69
- 「〈スター・ダスト』限定一部の『本のオブジェ』展」『芸術新潮』no.304, 1975年4月, p.175
- 村木明「〈ART』『日本現代美術の展望』展ほか」『レコード芸術』no.302, 1975年11月, p.424
- 「新鮮な実験性と独創性 中西夏之個展」新美術新聞, 1976年11月11日
- 「情念と無機の空間 中西夏之展」毎日新聞(夕刊), 1976年11月19日
- 「中西夏之展」公明新聞, 1976年11月23日
- 「〈美術〉今日的な二つの個展 イメージと物質の結合 中西夏之」朝日新聞(夕刊), 1976年11月24日
- 高津戸宣郎「中西夏之展」『流行通信』no.154, 1976年12月
- 宝木範義「展覧会月報」『日本美術』no.136, 1977年1月
- 木島俊介「〈展評』東京」『美術手帖』no.417, 1977年2月, pp.239-240
- 北村由雄「さんしきすみれの魅惑について 中西夏之の個展」『VISION』vol.7 no.1, 1977年3月, pp.26-29

- 米 [米倉守]「〈美術〉人と空間と時を結ぶ 中西夏之展」朝日新聞(夕刊), 1979年12月5日
- 山梨俊夫「〈展評〉東京『美術手帖』no.462, 1980年3月, pp.243-244
- 北沢憲昭「〈展評〉東京『美術手帖』no.462, 1980年3月, pp.247-248
- 「〈手帳〉“現代彫刻の地平”を示す 横浜で戦後の歴史たどる“歩み展”」読売新聞(夕刊), 1980年3月11日
- 留「〈美術 文化ジャーナル〉 一人の作家で見た戦後彫刻の足跡」『朝日ジャーナル』no.1103, 1980年4月4日, p.75
- 白山村悟「〈紙に油彩〉対「写真的絵画」異色の四人が顔合わせ」毎日新聞(夕刊), 1980年5月16日
- 阿部信雄「〈展評〉東京『美術手帖』no.476, 1981年2月, p.203, 204, 209
- 尾辻克彦「〈太陽の眼 美術〉『ペンキ塗らたて』の貼札がついているような生々しさを感じる。』『太陽』no.215, 1981年2月, p.165
- 坪内一忠「〈展評〉東京『季刊アート』1981年春, p.99
- 「展覧会」毎日新聞(夕刊), 1981年5月28日
- 斉藤泰嘉「〈展評〉東京『美術手帖』no.485, 1981年8月, pp.232-233
- 高松次郎「展覧会で語る12激動の『1960年代展』」『芸術新潮』no.384, 1981年12月, pp.100-103
- 熊谷伊佐子「〈EXHIBITION〉戦後美術の流れ—『東京都美術館収蔵作品展・後期』」『美術手帖』no.491, 1982年1月, p.273
- 斉藤泰嘉「〈状況と現場1981〉東京通信—札幌のM君へ 1981年・東京の個展から」『美術手帖』no.492, 1982年1月増刊, p.21, 22
- 針生一郎「1960年代展 私の総括」『現代の眼(東京国立近代美術館ニュース)』no.327, 1982年2月
- 「対の画面が生む緊張感 中西夏之展」新美術新聞, 1982年4月21日
- 田中幸人「中西夏之展 立ちすくむ鮮烈さ 三次元を予測させる」毎日新聞(夕刊), 1983年4月8日
- 猛 [菅原猛]「中西夏之展」公明新聞, 1983年4月9日
- 米 [米倉守]「〈美術〉刹那の瞬間にある現在 中西夏之」朝日新聞(夕刊), 1983年4月16日
- Rosemary Warburton, “Nakanishi's growing strength” *ASAHI EVENING NEWS*, 1983.4.22
- 「〈STARDUST〉紫匂える中西夏之」『芸術新潮』no.401, 1983年5月, p.34
- 小倉正史「展覧会評(4月) 中西夏之 篠原有司男 そのI」『アトリエ』no.677, 1983年7月, p.66
- 千葉成夫「展覧会評(4月) 中西夏之 篠原有司男 そのII」『アトリエ』no.677, 1983年7月, p.67
- 「ドイツでの「日本の前衛 一九二〇—一九七〇」展」『美術手帖』no.514, 1983年8月, p.251
- 外様「〈criticism〉デュッセルドルフ展に読む(60+20年代)」『美術手帖』no.515, 1983年9月, pp.250-251
- 北沢憲昭「〈展覧会〉『六〇年代』展というアイロニー」『美術手帖』no.520, 1984年1月, p.136
- 今野裕一「釘づけされた作品はなおもマッド・ティー・パーティーの夢を見るか?」『FN』no.1, 1984年3月4日, pp.84-85
- 「“紫”の多層性 中西夏之展—作品・五月」新美術新聞, 1984年5月11日
- 鷹「含蓄ある紫の魅力 中西夏之展」朝日新聞(夕刊), 1984年5月12日
- 菅原猛「中西夏之展」公明新聞, 1984年5月12日
- 佐「色彩を制限、清潔感 中西夏之展」世界日報, 1984年5月14日
- 川「より平易な自然体に 大作6点を中心に 中西夏之展」読売新聞(夕刊), 1984年5月22日
- 田中幸人「緑風を感じさせる 中西夏之展」毎日新聞(夕刊), 1984年5月22日
- 武井邦彦「Art Review展評東京」『三彩』no.442, 1984年7月, p.110
- 久保尋二「画廊のもう一つの機能 冒険性に挑戦 ジョーンズ 荒川 中西近作展」新潟日報, 1984年9月15日
- 芦田みゆき「中西夏之Painting to May」『カサブラン(砂の会)』no.3, 1985年4月, pp.18-19
- 武井邦彦「〈Art Review 展評東京〉「アーティスト・ブック」展」『三彩』no.454, 1985年7月, p.117
- 「中西夏之氏の絵画展」朝日新聞, 1985年7月16日
- 「80年代の作品 中西夏之展」新美術新聞, 1985年7月21日
- 三田晴夫「ビビッドな表現世界 中西夏之展」毎日新聞(夕刊), 1985年8月2日
- 健「微細、無限…自在な解釈を生む表現」読売新聞(夕刊), 1985年8月2日
- 超「画業の跡“浴びる”よう求める 自ら制作意図語った 中西夏之展」朝日新聞(夕刊), 1985年8月3日
- 源「絵画の可能性を模索 北九州市立美術館 中西夏之展」朝日新聞(夕刊), 1985年8月3日
- 蒼悟「中西夏之の世界」西日本新聞(北九州版), 1985年8月11日
- 「〈STARDUST〉艶紫 中西夏之」『芸術新潮』no.429, 1985年9月, p.75
- 田中幸人「踊る点・線・空間」毎日新聞(夕刊), 1985年11月29日
- 米 [米倉守]「生き方を抽象化」朝日新聞(夕刊), 1985年11月30日
- 孔「人類の遺産『敦煌展』炎の人『ゴッホ展』そして中西夏之」『第三文明』1985年12月
- 乾由明、酒井忠康、東野芳明、米倉守「〈座談会=美術季評・'86春〉芸術とエコロジー」『季刊みづゑ』no.938, 1986年3月, p.44, 47
- 米 [米倉守]「体感を得る絵画」朝日新聞(夕刊), 1986年7月12日
- Arturo Silva, “Glimpse of Contemporary Works” *The Daily Yomiuri*, 1986.7.16
- 谷川晃一「土方巽舞踏ポスター展」『朝日ジャーナル』no.1435, 1986年7月18日
- 田中幸人「中西夏之、河口龍夫の新作、旧作 未来と過去が引つ張り合う」毎日新聞(夕刊), 1986年7月22日
- 田中幸人「中西夏之展 絶対美の世界」毎日新聞(夕刊), 1986年11月21日
- 米 [米倉守]「視覚効果を出す 中西夏之」朝日新聞(夕刊), 1986年12月3日
- 「中西夏之の人氣」『芸術新潮』no.445, 1987年1月, p.83
- 藍龍「展評東京I」『三彩』no.472, 1987年1月, pp.94-95
- 中村英樹「中西夏之展 あでやかに薄く」『美術手帖』no.573, 1987年1月, pp.172-173
- 大岡信「〈隨筆〉パリ『前衛芸術の日本展』印象」『芸術新潮』no.446, 1987年2月, p.89
- 「〈アーバンNOW〉パリで初の日本前衛展、文化のミジ浮き彫り—本家の手で“検証”」日本経済新聞(夕刊), 1987年2月9日
- 岡田隆彦「〈美術の現在〉日本美術の見られ方」『海燕』vol.6 no.3, 1987年3月, p.91
- 乾由明、酒井忠康、東野芳明、米倉守「〈座談会=美術季評・'87春〉美術ジャーナリズムと美術批評」『季刊みづゑ』no.942, 1987年3月, p.108, 118, 119, 120

- 南條史生「(World Art Report) 日本美術がパリの国際舞台に初の本格的登場!」『アトリエ』no.722, 1987年4月, p.85
- 前野寿邦「(Beaux-arts) 問われる日本」『ふらんす』vol.62-4, 1987年4月, p.43
- 安「使用体系に反抗 オブジェ—逸脱する物質展」読売新聞(夕刊), 1987年5月22日
- O「多彩な表現行為の跡(オブジェ—逸脱する物質)展」京都新聞, 1987年5月23日
- 前田敦子「オブジェ—逸脱する物質—困いの中のオブジェたち」『美術手帖』no.582, 1987年7月, pp.192-193
- M「抽象画面に日本の美意識—中西夏之個展」産経新聞(夕刊), 1988年6月15日
- 米[米倉守]「異常な緊迫感放つ 中西夏之展」朝日新聞(夕刊), 1988年6月17日
- 田中幸人「世界に誇れる現代絵画の出現」毎日新聞(夕刊), 1988年6月17日
- 千葉成夫「季評 現代美術 新たな作風を展開」東京新聞(夕刊), 1988年6月28日
- 藍龍「展評東京」『三彩』no.491, 1988年8月, pp.106-107
- 峯村敏明「(CULTURE FORUM 美術) 絵は正面から見るべし」『知識』no.85, 1989年1月, p.328
- 三田晴夫「(状況と現場1988) 環境的変動のうねりのなかで 1988年・東京の個展から」『美術手帖』no.604, 1989年1月増刊, p.17
- James Roberts, "Natsuyuki Nakanishi NISHIMURA GALLERY" *artscribe*, no.74, 1989.Mar/Apr, pp.92-93
- 小林等「中西夏之展へ」『ミュージアム・レポート(西武美術館月報)』no.62, 1989年4月
- 虻「あいまいさを拒絶し陰影で問いかける美 中西夏之展、東京・池袋で」朝日新聞(夕刊), 1989年4月12日
- 田中幸人「『正面』ですくい取る絵画 中西夏之展」毎日新聞(夕刊), 1989年4月14日
- 川「立ち上がる『絵の肉体』中西夏之展」読売新聞(夕刊), 1989年4月21日
- Jonet Koplos, "ARTS /What Do You See?" *ASAHI EVENING NEWS*, 1989.4.21
- 菅「菅原教夫」(美術) 現代絵画、意欲的な検証 第19回現代日本美術展」読売新聞(夕刊), 1989年5月1日
- 「(STARDUST) 中西夏之10年間の密度」『芸術新潮』no.474, 1989年6月, p.104
- 浅田彰「スキャンダラスな午後43眼の散歩」『マリ・クレール』no.80, 1989年7月, pp.280-281
- 三田晴夫「REVIEWS [東京]」『美術手帖』no.611, 1989年7月, pp.217-219
- 光田由里「『現代日本美術展』について」『季刊美術批評誌 非』no.3, 1989年夏, pp.124-125
- Arturo Silva, "Tokyo: Natsuyuki Nakanishi" *Artforum International*; Los Angeles, 28-6, Feb 1990, p.155
- 「中西夏之展 白絵の具の軌跡」新美術新聞, 1990年7月11日
- 虻「(美術) 思惟と視覚的な美 中西夏之展」朝日新聞(夕刊), 1990年7月13日
- 田中幸人「絵画史を刺激する実験」毎日新聞(夕刊), 1990年7月24日
- Joel Perron, "Colors become animate in Japan in ephemeral paintings" *Japan Times*, 1990.7.29
- 直「中西夏之展 不思議な絵画の“森”」信濃毎日新聞, 1990年7月30日
- 今泉省彦「画家の自信と円熟 中西夏之個展」図書新聞, 1990年8月11日
- 「(これが良かった! 先月の展覧会から) めくるめく色彩と思考の輪舞 中西夏之の新作展」『月刊美術』no.180, 1990年9月, p.243, 245
- 藍龍「展評東京」『三彩』no.517, 1990年10月, p.118
- 三「(美術) 色の表現で様々な試み 色相の詩学展」朝日新聞(夕刊), 1991年11月19日
- 虻「(美術) 前衛美術振り返る『日本の現代美術1945-1985』展」朝日新聞(夕刊), 1992年3月3日
- M「薫風に乱舞する形 中西夏之展」産経新聞(夕刊), 1992年5月18日
- 三田晴夫「網膜に『直進』する色彩」毎日新聞(夕刊), 1992年5月18日
- Y「鮮烈な発語の行方」東京新聞(夕刊), 1992年5月22日
- 「中西夏之の“花吹雪”」『芸術新潮』no.511, 1992年7月, p.89
- 武井邦彦「展評TOKYO」『三彩』no.538, 1992年7月, pp.96-97
- 西村智弘「(Museum Review) 収蔵作品展 反復と増殖—現代美術のかたち 東京都美術館企画展示室」『美術手帖』no.669, 1993年5月, p.178
- 菅原教夫「アメリカ人が総括した戦後日本の前衛美術 横浜美術館が半世紀を検証」読売新聞(夕刊), 1994年2月22日
- 「(TEMPO Arts) 『身体が芸術になる時』展の薄気味悪い作品群」『週刊新潮』no.1953, 1994年4月21日, p.36
- 秋山修「(新・画商日記) ⑩『戦後日本の前衛美術』展を見て」『美術の窓』no.136, 1994年5・6月, p.83
- 久田修「彷徨うカオスから秩序へ」『ART TOWN nagoya』no.126, 1994年7月
- Holland Cotter, "ART REVIEW; Japan's Avant-Garde Makes Its Own Points: Review" *New York Times*, Late edition (East Coast), 1994.9.16
- 三田晴夫「(美術) 中西夏之展 清冽な生気みなぎる」毎日新聞(夕刊), 1994年10月4日
- 赤瀬川原平「展覧会探検術—アートが面白い—①中西夏之展」『家庭画報』1995年1月
- 土志田ミツオ「(展覧会レポート) 『戦後日本の前衛美術』と『Japanese Art After 1945』とのあいだに」『SD』no.364, 1995年1月, p.175
- 町田和洋「模索ぶり伝える絵画の“設計図” 名古屋で中西夏之展」朝日新聞(名古屋・夕刊), 1995年2月17日
- 村上善男「“見えない色彩”浮上 中西夏之新作版画展」陸奥新報, 1995年2月18日
- 芦田みゆき「『HOGO群』高速の停止 しかし絵画は以前にもまして動いている」図書新聞, 1995年3月18日
- 「『戦後文化の軌跡』展、特集『戦後50年』…『美術の半世紀』企画続々」読売新聞(夕刊), 1995年5月20日
- 菅「菅原教夫」(美術) 『KARADAがARTになるとき』展 肉体への関心、半世紀を概観」読売新聞(夕刊), 1995年5月24日
- 北沢憲昭「中西夏之展 静かな惑乱へ誘う」東京新聞(夕刊), 1995年12月8日
- 三田晴夫「中西夏之展 光と影が刻む未知の風景」毎日新聞(夕刊), 1995年12月12日
- 「中西夏之『着陸と着水』 夢想へいざなう純粋さと厳密さ」読売新聞(夕刊), 1995年12月16日
- 「(TOPIX) 舞踏と絵画をめぐる画家・中西夏之の冒険」『美術手帖』no.718, 1996年1月, pp.178-179
- 「(STARDUST) 中西夏之の“盛り塩”舞台」『芸術新潮』no.553, 1996年1月, p.107
- 堀江敏幸「(新潮) 電信柱の教え」『新潮』no.1094, 1996年3月1日, p.169
- 「(特集 展覧会のオムニバス) 中西夏之展 白く、強い、目前、へ」『ミュージアム・マガジン・ドーム』no.31, 1997年4月, p.8
- 三田晴夫「(美術) 美術の内がわ・外がわ展 現代美術に近づく有効な手だて」毎日新聞(夕刊), 1996年4月30日
- 山梨俊夫「中西夏之展 広く柔らかなシステム内包」東京新聞(夕刊), 1997年1月24日

- Arturo Silva, "Intense presence of white at MOT" *Japan Times*, 1997.1.26
- 難波英夫「中西夏之展—白く、強い、目前、へ〈え〉が〈あ〉や〈い〉であることは展開であり、〈絵〉としてゆくことが追求である」『週刊エコノミスト』1997年1月28日
- 田中三蔵「〈美術〉『中西夏之展』反芸術の出家者『還俗』の軌跡」朝日新聞(夕刊), 1997年2月13日
- 菅「菅原教夫」『中西夏之展 絵画の成り立ち問うスリリングな作品群』読売新聞(夕刊), 1997年2月18日
- 高島直之「『中西夏之展』思考の論理性と画像の官能性が合体し、見る者の身体を揺るがす」『アサヒグラフ』1997年2月28日
- 三田晴夫「〈企画展〉の現在 まなざしの中に浮き上がるアート『中西夏之展』と『デ・ジェンダリズム』」毎日新聞(夕刊), 1997年3月6日
- 宝玉正彦「分類・解釈拒絶する美しさ 中西夏之展」日本経済新聞, 1997年3月7日
- Robert Reed, "At last, the center of attention" *The Daily Yomiuri*, 1997.3.11
- 北小路隆志「『中西夏之展、白く、強い、目前、へ』砂漠としての絵画、絵画としての砂漠」『スタジオボイス』vol.255, 1997年3月, p.67
- 林洋子「佇みのための装置/考えるための雑誌」『アート・マガジン〈エル・アール〉』no.1, 1997年4月, p.7
- 建島哲「『中西夏之展』をみて 不穏な破碎の感覚」図書新聞, 1997年4月19日
- 「“わからない”現代美術を紹介/東京・板橋区立美術館」読売新聞, 1997年5月23日
- 三田晴夫「〈美術〉近代日本の美術—100年の軌跡 流れをきちんと踏まえた300点」毎日新聞(夕刊), 1997年8月18日
- 「〈STARDUST〉中西夏之 ぶだん着姿のタブロー」『芸術新潮』no.573, 1997年9月, p.100
- 菅原教夫「〈97・回顧〉『現代の自画像』を模索」読売新聞(夕刊), 1997年12月12日
- 小林昌廣「〈ENQUETE〉アートにおける身体性にこだわる」『美術手帖』no.751, 1998年1月増刊, p.53
- 三田晴夫「〈ENQUETE〉交錯する明と暗」『美術手帖』no.751, 1998年1月増刊, p.55
- 菅原教夫「〈ENQUETE〉10の出来事」『美術手帖』no.751, 1998年1月増刊, p.57
- 田中三蔵「〈ENQUETE〉底流に変化のさざし」『美術手帖』no.751, 1998年1月増刊, p.59
- 平芳幸浩「〈ENQUETE〉境界線上の芸術」『美術手帖』no.751, 1998年1月増刊, p.63
- 森司「〈ENQUETE〉昨年の傾向から」『美術手帖』no.751, 1998年1月増刊, p.65
- Joel Perron, "TOKYO Natsuyuki Nakanishi at the Museum of Contemporary Art", *Art in America*, 86-2, 1998.2, p.114
- 「高松次郎さん(本名・新八郎 美術家)死去『ハブニング』の前衛美術家」読売新聞(夕刊), 1998年6月25日
- 赤瀬川原平「高松次郎氏を悼む 快感の絵画、硬質の論理」読売新聞(夕刊), 1998年6月26日
- 三田晴夫「〈現代アート考〉記録と芸術 時代の鼓動鮮やかに」毎日新聞(夕刊), 1998年8月20日
- 「〈書評B〉記者が選ぶ『奇想の展覧会』種村季弘著」読売新聞, 1998年9月13日
- 「〈STARDUST〉“物故”画廊を資料で追善 疾駆けたギャラリーの記録(軌跡)展」『芸術新潮』no.586, 1998年10月, p.102
- 昇「〈美術〉中西夏之展」中日新聞(夕刊), 1999年8月16日
- 三田晴夫「中西夏之展 凝集かつのらせる新展開」毎日新聞(夕刊), 2000年11月6日
- 田中三蔵「表現を委容させた自由な可塑性『プラスチックの時代』展」朝日新聞(夕刊), 2000年11月24日
- 遠藤徹「〈展評 美術館〉『プラスチックの時代:美術とデザイン』展」『美術手帖』no.796, 2000年12月, p.195
- 梅津元「〈話題の展覧会〉から プラスチックの時代—美術とデザイン 20世紀を革新した物質の持つ『変な感じ』」『月刊美術』no.303, 2000年12月, p.206
- 三田晴夫「〈現代アート考〉創造の時間 感銘呼ぶ中西絵画の生誕劇」毎日新聞(夕刊), 2002年5月15日
- 「〈美術前線〉中西夏之《柔かに、還元》名古屋美術館 完成までの思索たどる」朝日新聞(夕刊), 2002年5月15日
- 「現代絵画の到達点 中西夏之・広さと近さ—絵の姿形」朝日新聞(名古屋), 2002年12月17日
- 田中三蔵「〈美術〉立ちどまらぬ『幸福な前衛』中西夏之の四つの展覧会」朝日新聞(夕刊), 2003年1月23日
- 三田晴夫「〈現代アート考〉中西夏之と絵画 公開制作と新作で存在感示す」毎日新聞(夕刊), 2003年1月23日
- "Nakanishi retrospective shows artist is still lighting our lives, ARTSWEEKEND6" *The Daily Yomiuri*, 2003.1.23
- 菅「菅原教夫」『中西夏之展 独自の絵画観、解釈の醍醐味』読売新聞(夕刊), 2003年1月30日
- 荻原佐和子「教育者中西夏之の『中西夏之』退官記念展」『EDITORIAL EYE』『セゾンアートプログラム ニュースレター』No.44, 2003年2月
- 「個展相次ぐ中西夏之 不安定な場に宿る洗練された『美』挑発する画面からの問いかけ」神戸新聞, 2003年2月14日
- 「洗練の中に込めた問い 来月退官 東京芸大教授・中西夏之 各地で個展、公開制作も」河北新聞, 2003年2月16日
- 「〈美術館だより〉中西夏之 白いクサビ 日射の中で」中日新聞, 2003年3月24日
- 「松山市で中西夏之展 ダイナミックな絵画90点を紹介」毎日新聞(愛媛), 2003年4月13日
- 「中西夏之展 広さと近さ—絵の姿形 年代超え呼応する作品群」愛媛新聞, 2003年4月15日
- 「絵画の存在意義、手法凝らし追求 松山で中西夏之展」朝日新聞(愛媛), 2003年5月17日
- 菅原教夫「『肉体のシュルレアリスム 舞踏家土方巽抄』展 よみがえる『叛乱』」読売新聞(夕刊), 2003年11月6日
- 田中三蔵「〈美術〉『肉体のシュルレアリスム 舞踏家土方巽抄』展」朝日新聞(夕刊), 2003年12月24日
- 三田晴夫「〈美術〉森美術館で『六本木クロッシング』展 多元化・横断化するアート」毎日新聞(夕刊), 2004年2月18日
- 大西若人「六本木クロッシング 日本美術の新しい展望2004 笑いが恐怖に」朝日新聞(夕刊), 2004年3月25日
- 三田晴夫「二つの中西夏之展 総身興奮 場と絵画」毎日新聞(夕刊), 2004年4月20日
- 菅原教夫「〈美術〉中西夏之展 異界からの波動 招き寄せる器」読売新聞(夕刊), 2004年4月22日
- "Nakanishi 'Touching Down' on land and water, ARTSWEEKEND6" *The Daily Yomiuri*, 2004.4.22
- 大西若人「〈美術〉『中西夏之展』と『村上隆展』現代の視覚巡る往復運動」朝日新聞(夕刊), 2004年6月3日
- 三田晴夫「中上清展/中西夏之展 イメージと空間の発生劇」毎日新聞(夕刊), 2005年10月25日
- 岡田智美「画家・中西夏之さん 倉敷で展覧会 驚くべき絵への探究心」山陽新聞, 2007年6月15日
- 三田晴夫「〈現代アート考〉中西夏之の絵画 染み入る色彩、特異な筆触」毎日新聞(夕刊), 2008年4月10日
- 田中三蔵「〈美術〉中西夏之新作展 どう発展? 新たな謎に楽しみ増幅」朝日新聞(夕刊), 2008年4月16日
- 菅原教夫「〈創造神話〉中西夏之 新作展 川面の下、水の混沌」読売新聞, 2008年5月8日
- 島敦彦「〈ART or 審美のアンゲル〉絵画の始原を問う 中西夏之新作展」産経新聞(大阪), 2008年5月12日
- 小川敦生「〈アート探求〉中西夏之、紫を描く『平ら』への恐怖打ち消す」日本経済新聞, 2008年5月18日
- 三田晴夫「〈アートの風〉小林正人展/中西夏之展 生成するアイデアとしての絵画」毎日新聞(夕刊), 2010年10月13日

- 岸桂子「〈@展覧会〉クロニクル1947-1963 アンデパンダンの時代」毎日新聞(夕刊), 2011年1月11日
- 三田晴夫「〈アート風:1月〉石子順造の世界展 評論家にちなんだ問題提起」毎日新聞(夕刊), 2012年1月10日
- 西岡一正「昭和40年代に切り込んだ目 キッチュから芸術再考 評論家・石子順造の回顧展」朝日新聞(夕刊), 2012年1月25日
- 「〈展覧会〉土方巽+中西夏之「背面」ほか」毎日新聞(夕刊), 2012年5月30日
- 三田晴夫「〈アート風:6月〉「背面」展と『フラウスケープ』展」毎日新聞(夕刊), 2012年6月13日
- 「〈遠望〉絵画の新しい扉開く 中西夏之さん(美術家) 宇宙規模の発想基に」岩手日報, 2012年10月4日
- 「生き方出る『自画像』東京・銀座で芸術家9人新作展」朝日新聞(夕刊), 2012年10月10日
- 三田晴夫「〈アート風:10月〉自画像2012展 己の先に生と死を見つめ」毎日新聞(夕刊), 2012年10月10日
- 「遠望=中西夏之さん キャンバスに宇宙規模の発想 新しい領域へ挑戦続く」信濃毎日新聞, 2012年10月26日
- Holland Cotter, "A Feisty Phoenix From the Nuclear Ashes: Review" *New York Times*, Late edition (East Coast), 2012.11.16
- 大西若人「〈評・美術〉中西夏之展 作者目線 新鮮な空間」朝日新聞(夕刊), 2012年11月21日
- 高橋昌宏「街中の前衛芸術、3人の軌跡 名古屋市美術館でハイレッド・センター展」朝日新聞(東海), 2013年11月27日
- 岸桂子「〈評 美術〉中西夏之展 絵画の起源探る」毎日新聞(夕刊), 2012年12月12日
- 光田由里「(特別寄稿) ブラッシュアップされた「戦後美術」の見取り図として ~ニューヨーク近代美術館での「TOKYO 1955-1970:新しい前衛」展」『国際交流基金ウェブマガジン「をちこち」』, 2013年1月15日配信 <https://www.wochikochi.jp/special/2013/01/moma-tokyo.php>
- 林道郎「MoMAで「TOKYO 1955-1970」展 東京の膨張 豊穡な混沌」読売新聞, 2013年2月7日
- 「遠望 絵画の新しい扉開く 美術家の中西夏之さん 観念「破壊」し自由に」宮崎毎日新聞, 2013年2月14日
- 高野清見「〈美術〉災厄へ静かなまなざし 茨城県近代美術館「二年後。」展」読売新聞, 2013年2月28日
- 「名古屋市美術館で8日、前衛芸術集団ハイレッド・センターの(窓)」日本経済新聞(名古屋), 2013年11月9日
- 加治屋健司「ハイレッド・センター展 共犯関係へ誘う直接行動」読売新聞, 2013年11月28日
- 天野一夫「〈美術〉ハイレッド・センター:「直接行動」の軌跡展一問一答続けた美術の内と外」日本経済新聞(夕刊・名古屋), 2013年12月12日
- 西岡一正「時代より先に生まれた芸術―戦後の前衛に光 人々の覚醒と予言と ハイレッド・センター/工藤哲巳」朝日新聞(夕刊), 2014年2月19日
- 「展示:「加納 中西」展 北九州美術館」毎日新聞(西部), 2014年2月22日
- Jeff Michael Hammond, "Hi-Red Center's quiet actions continue to reverberate today" *Japan Times*, 2014.2.27
- 成相肇「〈REVIEWS〉HRCふたたび裁かる!」『美術手帖』no.1000, 2014年3月
- 井「〈ARTプラス〉60年代の前衛展続々」読売新聞(夕刊), 2014年3月3日
- 大西若人「〈評・美術〉『泥とゼリー』絵の具の質感を堪能」朝日新聞(夕刊), 2014年3月5日
- 「中西夏之さん NY個展」読売新聞, 2014年6月20日
- 島敦彦「〈テーマII 世界の中の日本美術批評〉ニューヨーク近代美術館「東京1955-1970 新しい前衛」をめぐって」『aica Japan news letter ウェブ版:美術評論家連盟会報』vol.4, 2014年11月, p.14
- 三田晴夫「〈評論の眼〉中西夏之展 逝った絵画の使徒」『月刊ギャラリー』no.380, 2016年12月, pp.68-69
- 千葉真智子「〈美術〉『モネ それからの100年』―先見性、嫡子作品通じ再認識」日本経済新聞, 2018年5月30日
- 横山由季子「〈REVIEW〉モネ以降の美術史、そして現代美術への影響。横山由季子が見た、「モネ それからの100年」展」『美術手帖(ウェブ)』2018年8月2日配信
- 大西若人「明滅し刻む数字、何を見るか『宮島達男 クロニクル1995-2020』展」朝日新聞(夕刊), 2020年10月27日
- 平林由梨「〈展評〉展覧会 ヴォイド オブ ニッポン 戦後美術史のある風景と反復進行 時代超えた響き合い」毎日新聞(夕刊), 2022年9月21日
- 西田理人「鉄道と美術、並走した150年 東京ステーションギャラリー」朝日新聞(夕刊), 2022年11月22日
- 赤塚佳彦「並走し交錯した近現代史、鉄道と美術の150年、「触発と挑発」の関係、今も」日本経済新聞, 2022年12月3日
- 大西若人「〈評・美術〉『Re:スタートライン 1963-1970/2023』伝説展、60年代のすごみに興奮」朝日新聞(夕刊), 2023年6月6日
- 今岡達弥「京近美 開館時の表現回顧 1963~70年の紹介作から80点」読売新聞(大阪夕刊), 2023年6月24日
- 田中ぬれ奈「お面やX線写真、美術家8人の自画像展 東京・銀座」朝日新聞(夕刊), 2024年12月3日
- 田中ぬれ奈「脳出血後のX線写真、洗濯ばさみに挟まれる顔…美術家8人の自画像展」朝日新聞デジタル, 2024年12月6日配信
- 高橋咲子「〈ART〉映し合う『自己』と時代 東京・銀座で『自画像』展」毎日新聞(夕刊), 2024年12月9日
- 小松やしほ「〈Topics〉三島由紀夫テーマにグループ展」毎日新聞(夕刊), 2025年7月28日
- 「〈文化往来〉三島由紀夫『豊饒の海』生誕100年 作品テーマに美術展」日本経済新聞, 2025年8月23日

5-c その他

- 「展覧会予告」『三彩』no.102, 1958年7月, p.77
- 「展覧会予告」『三彩』no.103, 1958年8月, p.74
- 「展覧会予告」『美術手帖』no.145, 1958年8月, p.152
- 「展覧会予告」『アトリエ』no.378, 1958年8月, p.100
- 「展覧会予告」『美術手帖』no.162, 1959年9月, p.146
- 「展覧会予告」『三彩』no.118, 1959年9月, p.74
- 東野芳明「パンチュール・メタフィジックの旗の下に」『芸術新潮』no.123, 1960年3月, pp.66-75
- オク・マサミ「今日の日本の芸術」『相・SOH』(1), 1960年4月, p.5
- 高階秀爾「特集・3 明日の美術・明日の作家 批評家9氏のアンケート」『芸術新潮』no.125, 1960年5月, p.148
- 中原佑介「色彩は失われた 現代美術への一石」『芸術新潮』no.127, 1960年7月, pp.96-117
- 「展覧会評」(図版のみ)『三彩』no.128, 1960年7月, p.70
- 針生一郎「危機のなかの前衛群」『美術手帖』no.183, 1961年1月, p.30
- 針生一郎「実験展という名の実験」『美術手帖』no.190, 1961年6月, pp.27-32
- 「秋の制作」朝日新聞(夕刊), 1961年8月25日
- 「火と鉄の画家」『週刊読売』no.38, 1961年9月17日

- 西「〈今日の顔〉鉄と火花の幻影に燃やしつづける執念 中西夏之」読売新聞(夕刊), 1961年11月27日
- 針生一郎「1961年 美術白書」『美術手帖』no.198, 1961年12月増刊, p.34
- 東野芳明「鳥鷺覚今様碧眼芸術家評判記」『美術手帖』no.198, 1961年12月増刊, p.46
- 「〈あの人・この人〉工具さんにされた 前衛画家 中西夏之氏」『週刊読売』no.50, 1961年12月10日, p.76
- 「〈タウン・美術〉中西夏之彫刻展」『週刊新潮』no.365, 1961年12月25日, p.16
- Christer Stromholm, "Hos Konstnarer i Tokyo", *KONSTREVY*, no.2, 1962, pp.52-57
- 針生一郎「現代絵画と記号の冒険」『美術手帖』no.201, 1962年3月, pp.8-27
- 長良棟「エクイブメント・プラン」『形象』no.5, 1962年3月, pp.5-9
- 針生一郎「1961年美術白書」『美術手帖』no.198, 1961年 12月増刊, pp.33-42
- 「山手線を一周する」『美術手帖』no.213, 1962年12月, p.77
- 中原佑介「1962/美術界 前衛の行方」『美術手帖』no.214, 1962年12月増刊, pp.61-68
- 中原佑介「(美術) 磯辺行久個展 自己の表現を排除」読売新聞(夕刊), 1962年12月29日
- 奥英了「〈新人登場〉磯辺行久」『美術手帖』no.215, 1963年1月, pp.92-93
- 長良棟「アンデパンダン展に喪章を送れ 又は君達、美術館から溢れ出よ」『形象』no.7, 1963年2月, 巻頭挿入頁
- オク・マサミ「新人登場 小島広志」『美術手帖』no.217, 1963年3月
- 大岡信「〈INTERVIEW〉東京のティンゲリー」『美術手帖』no.220, 1963年5月, pp.13-18
- 宗左近「〈美術〉日本の前衛」『新婦人』vol.18-5, 1963年5月, pp.178-179
- 「ポケットギャラリー」『形象』no.8, 1963年5月, p.18
- 長良棟「直接行動の兆し」『形象』no.8, 1963年5月, pp.30-34
- 長良棟「彼等のそれは思想伝達の具たり得るか」『形象』no.8, 1963年5月, pp.35-36
- 今泉省彦「彼等のそれは思想伝達の具たり得るか」『Independent Review』No.1, 1963年6月, pp.40-41
- 建島覚造「〈造型の要素について〉6 単体より集合体へ—重力からの独立—」『新婦人』vol.18-6, 1963年6月, p.147
- 平田実「フォト・ドキュメント 奇妙な芸術家たち」『推理ストーリー』1963年7月号, pp.3-10
- 針生一郎「〈新連載・批評家の手帖〉観客はどこにいる」『藝術生活』no.184, 1963年7月, pp.76-87
- 山口勝弘「実験精神と擬古的な方法」『美術手帖』no.222, 1963年7月, pp.9-11
- オク・マサミ「〈新人登場〉豊島壯六」『美術手帖』no.224, 1963年8月, p.76
- 宗左近「〈SHINFUJIN クリティック〈美術〉〉銀座の氷山」『新婦人』vol.18-8, 1963年8月, p.180
- 針生一郎「〈戦後美術盛衰史〉8 第三期の群像」『美術手帖』no.225, 1963年9月, pp.91-94
- 栗田勇「前衛への招待〜破壊的人生論」『新婦人』vol.18-9, 1963年9月, pp.177-187
- 「〈日本の美術はどう動いたか=アンフォルメル以後〉ハイレッド・センター」『記録写真』『美術手帖』no.227, 1963年10月増刊, pp.35-40
- ハイレッド・センター「あなた(美術手帖増刊号この頁の読者である)への通牒」『美術手帖』no.227, 1963年10月増刊, p.38
- 中原佑介「ハイレッド・センター」『美術手帖』p.227, 1963年10月増刊, p.40
- 宮川淳「アンフォルメル以後の日本の美術—変貌の推移・モンタージュ風に」『美術手帖』no.227, 1963年10月増刊, pp.49-64
- 中原佑介・東野芳明・針生一郎「混沌から多様な個別化へ」『美術手帖』no.227, 1963年10月増刊, 1963年10月, pp.65-102
- 「NAIQUA TIMES NO.1」『美術手帖』no.227, 1963年10月増刊, 裏表紙見返し
- 中原佑介「人物スケッチ ハイ・レッド・センター「!」の芸術家たち」日本読書新聞, 1963年12月23日
- 中原佑介「1962美術界 前衛のゆくえ」『美術手帖』no.230, 1963年12月増刊, pp.61-68
- 中原佑介「現代美術の「描く」描く思想について」『美術手帖』no.231, 1964年1月, p.47
- 東野芳明「〈現代作家の発言・日本の先鋭たち〉編集雑話」『みづゑ』no.707, 1964年1月, p.42
- 針生一郎「秀作展に出ると出ないと」『芸術新潮』no.170, 1964年2月, p.157
- 渋沢良平「〈読者から〉芸術と行為とブランクトン」『美術手帖』no.233, 1964年3月, p.131
- 針生一郎「アンデパンダン展は消えたが……」『芸術新潮』no.171, 1964年3月, p.167, 168
- 中原佑介「「反芸術」と現代」『教育美術』vol.25-3, 1964年3月, p.25, 30
- 山口勝弘「〈不定形美術ろん・4〉何かことが起こる」『新婦人』vol.19-4, 1964年4月, pp.124-127
- 大岡信「〈美術〉芸術・反芸術」『新婦人』vol.19-4, 1964年4月, pp.160-161
- 東野芳明「さようなら 読売アンデパンダン展」『美術手帖』no.234, 1964年4月, pp.11-27
- 針生一郎「二つの提案 アンデパンダン展将来のために」『美術手帖』no.234, 1964年4月, pp.28-30
- 宮川淳「反芸術 その日常性への下降」『美術手帖』no.234, 1964年4月, pp.48-57
- 針生一郎「美大を卒業したけれど……—卒業制作展をめぐって—」『芸術新潮』no.172, 1964年4月, p.158
- 東野芳明「異説・「反芸術」—「宮川淳」以後—」『美術手帖』no.236, 1964年5月, pp.46-49
- 宮田国男「必要なのは内科であって外科ではない」『美術手帖』no.236, 1964年5月, pp.56-57
- 高松次郎「〈読者から〉目に薬を!」『美術手帖』no.236, 1964年5月, p.131
- 「〈手帳〉横浜市に「現代美術館」設立委員10氏を決める」読売新聞(夕刊), 1964年5月30日
- 「機関(形象改メ)」no.9, 1964年6月
- 篠原有司男「NEW POP・NEW JUNK・NEW JOY OFF MUSEUM 椿近代画廊」『美術ジャーナル』no.49, 1964年6月, pp.10-13
- 深沢七郎「物と事 オフ・ミュージアム展に出品して」『文藝』vol.3-8, 1964年8月, pp.204-206
- 日向あき子「複数表現による伝達—アメリカのポップ・アート—」『美術手帖』no.241, 1964年9月, p.18
- 「バタフィジックの窓」『美術手帖』no.241, 1964年9月, p.31
- 「世界の現代彫刻」『別冊みづゑ』no.41, 1964年9月, p.54, 72
- 中原佑介、若林奮、最上寿之、志水晴児「〈座談会〉創造を支えるもの」『別冊みづゑ』no.41, 1964年9月, p.82
- 刀根泰尚「第1回刀根賞作曲募集」『音楽芸術』vol.22-10, 1964年9月, 広告欄
- 佐藤重臣「〈群像〉'64-9 シネマ・アンデパンダンあるいはカッコよきアウトサイダーたち」『新婦人』vol.19-9, 1964年9月, p.104

- 平田実「何という芸術?」「アサヒ芸能」no.958, 1964年11月28日, pp.67-73
- 「〈手帖通信 絵画・彫刻〉長岡現代美術館賞設立」『美術手帖』no.245, 1964年12月, p.67
- 小林武久、一柳慧「名古屋新音楽グループあるいは「新音楽」への条件」『新婦人』vol.19-12, 1964年12月, pp.100-102
- 刀根康尚「〈群像〉'64-12 ハイ・グループあるいは幻影の時代のグループ」『新婦人』vol.19-12, 1964年12月, pp.102-104
- 山口勝弘「〈不定形美術ろん・最終回〉不特定多数÷不特定多数=あなた」『新婦人』vol.19-12, 1964年12月, pp.128-131
- 三木多聞「(64年度作品集) 個展・グループ展」『美術手帖』no.246, 1964年12月増刊, p.39
- 宮川淳「理念と機構のあいだに—アンデパンダン物語」『美術手帖』no.246, 1964年12月増刊, p.77
- 中原佑介「「反芸術」についての覚え書」『美術手帖』『美術年鑑1965』1964年12月増刊, pp.71-75
- ヨシダ・ヨシエ「一九六四年の美術界の状況」『現代美術』no.1, 1965年1月, p.96
- 「美術」『新文明』vol.15-1, 1965年1月, p.9
- 針生一郎「長岡現代美術館展の公開審査をめぐって」『美術手帖』no.248, 1965年2月, pp.28-31
- 針生一郎「菊畑茂久馬論」『現代美術』no.2, 1965年2月, p.20
- 大島辰雄「〈chronique d'art〉無からの創造—フィルム・アンデパンダンについて—」『三彩』no.182, 1965年2月, pp.64-65
- 中原佑介「篠原有司男論」『現代美術』no.3, 1965年3月, p.34
- 石子順造「時代の証人 クリティカルアーティスト論—序にかえて—」『現代美術』no.4, 1965年4月, p.63
- 大岡信「ニューヨーク近代美術館が選んだ日本の46人」『芸術新潮』no.184, 1965年4月, pp.80-87
- 「〈KBSニュース〉日本の新しい絵画・彫刻展 北米で開催」『国際文化』no.130, 1965年4月, p.20
- 飯島耕一「〈SHINFUJIN クリティック〈美術〉〉日本のポップ・アート?—篠原有司男個展」『新婦人』vol.20-4, 1965年4月, p.183
- 「異色人種を追跡する・19 八人の怒れる芸術家集団」『週刊大衆』1965年5月20日, pp.88-90
- 奥英了「賞品としての現代美術」『美術手帖』no.253, 1965年6月, p.54
- 篠原有司男「東京・画廊ある記6 内科画廊」『美術手帖』no.254, 1965年6月, p.90
- 桂川寛「絵物語戦後美術史」『美術手帖』no.256, 1965年8月, pp.8-18
- 宗左近、針生一郎「私の見る秀作・間題作」『三彩』no.189, 1965年8月, p.45
- 三木多聞「戦後の日本彫刻IX—新しい世代の擡頭と彫刻界」『三彩』no.191, 1965年9月, pp.52-59
- 三木多聞「戦後の日本彫刻X—新しい世代の胎動は彫刻の概念を変えつつある」『三彩』no.192, 1965年10月, pp.46-49
- 刀根康尚「Making of fluxus」『現代美術』no.7, 1965年11月, pp.58-60
- 三木多聞「戦後の日本彫刻 XI—アンデパンダン展によって成長した新人たちの台頭—」『三彩』no.193, 1965年11月, p.43
- 三木多聞「戦後の日本彫刻 最終回」『三彩』no.194, 1965年12月, p.65
- 中原佑介「東京の100の画廊」『芸術新潮』no.192, 1965年12月, p.78
- 『機関』no.10「特集—赤瀬川原平外二名に対する通貨及証券模造取締法違反被疑事件」1966年1月
- 石子順造「〈クリティカル・アーティスト〉3 高松次郎論」『現代美術』no.8, 1966年2月, p.20, 27
- 岡田隆彦「〈特集〉日本の現代彫刻」『SD』no.17, 1966年5月, pp.98-113
- 中原佑介、中村宏「《観光芸術》問答—往復書簡による」『美術手帖』no.270, 1966年7月, p.34
- 篠原有司男「自伝・前衛への道 6」『美術手帖』no.270, 1966年7月, p.112
- 石子順造「ハプニング以後」『美術ジャーナル』no.61, 1967年8月
- 「NAIQUA TIMES NO.2」『美術ジャーナル』no.62, 1967年9月, pp.2-3
- 鶴岡喜久「66 現代詩・視点」『詩学』no.230, 1966年9月, pp.10-11
- 渡辺武信「〈SD close up〉Thin Manの身元確認 高松次郎展」『SD』no.21, 1966年9月, p.79
- 長尾一雄、堂本正樹「三つの舞踊」『新文明』vol.16-10, 1966年10月, p.48
- 「〈東風西風〉“千円札裁判”と前衛芸術」『中央公論』no.948, 1966年10月, p.42
- 赤瀬川原平、滝口修造、中原佑介、杉本昌純「模型千円札事件公判記録」『美術手帖』no.274, 1966年11月, pp.137-168
- 「『芸術の無化計画』ハイ・レッド・センター—山の手線のイベント」『美術手帖』no.275, 1966年11月増刊, p.89
- 「〈掲載作家・略歴〉ハイ・レッド・センター」『美術手帖』no.275, 1966年11月増刊, p.112
- 池田龍雄「〈美術〉続「模型千円札 裁判傍聴記」『美術手帖』no.276, 1966年12月, pp.64-65
- 長尾一雄、堂本正樹「唐十郎とジャリの芝居」『新文明』vol.17-2, 1967年2月, p.69
- 山口勝弘「生きている前衛 第3回 増殖」『美術手帖』no.280, 1967年3月, p.114
- 東野芳明「〈書評〉世界の中の日本美術」『SD』no.28, 1967年3月, p.13
- 鶴岡喜久「67現代美術・視点」『詩学』no.238, 1967年5月, p.12
- 飯島耕一「〈美術時評〉二つの現代文明批評」『三彩』no.217, 1967年7月, p.63
- 加藤貞雄「〈眼〉国立近代美術館京都分館の昇格」『みづゑ』no.750, 1967年7月, p.40
- 飯島耕一「日本映画への鞭〜」『映画芸術』no.239, 1967年8月, pp.70-71
- 中原佑介「〈特集・裁かれる今日の芸術〉1東京 模型千円札事件—芸術は裁かれうるか」『美術手帖』no.287, 1967年9月, pp.59-70
- 「〈特集・裁かれる今日の芸術〉1東京 模型千円札事件公判記録【判決文】」『美術手帖』no.287, 1967年9月, pp.71-76
- 「〈ワールドスナップ〉美術」『芸術新潮』no.213, 1967年9月, p.130
- 石子順造「芸術と犯罪—「千円札模型」上訴のために」『三田文学』vol.54-9 [第2期], 1967年9月, p.16, 19
- 「〈国際画壇をめざす新世代〉中西夏之」『みづゑ』no.753, 1967年10月, p.17
- 「1930年以降生れの作家たち」『みづゑ』no.753, 1967年10月, p.1
- 乾由明「呪縛からの解放」『みづゑ』no.753, 1967年10月, pp.29-30
- 岡田隆彦「変化と絶対の間で」『みづゑ』no.753, 1967年10月, pp.30-32
- 東野芳明「栄光と有罪」『みづゑ』no.753, 1967年10月, pp.32-33
- 土方定一「戦後美術のマニエリスム」『みづゑ』no.753, 1967年10月, pp.33-34
- 羽永光利「特集 芸術の地下エネルギー—日本のアンダーグラウンド」『美術手帖』no.289, 1967年11月, 折込

- 刀根康尚「芸術の地殻変動」『美術手帖』no.289, 1967年11月, p.105
- 羽永光利「ゲリラ作家の脈脈をさぐる」『美術手帖』no.289, 1967年11月, pp.110-117
- 宗左近「伝統断絶の美学」『藝術生活』no.220, 1967年11月, pp.27-30
- 「現代異色作誌上展」『藝術生活』no.220, 1967年11月, pp.19-26
- 三木多聞「空間・光・時間・音響—'60年代の日本の彫刻」『みづゑ』no.754, 1967年11月, p.5, 11
- 今泉省彦「(特集・前衛芸術) 2 次は何か」『三田文学』vol.54-11 [第2期], 1967年11月, p.43
- 飯島耕一「(美術時評) 見るものを閉じこめる絵と開く絵」『三彩』no.223, 1967年12月, p.67
- 岡田隆彦「(特集・現代の芸術創造と享受の意味) くだばれ小市民的芸術観」『SD』no.37, 1967年12月, p.18
- 中原佑介「(人物素描) テオドラン財団特別賞を受賞した高松次郎」『美術手帖』no.293, 1968年1月, p.33
- 「(新しい画廊) ダーカンジェロ展をひらいた南画廊」『芸術新潮』no.217, 1968年1月, p.107
- 岡田隆彦編「(特集 現代美術を買おう) 中西夏之」『婦人公論』1968年1月, p.213
- 鶴岡喜久「68 現代詩・視点」『詩学』no.225, 1968年2月, p.12
- 岡田隆彦「(特集・変貌するオブジェ) 物体思考の変遷」『美術手帖』no.295, 1968年3月, p.106
- 「(アンケート) われらが小劇場アピール」『美術手帖』no.296, 1968年4月, p.37
- 秋山邦晴「(訪問) 高松次郎—家具による不在性への検証—」『美術手帖』no.296, 1968年4月, p.161
- 北村由雄「特集 混迷のなかの造形教育」『美術手帖』no.297, 1968年5月, p.114
- 「ご存じですか? アングラ篇 映画 演劇」『オール讀物』vol.23-5, 1968年5月, p.105
- 日向あき子「(SD column) 頭の中の大展覧会」『SD』no.42, 1968年5月, p.86
- 日向あき子「(芸術と環境の新地質学) ポップと不在の芸術」『SD』no.43, 1968年6月, p.119
- ヨシダ・ヨシエ「(特集—世界への道・日本の現代美術) 4 書き変えられる画壇地図」『美術手帖』no.300, 1968年7月, pp.108-115
- 岡田隆彦「(特集=神秘と恍惚と現代美術) 根源からあふれ出るもの」『美術手帖』no.302, 1968年9月, p.92
- 岡田隆彦「(美術) ヴンダーリヒのリトグラフ」『SD』no.46, 1968年9月, p.101
- 高松次郎インタビュー「(現代芸術のフロンティア) 不在がわれわれを駆る……」『展望』no.119, 1968年11月, p.192
- 米倉加寿恵「私的少年」『日本カメラ』no.265, 1968年11月, p.75, 77
- 「(今月の焦点) 前衛舞踊と現代美術のみごとな結晶、土方巽のブラック・ダンス」『美術手帖』no.305, 1968年12月, pp.38-39
- 三木多聞「(特集—現代美術と人間のイメージ) 3 虚の時代の不在証明—人間にとりつかれた作家たち」『美術手帖』no.305, 1968年12月, pp.94-107
- 岡田隆彦「舞踏」『SD』no.49, 1968年12月, pp.73-34
- 岡田隆彦「(事典 明日の芸術を理解するために) 高松次郎」『美術手帖』no.307, 1969年1月, p.97
- 「美学校入学案内」『美術手帖』no.307, 1969年1月, p.188
- 「(広告) 美学校」『美術手帖』no.308, 1969年1月増刊, p.130
- 「磁石の手(画像のみ)」『美術手帖』no.308, 1969年1月増刊, n.pag.
- 「(告知板) 田村画廊開催」『三彩』no.240, 1969年2月, p.85
- 「美学校入学案内」『美術手帖』no.310, 1969年3月, pp.220-221
- 岡田隆彦「(SD column 美術) 詩画集《あんま》」『SD』no.52, 1969年3月, pp.93-94
- 「(文化ジャーナル) 複製化と表現の自由—千円札裁判の最高裁上告」『朝日ジャーナル』no.526, 1969年3月9日, p.49
- 「美学校入学案内」『美術手帖』no.311, 1969年4月, p.236
- 種倉紀昭「詩画集《あんま》について」『月刊小さな蕾』no.10, 1969年4月, pp.33-42
- ジョセフ・P・ラヴ(富岡多恵子訳)「(特集=エロスのニュー・イメージ) 知覚とメディアの対話—現代芸術にみる客体としてのエロス」『美術手帖』no.312, 1969年5月, p.117
- 「告知版」『美術手帖』no.314, 1969年6月, p.19
- 大島辰雄「日本の亜流に支えられた栄光」『芸術新潮』no.236, 1969年8月, p.25, 26
- ヨシダ・ヨシエ「(芸術展望・69) ハブニングの変貌」『展望』no.128, 1969年8月, p.98
- 磯野風船子「(東日本美術館めぐり) 19 長岡現代美術館」『陶説』no.198, 1969年9月, p.69
- 「(特集 知りたい—その心のうち) 鋸山に30メートルの男の象徴を刻む工藤哲巳」『サンデー毎日』no.2651, 1969年9月21日, p.112
- 岡田隆彦「(特集=現代彫刻の展開) 実像と全体性を求めて」『美術手帖』no.318, 1969年10月, p.66
- 李禹煥「(明日をひらく芸術家) 10 高松次郎—表象作業から出会いの世界へ」『美術手帖』no.320, 1969年12月, p.144
- 「(現代美術家事典) 中西夏之」『美術手帖』no.321, 1969年12月増刊, p.247
- 三木多聞「60年代の日本美術」『美術手帖』no.321, 1969年12月増刊, pp.231-234
- 刀根康尚「(今月の焦点) 内なる芸術の価値基盤正せ」『美術手帖』no.322, 1970年1月, p.142
- 飯村隆彦「小野洋子あるいは永久的なオルガスムス」『映画評論』vol.27-1, 1970年1月, p.37
- 平岡正明「ジャズにとって日本六〇年代思想とはなにか」『ジャズ批評』no.7, 1970年1月, p.77
- 「(展覧会案内(東京)) 美学校展覧会—中村宏・中西夏之アトリエ展示」『美術手帖』no.325, 1970年3月, p.276
- 石崎浩一郎「(明日をひらく芸術家) 13 飯村隆彦—官能の映像詩」『美術手帖』no.327, 1970年5月, pp.171-172
- 飯村隆彦「インヴォルヴメント—あるいは自伝」『美術手帖』no.327, 1970年5月, p.178
- 飯島耕一「入口の観察—中西夏之に」『現代詩手帖』vol.13-5, 1970年5月, pp.42-49
- ヨシダ・ヨシエ「(特集 肉体と情念=変貌する舞踊家たち) 土方巽—むしりとる闇の彼方」『美術手帖』no.328, 1970年6月, p.75
- 古沢俊美「(特集 肉体と情念=変貌する舞踊家たち) 石井満隆—狂気・快楽・死を化術として」『美術手帖』no.328, 1970年6月, p.80
- 「(特選! 今週の情報バック) 名の売れた新人に注目せよ」『週刊ポスト』1970年6月26日, p.142
- 北村由雄「(今月の焦点) 独立した想像力の表現」『美術手帖』no.329, 1970年7月, p.113
- 吉岡康弘「(吉岡康弘のコラム) 工藤哲己(ママ)との共同作業」『映画評論』vol.27-7, 1970年7月, p.95
- 三木多聞「(今月の焦点) 一九七〇年八月展」『美術手帖』no.331, 1970年8月, p.112
- 瀬木慎一「特集 フランスの美術事典が選んだ日本の二十六人」『芸術新潮』no.248, 1970年8月, p.58

- 吉増剛造「飯島耕一詩集「私有制にかんするエスキス」発語することば封じの神」『現代詩手帖』vol.13-9, 1970年9月, p.127
- 廣「〈人物交差点〉赤瀬川原平」『中央公論』no.997, 1970年9月, p.52
- 川仁宏「細密画教場最初の1年」『アトリエ』no.524, 1970年10月, p.60
- 高松次郎「〈ぶれないと〉無色三夜」『新評』vol.17-12, 1970年10月, p.54
- 古沢俊美「現代舞踊の相貌 一出发点としての肉体」『映画評論』vol.27-10, 1970年10月, pp.71-72
- 古沢俊美「〈今月の焦点〉土方巽「播磨大踏鑑」」『美術手帖』no.334, 1970年11月, p.102
- ヨシダ・ヨシエ「書評—芸術と非芸術の間 脱オブジェから知覚の拡張へ」『SD』no.73, 1970年11月, p.112
- ヨシダ・ヨシエ「〈特集=行為する芸術家たち〉単独行為者の超劇場」『美術手帖』no.335, 1970年12月, pp.48-63
- 住吉寛治「〈ファイティングエイジ 70〉蒼ざめた野次馬を見よ 赤瀬川原平」『宣伝会議』no.207, 1970年12月, p.7
- 池田龍雄「私にとってシュルレアリスムとは何か—その私的な、そして、私史的な報告」『美術手帖』12月号増刊〈シュルレアリスム〉, 1970年12月, pp.154-161
- 種村季弘「〈特集 非日常空間への変身〉睡眠者の全知」『みづゑ』no.794, 1971年3月, pp.21-31
- 赤瀬川原平「表現は犯罪を包んでいる」『中央公論』no.1007, 1971年5月, p.171
- 岡田隆彦「〈特集 芸術は職業たりうるか《インサイド・ルポルタージュ》》美学校—〈技〉の修得に現代美術のありようを探る」『美術手帖』no.343, 1971年6月, pp.94-100
- ヨシダ・ヨシエ「戦後前衛所縁の荒事十八番〈読売アンパン〉轟沈す」『美術手帖』no.344, 1971年7月, p.256
- 石子順造「〈特別記事〉ハイレッドセンターにみる美術の〈現代〉」『美術手帖』no.345, 1971年8月, pp.184-199
- ヨシダ・ヨシエ「戦後前衛所縁の荒事十八番《VANコミュニティ》の夢」『美術手帖』no.345, 1971年8月, pp.200-208
- 和泉達 編「特報・ハイレッドセンターの全貌」『美術手帖』no.345, 1971年8月, 附録
- ヨシダ・ヨシエ「戦後前衛所縁の荒事十八番 肉体叛乱の予兆」『美術手帖』no.346, 1971年9月, p.227
- 赤塚行雄「〈美術への招待 東京〉」『ピエロタ』no.12, 1971年9月, pp.118-119
- 中原佑介「〈特集：集団の波・運動の波／60年代美術はどう動いたか〉物質から〈空間〉へ 読売アンデパンダン展以後」『美術手帖』no.347, 1971年10月, pp.26-46
- 刀根康尚編「〈特集：集団の波・運動の波／60年代美術はどう動いたか〉百花斉放・60年代初期」『美術手帖』no.347, 1971年10月, pp.47-74
- 今泉彦彦「〈特集：集団の波・運動の波／60年代美術はどう動いたか〉ハイレッドセンターにふれて」『美術手帖』no.347, 1971年10月, pp.75-85
- 「“千円札裁判へ”ツツ・法廷・行為」『美術手帖』no.347, 1971年10月, pp.86-88
- 川仁宏「〈ワイド・アングル〉無類のアンソフィスティケーション 微笑を絶やさぬ刀根康尚」『美術手帖』no.348, 1971年11月, p.19
- 菊畑茂久馬、高松次郎、刀根康尚、吉村益信「百花斉放・作家の眼」『美術手帖』no.349, 1971年12月, pp.70-93
- 嵐山光三郎「〈廃墟〉テイク・ザ・暴動鐵路(ボードレール)・トレイン」『現代詩手帖』vol.14-12, 1971年12月, p.31
- 三木多聞「〈戦後の日本美術〉戦後美術のノート—彫刻を中心に—」『三彩』no.280, 1971年12月増刊, pp.51-52
- 東野芳明、中原佑介、針生一郎、彦坂尚嘉「〈特集=新しい批評のために/60年代の地平から〉戦後美術批評の成立と展開」『美術手帖』no.350, 1972年1月, pp.75-104
- 「〈広告〉美学校」『みづゑ』no.804, 1972年1月, n.pag.
- 「〈フィードバック〉することとやること「中西夏之証言録」を読む」『美術手帖』no.352, 1972年2月, p.13 (折久美子「装幀についての私の意見」『出版ニュース』1971年12月上旬号から)
- 「加藤郁乎出版記念会」『アサヒカメラ』no.469, 1972年2月, pp.112-113
- 赤塚行雄「〈美術〉一つの見直し—画家中西夏之」『黒の手帖』vol.2-3, 1972年3月, pp.22-23
- 「美学校入学会内」『美術手帖』no.353, 1972年3月, pp.260-261
- 「〈広告〉美学校」『みづゑ』no.806, 1972年3月, n.pag.
- 刀根康尚、彦坂尚嘉編「年表：現代美術の50年 1916-1968 (下)」『美術手帖』no.355, 1972年5月, pp.25-186
- ハイレッド・センター「あなた(美術手帖増刊号この頁の読者である)への通牒(再録)」『美術手帖』no.355, 1972年5月, pp.113-115
- ヨシダ・ヨシエ「〈特集=コミュニケーション—精神の、生活の〉松沢宥・闇を透徹する共同体」『美術手帖』no.360, 1972年11月, p.48
- 「〈広告〉美学校」『みづゑ』no.814, 1972年12月, n.pag.
- 飯吉光夫「〈現代詩論〉行ってみたいな犀の邦—飯島耕一の詩論」『ユリイカ』vol.4 no.14, 1972年12月, pp.218-219
- たにあらた「芸術における〈制度〉の問題II」『美術手帖』no.362, 1973年1月, pp.317-318
- 志村克郎「現代美術の寄港5(総括編)」『思潮(総合文化集團)』vol.6, 1973年3月, pp.28-47
- ジョセフ・ラヴ(訳=松岡和子)「現代日本美術への一視覚」『美術手帖』no.366, 1973年4月, pp.37-86
- 「中西夏之の表紙デザイン—文芸総合誌(海)の表紙より」『季刊デザイン』1973年春, pp.23-26
- 「〈新潮ギャラリー〉『山頂の石蹴りno.7』中西夏之」『週刊新潮』no.890, 1973年4月12日, pp.75-77
- 宮原安春「《タージ・マハル旅行団》昼寝のための組織論」『美術手帖』no.368, 1973年6月, p.147
- 李禹煥、針生一郎 司会=平井亮一「体質診断 現代日本美術」『美術手帖』no.370, 1973年8月, pp.38-71
- 赤塚行雄、岡田隆彦、大島辰雄「〈アンケート〉戦後日本美術のなかであなたの評価する作家を若干名あげて下さい」『美術手帖』no.370, 1973年8月, pp.93-140
- 「〈美術〉おさまりの悪い「戦後美術の展開」」『芸術新潮』no.284, 1973年8月, p.45
- 宮澤壮佳「〈ART〉もうひとつの“画壇地図”—『美術手帖』のアンケートに思う」『レコード芸術』no.276, 1973年9月, p.387
- 谷川晃一「〈視線12(X)〉鉄に宿らせた不安な夢—若林奮論」『美術手帖』no.372, 1973年10月, p.183
- 長尾一雄「Lie-la-lie—うその土方巽論」『新劇』no.247, 1973年11月, p.55
- 大島辰雄「今年の美術を回顧する私のベストファイブ」『日本美術』1973年12月
- 早見堯「現代美術'73」『美術手帖』no.375, 1973年12月, pp.187-210
- 「特集=現代美術と彫刻の概念/読売アンデパンダン展以後」『美術手帖』no.376, 1974年1月, pp.57-80
- 藤枝晃雄「〈展覧会案内(東京)〉東京国際具象絵画ビエンナーレ展へ」『美術手帖』no.382, 1974年6月, p.31
- Joseph Love, "The Poetic Image in Contemporary Japanese Art" *ART INTERNATIONAL*, 1974.9 (XII /7), pp.33-34,55-56, 61
- 早見堯「〈特集/非物質の世界—イヴ・クラインによせて〉仮死の儀式」『近代建築』vol.28 no.10, 1974年10月, p.60, 62
- 早見堯「〈美術論壇時評〉仮装に関わるものとしての美術への問い」『美術手帖』no.388, 1974年12月, p.24
- 岡田隆彦、清水哲男、鈴木志郎康、高橋陸郎、吉増剛造「〈徹底討論〉今年度の主要詩集13冊」『現代詩手帖』vol.17-13, 1974年12月, p.20

- 大岡信「〈展望〉トムさんばなし」『展望』no.192, 1974年12月, p.14
- 平野重光「〈美術論壇時評〉『仮装の形式』と『パラダイム』」『美術手帖』no.393, 1975年4月, p.80
- Joseph Love, "Letter from Tokyo", *ART INTERNATIONAL*, Vol.XIX/4, 1975.4, pp.47-48
- 白倉敬彦「オブジェでもなく本でもなく/〈本・オブジェ〉展へのSupplement」『みづゑ』no.842, 1975年5月, p.37
- 巖谷國士「〈太陽の眼 美術〉書物・空虚・時間」『太陽』no.144, 1975年5月, p.152
- 飯吉光夫「〈現代詩の彼方へ〉1 いやだといつてるとたべられる」『ユリイカ』vol.7 no.7, 1975年8月, p.27
- 東野芳明「〈MIZUE JOURNAL〉2 “時代精神の根拠地” 西武美術館への共感と苦言と」『みづゑ』no.848, 1975年11月, p.41
- ヨシダ・ヨシエ「〈ジャズ史を転換したエネルギー〉昨日のこのように語るな 六〇年代アートシーンにふれて」『ジャズ批評』no.22, 1975年12月, p.66
- 相澤啓三「〈閲覧室〉描くことのシヴァ神的根拠 谷川晃一著『幻視とアラベスク』」『第三文明』no.178, 1975年12月, p.121
- 勝井三雄、坂根巖夫、中原佑介、箱崎総一「〈座談会〉エッセー、その反世界の想像力をめぐって」『みづゑ』no.853, 1976年4月, p.46
- 「シネマ・マンスリー」『現代の眼』vol.17-5, 現代評論社, 1976年5月, p.152
- Haryu Ichiro, "L'art japonais moderne," *XXe SIECLE*, no.46, 1976.9, pp.57-67
- Haryu Ichiro, "Le role de la (reproduction) dans l'art", *XXe SIECLE*, no.46, 1976.9, pp.84-95
- 吉増剛造「〈書評〉魅力に富んだ想像世界」『海』no.191, 1976年11月, p.193
- 東野芳明「舞台装置と“彫刻” 特集①彫刻外思考—アーティストによる舞台美術」『季刊現代彫刻』no.11, 1976年12月, pp.5-18
- 「中西夏之展」『美術手帖』no.414, 1976年12月, p.288
- 鈴木志郎康「〈特集—大岡信〉大岡さんの詩に、官能から憑依に至った感性を思う」『ユリイカ』vol.8 no.14, 1976年12月, p.162
- 「〈ホットライン〉盛花書店頭」『月刊美術』no.16, 1977年2月, p.127
- 市「〈美術論壇時評〉内と外、あるいはビューリダンの驢馬」『美術手帖』no.418, 1977年3月, p.109
- 中原佑介「〈現代の視覚12人〉中西夏之 謎解きの時間的展開」『中央公論』no.1081, 1977年4月
- 「〈市場の動き〉二つのオークションから—JAAと美術品公開せり市」『月刊美術』no.19, 1977年5月号, p.145
- 東野芳明「現代日本美術の展望—“ブラック・ホール”からのメッセージ」『世界』no.380, 1977年7月, p.157, 160, 161, 164
- 東野芳明「吊るされた肉体 デュシャンと踊った土方巽」『新劇』no.292, 1977年8月, p.45
- 吉増剛造「田畑あきら子の絵画」『みづゑ』no.872, 1977年11月, p.93
- 「特集・日本の現代美術入門」『月刊美術』no.26, 1977年12月, p.19, 41, 42
- 岡田隆彦「〈特集・日本の現代美術入門〉現代日本美術は確立したか? —その展開と現状をみる」『月刊美術』no.26, 1977年12月, pp.29-31
- 林紀一郎「〈特集・日本の現代美術入門〉世界の市場からみた日本現代美術」『月刊美術』no.26, 1977年12月, p.32
- 中原佑介「村上善男と語る 絵画への固執と離反」『みづゑ』no.874, 1978年1月, p.82
- 須賀昭初、高木修、彦坂尚嘉、たにあらた「〈座談会〉いま、あえて〈制作〉を」『美術手帖』no.429, 1978年1月増刊, p.13
- 「〈藝術新潮欄〉78 3 〈特集 絵本の「絵」を考える〉」『芸術新潮』no.337, 1978年3月, pp.61-63
- 「〈展覧会案内(画廊・東京)〉手塚雅人展」『美術手帖』no.435, 1978年7月, p.259
- 「〈日本の現代美術三〇年〉美学校沿革」『美学校第10期生募集要綱』『美術手帖』no.436, 1978年7月増刊, pp.4-5
- 中原佑介「〈日本の現代美術三〇年〉読売アンデパンダン展」『美術手帖』no.436, 1978年7月増刊, p.171
- 彦坂尚嘉「〈日本の現代美術三〇年〉戦後美術批評の確立」『美術手帖』no.436, 1978年7月増刊, p.179
- 東野芳明「〈日本の現代美術三〇年〉ネオ・ダダ・オルガナイザーズの五年間」『美術手帖』no.436, 1978年7月増刊, p.197
- 金井美恵子「〈連載エッセー〉二 言葉と〈ずれ〉」『海』no.115, 1978年11月, p.180
- 大岡信「〈新連載〉遙かなるキャニオン—アメリカへの旅(一)」『世界』no.398, 1978年11月, p.324
- 谷川晃一「反芸術その無法への意志と愛」『ユリイカ』vol.11 no.4, 1979年3月臨時増刊, pp.75-87
- 刀根康尚「〈ルート〉2 タイム・トラベル・イン・ジャパン」『美術手帖』no.447, 1979年4月, p.10
- 留「〈美術文化ジャーナル〉南画廊・志水楠男の急逝と現代美術」『朝日ジャーナル』no.1055, 1979年5月4日, p.75
- 東野芳明「戦後前衛画壇の守護神 志水楠男」『中央公論』no.1107, 1979年6月, p.353
- 「〈アートランダム〉追悼 滝口修造」『美術手帖』no.452, 1979年8月, p.34
- 高松次郎「日本の近代美術、私の五点」『朝日ジャーナル』no.1074, 1979年9月21日, p.93
- 瀧口修造「〈特集 瀧口修造〉磁界に沿って 中西夏之考」『現代詩手帖』vol.22-10, 1979年10月, p.49, 50, 54
- 池田龍雄「おりいぶ物語—瀧口修造氏との私的時間 1928-1979」『みすず』no.233, 1979年10月, p.71
- 赤瀬川原平「リアリスト」『みすず』no.233, 1979年10月, p.96, 97
- 大島幸夫「〈大学の人流—ともに生きた青春の絆〉東京芸術大学・油画専攻」『サンデー毎日』no.3205, 1979年10月7日, p.196
- 「〈79本誌が選んだ美術界10ニュース〉現代美術の一つの時代終焉」『月刊美術』no.52, 1980年1月, p.108
- 谷川雁「〈特集「賛否」両極の「人」〉高松次郎(賛)」『芸術新潮』no.362, 1980年2月, p.18
- 「〈市場の動き〉JAAとNAAのオークションから」『月刊美術』no.53, 1980年2月, p.129
- 柳生不二雄「〈展覧会〉礎石としての彫刻展—現代彫刻の歩み展」『美術手帖』no.462, 1980年3月, p.19
- 菅原猛「〈話題〉現代彫刻35年を歩む」『芸術新潮』no.364, 1980年4月, p.35
- 「〈文化庁ニュース〉文化庁買上げ優秀美術作品」『文化庁月報』no.139, 1980年4月, p.22
- 「〈アートランダム〉『機関』復刊」『美術手帖』no.465, 1980年5月, pp.33-34
- 早見堯「〈MIZUE JOURNAL〉2 無分節的思考「現代彫刻の歩み展」」『みづゑ』no.902, 1980年5月, p.92
- 三木多聞「現代日本美術の展開と多様性」『週刊朝日百科〈世界の美術〉』139, 1980年11月23日, pp.14, 236, 247
- 大野一雄「アルヘンチーナとの出会い」『ダンス・ワーク』28, 1980年12月, pp.20-23
- 桑原甲子雄「Magazine EYE 雑誌から」『日本カメラ』no.445, 1981年1月, p.131
- 秋田由利「美術における脱-体系化の動き—1980年・東京の個展から」『美術手帖』no.476, 1981年1月増刊, p.19
- 國吉和子「〈舞踏〉さらなる生成の深みに立つ—大野一雄舞踏公演「わたしのお母さん」」『美術手帖』no.478, 1981年3月, p.28
- 妙「〈人物交差点〉尾辻克彦」『中央公論』no.1132, 1981年3月, p.62
- 平岡正明「〈思潮の三角点 発禁を考える〉赤い風船事件」『早稲田文学』[第8次]復刊no.59, 1981年4月, p.61

- 針生一郎「〈時の人〉芥川賞受賞の画家 赤瀬川原平」『芸術新潮』no.376, 1981年4月, p.12
- 大島辰雄「TV」『芸術新潮』no.376, 1981年4月, p.117
- 鈴木志郎康「〈時評 映画〉事実と想像力の問題点—土本典昭監督「水俣の凶・物語」」『新日本文学』no.404, 1981年4月, p.6
- 峰恭介「〈ハーフ・ミラー〉いま美術大学は作り手養成か受け手育成か」『みづゑ』no.914, 1981年5月, p.116
- 大岡信「〈新潮〉友達装幀」『新潮』no.915, 1981年5月, p.177
- 飯吉光夫「〈わがともをかたる 有朋自遠方来〉高橋サン」『世界』no.428, 1981年7月, p.71
- 大野一雄「〈私にとつての美術〉私は中西夏之氏の一枚の画の中でアルヘンチーナに再会した」『季刊アート』Autumn, 1981年9月, p.102
- 宮迫千鶴「〈60年代ストリート・シャワーNo.4〉近代の“耳”から現代の“犬”へ／三木富雄と坪内一忠をめぐって」『季刊アート』Autumn, 1981年9月, pp.70-76
- 「〈話題〉富山県立近代美術館の四つの柱—小川正隆館長に聞く」『美術手帖』no.487, 1981年10月, p.28
- 米倉守「〈美術館秘蔵の一点〉中西夏之『山頂の石蹴り』(軽井沢・財団法人高輪美術館)精神のシンメトリー」『中央公論』no.1142, 1981年10月, 口絵, p.420
- Ogawa Masataka, “Contemporary Artists in Japan”, *Japan Quarterly*, vol. XXVIII no. 4, 1981.10-12
- 超「〈土曜の手帳〉カメラを酔わす制作の過程 画家・中西夏之のドキュメント」朝日新聞(夕刊), 1981年10月17日
- 「〈人往来〉キムラ電機社長藤岡康太郎氏—『卵』がかえった日」日本経済新聞, 1981年10月19日
- 今泉省彦「〈展覧会レポート〉インポ哲学と「悟り」—「工藤哲巳1977-1981」展」『美術手帖』no.488, 1981年11月, p.170
- 上野昂志「吉増剛造の歩行—『静かな場所』『螺旋形を想像せよ』を読んで」『現代詩手帖』vol.24-11, 1981年11月, pp.111-112
- 高松次郎(談)「〈展覧会で語る〉12 激動の「一九六〇年代展」」『芸術新潮』no.384, 1981年12月, p.100, 101
- 赤瀬川原平「私の触ってきた50、60年代美術」『草月』no.139, 1981年12月, pp.43-50
- 早見堯「芸術への自覚 否定の価値を通過して」『みづゑ』no.921, 1981年12月, pp.86-91
- 「〈ホットライン〉宮城県立美術館オープン」『月刊美術』no.75, 1981年12月, p.54
- 高階哲郎「移転閉館した「軽井沢財団法人高輪美術館」」『博物館研究』no.163, 1981年12月, p.63
- 岡部徳三「シルクスクリーン歴史とその周辺」『月刊染織α』1981年12月, p.24
- 高松次郎「〈アンケート—1960年代と私〉「ハイレッド・センター」と白紙還元」『現代の眼(東京国立近代美術館ニュース)』no.326, 1982年1月, p.5
- 尾辻克彦「〈このたびの旅〉納骨旅行」『旅』no.658, 1982年1月, p.146
- 境界線「〈文化ジャーナル 美術〉新人作家を登場させているイケダ・ギャラリー」『朝日ジャーナル』no.1202, 1982年2月26日, p.83
- 火野鉄平「〈ART RANDOM (ママ)〉現代芸術ってのは強迫神経症だってこと」『音楽の友』vol.40-3, 1982年3月, p.260
- 林紀一郎「世界市場と日本市場」『芸術新潮』no.387, 1982年3月, p.12
- 「〈第33回 全国カレンダー展入賞作品 全紹介〉日印工会長賞」『月刊印刷時報』no.453, 1982年3月, p.132
- 高橋健「老いさらばえた現代美術」『Lunami Journal』no.20, 1982年3-4月, p.3
- 赤瀬川原平(インタビュー)「アンドロメダ星雲のような社会」『思想の科学 第7次』no.356, 1982年6月, p.81
- 赤津侃「いま“創造の森”美術大学は」『美術手帖』no.499, 1982年7月, p.20
- 『季刊shy's normal』no.1, 1982年7月15日
- 丘「〈文化ジャーナル 美術〉瀧口修造の「開かれた精神」に呼応する催し」『朝日ジャーナル』no.1226, 1982年7月30日, p.77
- 「〈Summer Leisure 野遊満喫 夏の遊び方型録〉13 アートランプで遊ぶとなぜか芸術的な気分になる」『婦人生活』vol.36-8, 1982年8月, p.85
- 北沢憲昭「一振りの剣—中原佑介「現代彫刻」」『美術手帖』no.501, 1982年9月, p.200
- 「〈気になる雑誌数点〉Shy's normal」『美術手帖』no.502, 1982年10月, p.21
- 朝吹亮二「瀧口修造の「書斎」富山県立近代美術館「瀧口修造と戦後美術」」『現代詩手帖』vol.25-10, 1982年10月, p.111
- 宮田国男「石井満隆さんとの一週間劇團」『劇団北芸』vol.5, 1982年11月, pp.16-17
- 高田宏「ヨーロッパを興奮させた76歳の舞踏家」『新潮45』1983年3月
- 陰坊「〈Criticism〉時制の攪拌」『美術手帖』no.509, 1983年4月, pp.242-243
- 岡田隆彦「〈文化ジャーナル 美術〉なぜかいま「緑」が流行している」『朝日ジャーナル』no.1263, 1983年4月, p.73
- 今里広司「反乱する感性 土方巽 存在の核にある現在時の時間と空間」公明新聞, 1983年4月9日
- 安斎重男「東京アートシーン③ 中西夏之」『季刊アート』no.103, 1983年夏, p.64
- 大野一雄「〈特集 暗黒舞踏〉ラ・アルヘンチーナ頌(再録)『夜想』no.9, 1983年7月, pp. 24-25, 27
- 赤塚行雄「現代美術の動向IIIに向けて—60年代美術の〈ハプニング〉」『美術館ニュース』no.377, 東京都美術館, 1983年9月, pp.2-3
- 沐「文化国家てなあに」『美術手帖』no.516, 1983年10月, p.251
- 「〈Art Preview〉菊畑茂久馬展 天動説シリーズ」『三彩』no.433, 1983年10月, p.122
- 「〈特集 油絵100年・コレクション再考〉「日本交流会による洋画一世紀展」の見所」『月刊美術』no.97, 1983年10月, p.39, 54
- 「雅陶堂ギャラリー—竹芝・横田茂」『美術手帖』no.518, 1983年11月, p.84
- 「〈Art Preview〉現代美術の動向展II」『三彩』no.434, 1983年11月, p.126
- 松浦寿夫「断層の地勢学」『季刊雑誌 芸術評論』1983年11月, pp.25-28
- 大野一雄「〈特集=舞踊大全〉幽霊と舞踏—私の心象風景」『ユリイカ』vol.15 no.11, 1983年11月, p.130
- 谷川晃一「〈絵画・音楽・映画の知覚の変貌〉オブジェを持った無産者 赤瀬川原平」『國文學』no.414, 1983年11月, p.191
- 尾辻克彦「シリーズ酒友録」日刊ゲンダイ, 1983年11月19日
- 「高梨豊「東京人」」『美術手帖』no.519, 1983年12月, p.237
- 國吉和子「〈総展望=現代日本の芸術〉アルシヴ、二〇年—土方巽論」『ユリイカ』vol.15 no.12, 1983年12月, p.128
- 健「〈マンスリースポット〉無言で雄弁な肉体」(出典不明) 1984年
- 高松次郎「画家が語る「私の印象派体験」」『芸術新潮』no.409, 1984年1月, p.63
- 尾辻克彦「〈一頁時評〉金銭ネットワークの外側」『文藝』vol.23-1, 1984年1月, p.207
- 「〈特集 アンケート〉各界著名300人 私の好きな現代日本の画家 PART①」『月刊美術』no.100, 1984年1月, p.120, 125
- 「〈特集 アンケート〉各界著名300人 私の好きな現代日本の画家 PART②」『月刊美術』no.101, 1984年2月, p.110, 113
- 「〈マルチプル・アート50選〉いま、アートはマルチプル」『月刊美術』no.101, 1984年2月, p.118
- 海野弘「〈文化労働者日記〉60年代のしっぽ」『アトリエ』no.684, 1984年2月, p.124

- 「特集 現代美術事典」『美術手帖』no.523, 1984年3月, pp.15-106
- 中村文昭「空間のシャーマンたち—山海塾舞踏公演『縄文頌II』」『ユリイカ』vol.16 no.4, 1984年4月, p.246
- R「刺激的な20年前の前衛—ハイレッド・センターの活動の記録」読売新聞(夕刊), 1984年4月2日
- 榎本了彦「〈情報 ステージ〉舞踏が変わり始めた 山海塾『縄文頌II』」『広告』no.244, 1984年5月, p.31
- 「今号の執筆者紹介」『キネマ旬報』no.1699, 1984年5月, p.193
- 桃「〈文化 '84〉ART」『朝日ジャーナル』no.1318, 1984年5月4日, p.29
- 冬「〈文化 WEEKLY・EYE〉山海塾の新作舞踏」読売新聞(夕刊), 1984年5月28日
- 尾辻克彦「私の読書日記」『朝日ジャーナル』no.1322, 1984年6月1日, p.70
- 「特集 現代美術の中の日本性」『アトリエ』no.689, 1984年7月, p.35
- 相笠昌義「〈アンケート 私の学生時代／修業時代〉挫折と失意のスタート」『美術手帖』no.529, 1984年7月, p.23
- 「編集後記」『新聞研究』no.396, 1984年7月, p.116
- 今泉省彦「養生邑と現代絵画」北海道新聞(夕刊), 1984年8月20日
- 尾辻克彦「〈東京ふう封物ぶつ誌〉真夏の夜の「便面器」」『芸術新潮』no.417, 1984年9月, p.114
- 飯島耕一「〈俳句の風土〉俳人の前衛美術論」『中央公論』no.1183, 1984年9月, p.289
- 桃「〈文化 '84〉MEDICINE」『朝日ジャーナル』no.1336, 1984年9月7日, p.32
- 谷川晃一+ねじめ正一「〈特集:ダダ+ピカピア+マン・レイ〉何がダダかよ」『美術手帖』no.533, 1984年10月, p.58
- 如月小春「〈本から本へ〉東京タイムトンネル」『太陽』no.269, 1984年10月, p.102
- Chiba Shigeo, "Modern Art from a Japanese Viewpoint", *ARTFORUM*, 1984.10, pp.56-51
- 「〈特集II舞台←→美術〉二つの輪—中西夏之と山海塾」『アトリエ』no.693, 1984年11月, pp.52-53
- 「〈特集II舞台←→美術〉中西夏之と山海塾(縄文頌)の輪のひろがり」『アトリエ』no.693, 1984年11月, p.67
- 岡田隆彦「高松次郎訪問記 色彩と感覚的表現と」『版画芸術』no.47, 1984年11月, p.112
- 中原佑介「〈大特集 昭和世代に聞く“昭和の美”〉『ハイレッド・センター』の熱いメッセージ」『芸術新潮』no.421, 1985年1月, pp.27-30
- 高松次郎「〈大特集 昭和世代に聞く“昭和の美”〉いかにして芸術を破壊するかに熱中」『芸術新潮』no.421, 1985年1月, pp.40-42
- 村上善男「〈美の証言者たち・現代美術を側面から支えた二人の死〉裡側の美術史」『アトリエ』no.695, 1985年1月, pp.113-114
- 斎藤泰嘉「美術人国記」『三彩』no.448, 1985年1月, p.110
- 赤瀬川原平「〈パフォーマンス〉山手線の卵」『別冊国文学』no.25, 1985年1月, pp.118-122
- 尾辻克彦/赤瀬川原平「〈東京ふう封物ぶつ誌〉第13回 内科だった画廊であった」『芸術新潮』no.422, 1985年2月, pp.82-85
- 「ある記念写真」『美術手帖』no.539, 1985年2月, pp.22-23
- 飯島耕一「舞姫 大野一雄による『ラ・アルヘンチーナ頌』」日本経済新聞, 1985年3月3日
- 「〈巻頭ギャラリー〉細密表現の世界 [寺越慶司]」『アトリエ』no.698, 1985年4月, p.15
- 田中幸人「〈展評〉リアリズム絵画の陥し穴」『アトリエ』no.698, 1985年4月, p.96
- 「〈KB NEWS〉風とともに去りぬ—『志水楠男と南画廊』」『建築文化』no.462, 1985年4月, p.6
- 「舞踏の表情から逃れ、空間との振動を受けるための試み(大野一雄「アルヘンチーナ頌」1977・第一生命ホールより)」『現代詩手帖』vol.28-6, 1985年5月, p.69
- 大野一雄、吉増剛造「『死海』の水」『現代詩手帖』vol.28-6, 1985年5月, pp.53-68
- 「〈ニューヨーク近代美術館御一行来日〉」『美術手帖』no.545, 1985年6月, pp.18-19
- 「執筆者紹介」『キネマ旬報』no.1726, 1985年6月, p.195
- 飯吉光夫「詩的散文論—新しい言語群」『文藝』vol.24-7, 1985年7月, pp.170-184
- 「中西夏之展」『芸術新潮』no.427, 1985年7月, p.85
- 長木誠司「山海塾—「金柑少年」『縄文頌II』」『音楽芸術』vol.43-7, 1985年7月, n.pag.
- 「中西夏之氏の絵画展」朝日新聞, 1985年7月16日
- 「たうんTOWNタウン 中西夏之の絵画展」毎日新聞, 1985年7月16日
- 「明日から中西夏之氏作品展」読売新聞, 1985年7月16日
- 「中西さんが作品展 北九州市立美術館 独特の画法の87点」西日本新聞, 1985年7月18日
- 田中幸人「〈展評〉「まんだらさん現象」としての絵画的インスタレーション」『アトリエ』no.702, 1985年8月, p.89
- ジェリー・フォラー「アヴァン・ギャルドな色の調教師」『マリ・クレール』no.33, 1985年8月, pp.54-55
- 高島直之「〈特集:パフォーマンス〉行為の軌跡 [日本] ハイレッド・センター」『美術手帖』no.551, 1985年10月, pp.74-75
- 松浦寿輝「〈手帖時評〉挨拶について」『現代詩手帖』vol.28-11, 1985年10月, p.37
- 「〈講座・講習会〉〈美術〉宮城県美術館」『博物館研究』no.209, 1985年10月, p.61
- 昂「〈文化 '85〉ART」『朝日ジャーナル』no.1398, 1985年11月15日, p.30
- 「'85美術界回顧62人に聞く」新美術新聞, 1985年12月11日
- 久住昌之「久住昌之の明治を行く② 大野一雄」『CAMPUS CALENDAR』1985年12月15日
- 「特集=再構成:日本の前衛 1945-1965」『ART-VIVANT』21号, 1986年8月, pp.72-89
- 「東北から裸体まで」『演劇ぶっく』no.3, 1986年, pp.54-56
- Chiba Shigeo, "Japanische Kunst Heute", *NOEMA*, no.5, 1986
- 今泉省彦「(books) 絵描きの文体—谷川晃一『毒曜日のギャラリー』」『美術手帖』no.555, 1986年1月, pp.252-253
- 「〈ATELIER NEWS〉美術時評」『現代美術の40年』展—歴史の構築へ—」『アトリエ』no.707, 1986年1月, p.92
- 芥川喜好「〈起点86〉日本前衛美術人欧米注目 発展過程のイメージ化を狙って」読売新聞(夕刊), 1986年1月10日
- 「〈文化 '86〉座談会 ノリとオリ、一切の「個」を覆いつくす同一性の暴力」『朝日ジャーナル』no.1407, 1986年1月17日, p.39
- デービット・エリオット「戦後日本美術に独創性発見」『古沢岩美美術館月報』no.127, 1986年2月
- 四方田犬彦「〈書簡、哲学風に…2〉谷川晃一への手紙」『すばる』vol.8-2, 1986年2月, p.181
- 「〈USHIO PLAZA〉現代美術の極北に挑戦する万年青年」『潮』no.322, 1986年2月, n.pag.
- 南條史生「〈NEWS/TOPICS〉日本前衛美術の展開展 英国で再認識される日本美術」『アトリエ』no.709, 1986年3月, p.94

- 満生和昭「〈ミュージアム・ミュージアム〉北九州市立美術館 中西夏之展」『デアルテ：九州藝術学会誌』vol.2, 1986年3月, p.132
- 赤瀬川原平「〈追悼・土方巽〉アスペスト館をめぐる」『新劇』no.396, 1986年3月, p.37
- 鯨「〈ボックススタンド〉宇野邦一『風のアポカリプス』」『朝日ジャーナル』no.1414, 1986年3月7日, p.85
- 辻井喬「BOX&NEEDLE」『現代詩手帖』vol.29-4, 1986年4月, p.228
- 尾辻克彦「舞踏神」『新潮』no.975, 1986年4月, p.148, 150
- 秋田由利、帯金章郎「(FORUM) 美術に新・旧の時代の違いはあるか」『アトリエ』no.711, 1986年5月, p.75
- 「雅陶堂ギャラリー／ギャラリー21／西村画廊」『美術手帖』no.562, 1986年5月増刊, p.109, 132, 164, 166
- 乾由明、酒井忠康、東野芳明、米倉守「〈座談会＝美術季評・'86夏〉表現の異層化」『季刊みづゑ』no.939, 1986年6月, p.58
- 「〈NEWS/TOPICS〉中國的日本現代美術展覧會 ―台湾の現代日本美術展」『アトリエ』no.713, 1986年7月, p.94
- 飯島耕一「街上と舞踏」『ユリイカ』vol.18 no.7, 1986年7月, p.51
- 谷川晃一「〈文化 '86〉BUTOH」『朝日ジャーナル』no.1435, 1986年7月18日, p.35
- 「〈今月の展覧会〉ある常設展示の効用について 所蔵作品による全館陳列『近代日本の美術』」『三彩』no.467, 1986年8月, p.91
- ナムジュン・バイク、赤瀬川原平、三浦雅士「エレクトロニクスの落穂拾い」『世界』no.491, 1986年8月, p.272
- 今泉省彦「〈目録録〉三木富雄展 壁にある耳」『美術手帖』no.567, 1986年9月, p.169
- 飯島洋一「〈美術出版社創業80周年記念〔芸術評論〕佳作論文〕挑発する頂部」『美術手帖』no.567, 1986年9月, p.176
- 乾由明、酒井忠康、東野芳明、米倉守「〈座談会＝美術季評・'86秋〉六〇年代の終末から」『季刊みづゑ』no.940, 1986年9月, p.50, 53, 55, 56, 57, 61
- 豊崎光一「加納光於とトリグラフィ」『版画芸術』no.54, 1986年9月, p.145
- 宇野邦一「〈アート・リーディング〉水のキュビズム ホックニー小論」『美術手帖』no.569, 1986年10月, p.140
- 鶴岡善久「日本前衛芸術年表1916～1969」『現代詩手帖』vol.29-10, 1986年10月, p.177
- 中島順一「〈特集：福岡県の博物館〉4 北九州市立美術館における企画展の動向」『博物館研究』no.221, 1986年10月, p.9
- 編集部「〈東京クリエイション'86 DOKI DOKI TOKYO〉ストリート・ミュージアム DOKI DOKI TOKYO ポスターフェア」『月刊アドバタイジング』no.363, 1986年10月, p.96
- 「〈USHIO PLAZA〉制作と評論がクロスオーバーして話題は潤沢 谷川晃一」『潮』no.330, 1986年10月, n.pag.
- 東野芳明、中原佑介、針生一郎「〈ART NEWS〉フランスが選んだ日本の前衛芸術家77人」『芸術新潮』no.443, 1986年11月, p.59, 61, 64
- 海野弘「〈Research〉日本文化は世界になにを見せるか」『Communication』vol.1-4, 1986年11月, p.24
- 「〈文化往来〉『前衛芸術の日本展』パリで」日本経済新聞, 1986年11月19日
- 赤瀬川原平、四方田犬彦、上野昂志「鼎談 あぶない同世代'60」『早稲田文学』[第8次] 復刊no.127, 1986年12月, p.10, 18
- 上野昂志「芸術の圏域、そして街路(上)―赤瀬川の歩行にそって」『早稲田文学』[第8次] 復刊no.127, 1986年12月, p.38, 39
- ポット「〈ビジュアル・パレット〉東京への思いを清流にこめた田中泯の自作自演」『アサヒカメラ』no.692, 1986年12月, p.10
- 「〈博物館の新収品〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.223, 1986年12月, p.59
- 尾辻克彦「内科だった画廊であった 今は不在の部屋」(再録)『peco』vol.1, 1987年
- 宮田国男「石井満隆さんとの一週間」(再録)『peco』vol.1, 1987年
- 「〈アート・スクランブル〉高松市美術館がロダンの彫刻を6千万円で収集 アート・スクランブル」『月刊美術』no.137, 1987年2月, p.146
- 「〈博物館の新収品〉高松市立美術館」『博物館研究』no.225, 1987年2月, p.43
- 赤瀬川原平「熱い夢・冷たい夢」『思想の科学 第7次』no.425, 1987年4月, p.73, 79
- 太田邦夫「建築―私との出会い」『建築文化』no.488, 1987年6月, p.9
- 赤瀬川原平「〈語りおろし連載〉行くカネ来るカネ 私の体を通り過ぎたおカネ」『週刊文春』no.1441, 1987年6月11日, p.72
- 石崎勝基「〈ART '87 5 MAY〉名古屋」『美術手帖』no.584, 1987年8月, p.205
- 乾由明、酒井忠康、東野芳明、米倉守「〈座談会＝美術季評・'87秋〉「もの派とポストもの派の展開」展・他」『季刊みづゑ』no.944, 1987年9月, p.96
- 大野一雄(インタビュー)「〈モボ・モガの時代〉帝劇の一夜が、私をダンサーに導いた」『太陽』no.311, 1987年9月号, p.104
- 「〈常設展の展示替・新展示品紹介〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.232, 1987年9月, p.54
- 菅原猛「〈東京芸大百年史〉芸大出れば画家になれる? 卒業生の三十年後は……」『芸術新潮』no.454, 1987年10月, p.35, 38
- 「〈講座・講習会／常設展の展示替・新展示品紹介〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.233, 1987年10月, p.40, 44
- 鈴木治雄、樋口広太郎、堤清二、山崎富治「経済人が語る投資の心得・絵画(1) 座談会―高い鑑識眼がリスクをなくす。」日経金融新聞, 1987年10月1日
- 谷川晃一「土方巽を知ったころ」『アスペスト館通信』no.9, 1988年, pp.2-7
- 西野嘉章「〈アルチンボルド〉形象の修辞学」『美術手帖』no.589, 1988年1月, p.161
- 松浦寿輝、朝吹亮二、鈴木薫、中川千春「〈対話批評 アル・ポエティック〉ふたたび「ユリイカの新人」と」『ユリイカ』vol.20 no.1, 1988年1月, pp.243-244
- 「現代美術市場開拓史」『芸術新潮』no.458, 1988年2月, p.27
- 「公立美術館と美術市場」『芸術新潮』no.458, 1988年2月, p.59
- 「画廊 データ・ファイル」『芸術新潮』no.458, 1988年2月, p.61, 67
- 三好豊一郎「〈本〉天才舞踏家を捕える手法」『新潮』no.997, 1988年2月, p.229
- 飯島耕一「〈虹の喜劇〉わが〈戦後〉史」『現代詩手帖』vol.31-4, 1988年3月, pp.9-10
- 田久保英夫、金井美恵子、加藤典洋「創作合評」『群像』vol.43-4, 1988年4月, p.287
- 「〈常設展の展示替・新展示品紹介〉いわき市立美術館」『博物館研究』no.239, 1988年4月, p.53
- 富岡多恵子「文芸時評(上) 自閉招く『内輪』好み 言葉に自由を得る闘いを」朝日新聞(夕刊), 1988年6月27日
- Rodney O'BRIENTOKYO, "Japanese Artists Find Collectors Still Look Abroad" *New York Times*, 1988.7.3
- 東野芳明「水彩は現代美術のリトマス紙」『芸術新潮』no.464, 1988年8月, pp.44-47
- 金井美恵子「〈随筆〉空虚な鉛筆」『文藝』vol.27-3, 1988年8月, p.222
- 大野一雄「〈文化〉幕があき「81歳の作品」」日本経済新聞, 1988年8月16日
- 南嶺宏「〈ART '88 6 JUNE〉関西」『美術手帖』no.599, 1988年9月, pp.208-209
- 「〈常設展の展示替・新展示品紹介〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.244, 1988年9月, p.55
- 「〈常設展の展示替・新展示品紹介〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.245, 1988年10月, p.69
- 「美術コレクションより逸品を発掘する『山頂の石蹴りno.2』中西夏之」『BRUTUS』1988年10月15日

- 秋山修「〈コレクターのための版画講座〉6 価値と価格 その2」『美術の窓』no.72, 1988年11月, p.181
- 「〈さまざまなインタビューから〉 澁澤龍彦による 澁澤龍彦」『別冊幻想文学』4, 1988年11月, p.172
- 「〈Journal NEWS〉韓国 オリンピック記念 二つの大型国際展開催」『アトリエ』no.742, 1988年12月, p.94
- 秋山修「〈特集 誌上入札! 内外版画105選〉トラブル例から学ぶかしい版画の見方、買い方、選び方」『月刊美術』no.159, 1988年12月, p.55
- 四ツ谷龍「中塚一碧楼の全体像(下)」『むしめがね』no.3, 1989年
- 「〈ブックガイド〉日本のダダー1920～1970— 白川昌生編 ブックガイド」『出版ニュース』no.1484, 1989年1月, p.22
- 三田晴夫「〈状況と現場1988〉 環境的変動のうねりのなかで 1988年・東京の個展から」『美術手帖』no.604, 1989年1月増刊, p.17
- 皆吉司「〈俳句の現在〉他ジャンルへの窓」『海燕』vol.8 no.2, 1989年2月, p.237
- 「〈特集アンケート①評論家に訊く〉昭和美術の名作とは何か」『美術の窓』no.76, 1989年3月号, p.45, 46, 48, 50
- 「〈特集アンケート②〉作家が選ぶこの一点」『美術の窓』no.76, 1989年3月, p.55
- ジャン・ヴィアラ「〈FLASH〉Eiko & Koma」『アトリエ』no.746, 1989年4月, p.77
- 千葉成夫「〈美術館をたずねて〉東京国立近代美術館」『かんぽ資金』no.131, 1989年4月, p.59
- 「〈コレクション〉横浜美術館のコレクション」『博物館研究』no.251, 1989年4月, p.67
- 東野芳明「〈アンケート&エッセー 私が愛した手塚治虫〉世界に類のないイメージ文化の功績」『朝日ジャーナル』no.1583, 1989年4月20日, p.155
- ジャネット・コプロス「〈FLASH〉工藤政秀展」『アトリエ』no.747, 1989年5月, p.81
- 「高輪美術館／高松市美術館」『博物館研究』no.252, 1989年5月, p.31, 34
- 四方田犬彦「四方田犬彦の今週の激オン 色彩の宇宙を凝視する中西夏之は色彩の哲学者だ」『SPA!』vol.38-21, 1989年5月17日, p.112
- 三木多聞「近代彫刻の展開」『三彩』no.501, 1989年6月, p.78
- 「第19回現代日本美術展」『三彩』no.501, 1989年6月, p.131
- 金井美恵子「〈文明季評—'89夏〉 文化的体験」『中央公論 文芸特集 復刊6 (2) (19)』, 1989年6月, p.108
- 「〈美術館・博物館・催物案内〉横浜美術館 3月25日(土) オープン」『ニューライフ』no.400, 1989年6月, p.75
- 「〈情報区〉美術批評誌『非』」『出版ニュース』no.1498, 1989年6月, p.29
- 「文化の窓」『朝日ジャーナル』no.1596, 1989年7月7日, p.47
- 新井淳一「ピンチ」『ウーマンズ・ウェア・デイリー・ジャパン』WWD FOR JAPAN, 1989年7月31日
- 「〈文化往来〉内面を語る画家のエッセー」日本経済新聞, 1989年8月11日
- 赤瀬川原平「鶺鴒の目鷹の目」『日本カメラ』no.575, 1989年9月, p.134
- 「〈文化往来〉現代美術紹介の草分け、西武美術館が改装」日本経済新聞, 1989年9月20日
- 城戸朱里「ラオコーンの断崖」『現代詩手帖』vol.32-10, 1989年10月
- 高梨豊「〈東京人インタビュー〉 四半世紀東京を写撃する」『東京人』vol.4 no.8 25, 1989年10月, p.30
- 「AC&Tコーポレーション、アート事業を本格開始—現代作家の版画販売・収蔵。」日本経済新聞, 1989年10月31日
- 「〈愛読者サービス〉美術図書 展覧会図録」『月刊美術』no.171, 1989年12月, p.286
- 芥川喜好「〈美術この一年〉 虚妄のブーム 日常化した企業の投資」読売新聞(夕刊), 1989年12月15日
- 菅原教夫「〈美術この一年〉 日本型前衛の確立へ」読売新聞(夕刊), 1989年12月15日
- 「〈広がる美術市場—オークション情報 連載9回〉 11月26日、第21回現代美術オークション」『美術の窓』no.86, 1990年1月, p.74
- 「〈90各界メダリスト大予想〉 日本芸術大賞」『週刊読売』no.2156, 1990年1月21日, p.50
- 柳生不二雄「〈ART REVIEW 展覧会から〉 彫刻展、あれこれ。」『三彩』no.509, 1990年2月, p.84
- 「〈広がる美術市場—オークション情報 連載10回〉 89年12月9日、TOKYOオークション」『美術の窓』no.87, 1990年2月, p.63
- 磯崎新、浅田彰「〈特集=90年代カルチャー・マップ〉 歴史のエアポケットをぬけて—ポストモダニズムのゆくえ」『ユリイカ』vol.22 no.2, 1990年2月, p.81, 82
- 與謝野文子「〈歩行と思索〉 接触について」『現代思想』vol.18-2, 1990年2月, p.21
- 野中ユリ「〈コネルと私〉 ジョセフ・コネルの謎」『季刊みづゑ』no.954, 1990年3月, p.50
- 赤瀬川原平「鶺鴒の目鷹の目」『日本カメラ』no.584, 1990年3月, p.138
- 光田由里「'89年のすぎゆくまに」『Art and Critique』1990年3月, p.45
- 山根康愛「〈ミュージアム・ミュージアム〉北九州市立美術館 第十九回 現代日本美術展」『デアルテ：九州藝術学会誌』vol.6, 1990年3月, p.118
- 赤瀬川原平「『筆先の快楽』展」『草月』no.189, 1990年4月, pp.49-58
- Janet Koplos, "The Two-Fold Path: Contemporary Art in Japan", *Art in America*, Vol.78-4, 1990.4, pp.201-211
- 谷川渥「〈CRITIC for the CRITICAL DECADE〉 批評という物語 物質的想像力のために」『美術手帖』no.623, 1990年5月, p.179
- 「〈広がる美術市場—オークション情報 連載13回〉 現代美術&版画／アポロオークション」『美術の窓』no.90, 1990年5月, p.86
- 「〈美術〉日本秀作美術展 作境の深まり示す日本画 規制の概念打ち破る洋画」読売新聞(夕刊), 1990年6月15日
- 飯島耕一「〈追悼特集 お別れ吉岡実〉 おくりもの」『現代詩手帖』vol.33-7, 1990年7月, p.40
- 「特集=日本の美術の最前線」『月刊アート・マガジン』1990年7月
- 「〈気になる日本のアーティスト Part1—プラクティスの復権〉 中西夏之」『美術手帖』no.628, 1990年9月, pp.58, 60
- 秋山祐徳太子「〈ポップ漫歩計〉 PART① 洋風における洋画」『アトリエ』no.763, 1990年9月, p.101
- 布施英利「〈デザインの心理学〉 脳デザイン神経回路」『imago』vol.1-9, 1990年9月, p.160, 161
- 「月刊美術」編集部「〈絵画〉時代との関わりを模索する中西夏之の世界」『実業の日本』no.2198, 1990年9月, p.83
- 田中幸人「宇宙樹としての現代美術 第2回」『繪』no.319, 1990年9月, pp.14-17
- 田中幸人「宇宙樹としての現代美術 第3回」『繪』no.320, 1990年10月, pp.16-19
- 西岡文彦「〈IMAGINATION MUSEUM〉7 想像力絵画館」『月刊アドバタイジング』no.411, 1990年10月, p.7
- 谷川雁「極楽ですか 李禹煥様 シュルレアリスムと日の丸」『すばる』vol.12-10, 1990年10月, p.249, 251
- 谷川雁「極楽ですか 井上光晴様 スーパー戦後の呪力を信じよ」『すばる』vol.12-11, 1990年11月, p.261, 263
- 谷川雁「極楽ですか 宗左近様 真言の火は縄文をてらす」『すばる』vol.12-12, 1990年12月, p.309, 311
- 「〈ひとプラス1〉 高松次郎さん 満ちるエネルギー、『空間』に挑む」朝日新聞(夕刊), 1990年12月15日
- 馬場駿吉「夢の循環—武満徹と滝口修造—」『ポリフォーン』vol.8, 1991年, pp.42-49

- 「物語にめざめるとき」『Resumex リクルート』no.4, 1991年
- 「〈特集 フェミニティのゆくえー「女性」とアート〉Black Sun, Sister Prism」『美術手帖』no.636, 1991年4月, p.67
- 彦坂尚嘉「〈CRITIC for the CRITICAL DECADE〉状況の〈内側からの批判〉と〈外側からの批判〉」『美術手帖』no.636, 1991年4月, p.149
- 「澁澤龍彦の世界」『太陽』no.358, 1991年4月, pp.30-31
- 三田晴夫「〈現代をになう作家たち〉Ⅶ 李禹煥 表現の死／表現の零度」『美術手帖』no.638, 1991年5月, p.141
- 「現代美術のアトラス」『太陽』no.362, 1991年8月
- 「芸術新潮でたどる戦後美術史 1950～1970」『芸術新潮』no.501, 1991年9月, p.145, 153, 156
- 「〈土曜版〉大野一雄ロングインタビュー 84歳、魂揺する渾身の舞」日本経済新聞, 1991年10月12日
- 「〈話題の〔展覧会〕から〉菊畑茂久馬 芸術と日常一反芸術／汎芸術 戦後美術第一期生の冒険」『月刊美術』no.194, 1991年11月, p.285
- 谷川雁「極楽ですか 原子朗様 少年少女による〈四次元〉劇」『すばる』vol.13-11, 1991年11月, p.292
- 渡辺兼人、平木収「〈フォト・ウォッチング〉写真を語る」『アサヒカメラ』no.759, 1991年11月, p.118
- 上田高弘「〈展覧会季評〉芸術と日常一反芸術・汎芸術」『季刊みづゑ』no.961, 1991年12月, p.92, 93
- 一海昇「〈B Trend MEGAMIX BOOKS〉『エーゴン・シーレ日記と手紙』『奇妙な画家たちの肖像』ほか」『美術手帖』no.649, 1992年1月, p.44
- 石崎浩一郎「〈The View of Japanese Anti-Art '60～'70〉ネオダダからポップアートへ 国際的アートの潮流に連動した日本の現代アート」『アトリエ』no.779, 1992年1月, p.95
- 村松友視「潮ギャラリー、私の好きな絵」『潮』no.394, 1992年1月, n.pag.
- 三田晴夫「〈特集 現代美術の社会学入門〉拡散する情報発信地」『美術手帖』no.650, 1992年2月, p.93
- 「〈全国105名の学芸員が選ぶ 1991年度ベスト展覧会〉《〈物体〉詩—思考するオブジェからGOMI・ARTへ—》展」『芸術新潮』no.506, 1992年2月, p.122
- 岡田芳郎「〈広告の青い鳥〉②「イベント」その始まり」『宣伝会議』no.495, 1992年2月, p.157
- 高橋佐智子「つくり手たちの言葉⑧ 中西夏之」『フラミンゴ（滋賀県立近代美術館ニュース）』no.30, 1992年3月
- 「〈宮沢賢治ビブリオグラフィ—作品集〉」『宮沢賢治研究annual』vol.2, 1992年3月, p.3
- 「〈BACK-STAGE〉中西夏之 画家 舞台の上で、人間が生まれつつあるのです」『サンデー毎日』no.3912, 1992年3月29日
- 小林一郎「〈意識のながれ—吉岡実詩集《神秘的な時代の詩》評釈』『文藝空間』vol.8, 1992年4月, p.142
- 斎藤泰嘉「ハイレッド・センターの傾向と対策」『コンテンポラリー・アーティスト・レビュー』1992年5月, pp.24-27
- 「中西夏之展」新美術新聞, 1992年5月11日
- 鶴岡善久「〈特集 大野一雄と身体言語〉大野一雄、すなわち遊戯飛行—テキストに沿って」『現代詩手帖』vol.35-6, 1992年6月, p.41
- 芹沢俊介「〈特集 大野一雄と身体言語〉わがままの限りを尽くして—大野一雄試論」『現代詩手帖』vol.35-6, 1992年6月, p.41
- 布施英利「逆さ吊りの美学」『Les Specs』no.473, 1992年6月, p.19
- 「中西夏之 季節を感じる現代美術」『日経アート』no.46, 1992年7月, pp.184-185
- 角田良江「現代美術のルーツを楽しむ（財）セゾン現代美術館」『遊技通信』no.1154, 1992年7月, p.159
- 尾辻克彦「空罐」『群像』vol.47-8, 1992年7月, p.40
- 「〈インタビュー〉一枚のネグリジェから天地創造の神話へ 大野一雄との対話」『Les Specs』no.475, 1992年8月, p.31
- 中村敬治「〈from EXHIBITION 篠原有司男賛江〉哄笑する前衛」『美術手帖』no.658, 1992年9月, p.135
- 「〈STARDUST〉戦後美術の“てんやわんや”「小集団の諸相」展」『芸術新潮』no.513, 1992年9月, p.116
- 「〈常設展の展示替・新展示品紹介〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.292, 1992年9月, p.55
- 「〈常設展の展示替・新展示品紹介〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.293, 1992年10月, p.55
- 「〈特集 アートの仕事がしたい〉美術記者 井出和子さん 共同通信社文化部」『美術手帖』no.662, 1992年12月, p.55
- 「〈TOKYO ART SCENE〉八ヶ岳高原音楽祭'92「音楽のミュージズたち」」『アトリエ』no.790, 1992年12月, p.111
- 瀬木慎一「〈戦後空白期の美術 一九五〇年代まで〉最終回 アンデパンダン展—五回」『三彩』no.543, 1992年12月, pp.60-63
- 「現代美術事典」『美術手帖』no.664, 1993年1月, p.88, 112, 120, 134, 151, 158, 184
- 「特集 アンケート 戦後美術 ベストテン!」『芸術新潮』no.518, 1993年2月, p.5, 32, 40, 41, 48, 53, 54, 58, 60-63
- 那賀裕子＋貞彦「ドローイングの選択」『美術科研究』vol.10, 1993年3月, p.11, 17, 35
- 「〈特集 瀧口修造のマイクロコスモス オブジェ・ショップ』『太陽』no.382, 1993年4月, p.37, 53, 81
- 西村智弘「〈Museum Review〉収蔵作品展 反復と増殖—現代美術のかたち 東京都美術館企画展示室」『美術手帖』no.669, 1993年5月, p.178
- 「〈invitation〉“戦後美術”の伝説—「読売アンデパンダン展」全15回の記録集」『芸術新潮』no.525, 1993年9月, p.83
- 高島直之「〈特集 '60～'90カルチャー・マップ〉芸術の破棄と実現」『インパクション』no.82, 1993年9月, p.72
- 小林一郎「〈固い雨なら両手で愛撫する—吉岡実詩集《神秘的な時代の詩》評釈（8）』『文藝空間』vol.9, 1993年10月, p.131
- 笹沼俊樹「〈メセナABC—⑩〉国際性の表現を意識し始めた中規模企業」『美術手帖』no.678, 1993年11月, p.159
- 赤瀬川原平「〈特集 現代美術入門講座〉厭芸術」『太陽』no.389, 1993年11月, p.39
- 上野昂志「七〇年代転向論」『海燕』vol.12 no.12, 1993年12月, p.84
- 「特集・現代日本アーティスト名鑑」『美術手帖』no.682, 1994年1月, p.100
- 「〈作家のindexのインデックス〉石原慎太郎さん」『すばる』vol.16-1, 1994年1月, p.338
- 三田晴夫「〈批評と表現〉50年の美術史検証の第1弾 困難な試みに挑戦「戦後日本の前衛美術」展」毎日新聞（夕刊）, 1994年2月15日
- 天野太郎「『アバンギャルドの世界 戦後日本の前衛美術展から3』読売新聞, 1994年2月24日
- 「『身体』テーマに作品展 板橋美術館 来月29日まで開催（東京）」朝日新聞, 1994年4月19日
- 「〈TEMPO Arts〉「身体が芸術になる時」展の薄気味悪い作品群」『週刊新潮』no.1953, 1994年4月21日, p.36
- 島敦彦「館所蔵品紹介 中西夏之『arc1』」『国立国際美術館月報』no.21, 1994年6月
- 「〈invitation〉生きた兎も舞台に参加! 中西夏之のオブジェを使う山海塾の新作」『芸術新潮』no.534, 1994年6月, p.102
- 「山海塾、2年ぶり日本公演 新作『ゆらぎ』と88年初演の『しじま』」朝日新聞（夕刊）, 1994年6月24日
- 大岡信「大岡信・私の好きな絵画と書」『國文學』no.574, 1994年8月, p.100
- 「現代美術を見る セゾン現代美術館」『アトリエ』no.811, 1994年9月, p.94
- 岩切徹「〈60年代が眩しいぜ〉赤瀬川原平」『太陽』no.399, 1994年9月, p.148, 150, 153

- 駒田克衛「〈東京漂流記 第六回〉第六回 創作のための四つの焦点」『詩学』no.531, 1994年10月, p.20
- 北沢憲昭「〈特集 高橋由一〉言説としての高橋由一 1866~1961」『近代画説：明治美術学会誌』vol.3, 1994年10月, p.17
- 田野倉康一「散文について、続」『現代詩手帖』vol.37-11, 1994年11月, p.191
- 「『中西夏之〈山頂の石蹴り〉へ』テーマ展」『AAC-AICHI ARTS CENTER』no.11, 1995年1月
- 白「『ハイ・レッド・センター』復活!—『赤瀬川原平の冒険』連続鼎談」新美術新聞, 1995年2月11日
- 「〈世界のアート最前線〉戦後日本の現代美術」『アトリエ』no.817, 1995年3月, p.116
- 建島哲「〈特集 芸術家になりたい! サイヴァイヴアル予習編〉インタビュー 戦後日本の芸術家たちはいかに時代を生きたか」『美術手帖』no.705, 1995年4月, p.56
- 嵐山光三郎「〈From EXHIBITION〉赤瀬川原平の冒険 芸術の慰安夫 From EXHIBITION」『美術手帖』no.705, 1995年4月, p.83
- 「特集 戦後50年 写真で見る日本の現代美術」『美術手帖』no.706, 1995年5月
- 高島直之「ハイレッドセンターの始動と草月ホールでの活動」『美術手帖』no.706, 1995年5月, p.65
- 石津ちひろ(文)+宇野亜喜良(絵)「アナグラム人名図鑑」『ユリイカ』vol.28 no.6, 1996年5月, pp.72-73
- 大野一雄「〈舞う〉ラ・アルヘンチーナを求めて 宇宙の方程式」『海外移住』no.563, 1995年5月, n.pag.
- 高階秀爾、篠田達美、塩田純一「〈座談会〉「前衛」美術の流れ。—60年代を見直す。』『東京人』Vol.10, no.6 93, pp.46-52
- 倉林靖「〈特集 快樂絵画〉消失する歴史意識と価値判断の地平 70年代以降の日本の絵画史をめぐって」『美術手帖』no.709, 1995年7月, p.76
- 「ゲスト・キュレーター アレキサンドラ・モンローさんへの10の質問」『国際交流』no.68, 1995年7月, p.83, 87, 90
- 「〈常設展の展示替・新展示品紹介〉滋賀県立近代美術館」『博物館研究』no.331, 1995年12月, p.66
- 「〈コレクション〉足利市立美術館」『博物館研究』no.334, 1996年3月, p.52
- 高松次郎「〈話題の「展覧会」から〉美術の内がわ・外がわ／高松次郎の現在 内と外は結びつく」『月刊美術』no.247, 1996年4月, pp.197-198
- 小沼純一「〈追悼・武満徹〉音楽とイマジネーション」『現代詩手帖』vol.39-4, 1996年4月, p.113
- 「〈特集 生きている美術館〉神奈川県立近代美術館」『美術手帖』no.724, 1996年5月, pp.49-50
- 榎木野衣「〈連載〉日本・現代・美術 九〇年代日本の「前衛」」『美術手帖』no.729, 1996年8月, pp.178-182
- 「〈ホットライン〉“東京芸術大学教授としての榎倉康二”の再考」『月刊美術』no.251, 1996年8月, p.82
- 「〈最新・版画工房ファイル〉⑩ 林グラフィックプレス」『版画芸術』no.94, 1996年9月, p.175
- 建島哲「〈特集 年末年始に現代美術はいかが?〉東京都現代美術館の『中西夏之展—白く、強い、目前、へ』」『草月』no.229, 1996年12月, pp.78-85
- 高島直之「〈現代版画のパスベクトリアル〉榎倉康二 移す、映す、写す」『版画芸術』no.95, 1997年3月, p.118
- 水原紫苑「夏之の影」『へるめす』no.65, 1997年3月
- 「中西靖子さん(画家・中西夏之の妻)死去」読売新聞(夕刊), 1997年4月26日
- 「〈訃報〉中西靖子さん 死去(画家の中西夏之氏の妻)」毎日新聞(夕刊), 1997年4月26日
- 「“わからない”現代美術を紹介/東京・板橋区立美術館」読売新聞, 1997年5月23日
- 彦坂尚嘉「洗濯ばさみと油絵の具」『アート・マガジン(エル・アール)』no.2, 1997年6月
- 吉増剛造「天王洲アイル」『現代詩手帖』vol.40-6, 1997年6月, p.37
- 小山登美夫「〈特集 ザ・ソフトアブストラクション〉今日日本の“抽象”美術市場 素朴な四つの問いから」『月刊美術』no.261, 1997年6月, p.60
- 鷹見明彦、西村智弘、山本淳夫「〈特集 これがぼくらの生きる道 最新日本の注目アーティスト〉【座談会】自分を生きる営みから、自分を生み出す行為へと」『美術手帖』no.743, 1997年7月, p.90
- 上野洋子「絵画と舞踊における身体表現」『トキワ松学園横浜美術短期大学紀要』vol.13, 1997年7月, p.113, 117
- 「〈特集 ポンビドゥ・センター〉「前衛芸術の日本」展—祭りの前夜」『美術手帖』no.747, 1997年10月, p.93
- 「〈特集「未完」の画家たち 平成の物故画家〉榎倉康二」『月刊美術』no.265, 1997年10月, p.55
- 田中三蔵「〈97回顧〉美術 土台揺るぎ冬の時代へ 近代に視線」朝日新聞(夕刊), 1997年12月3日
- 三田晴夫「〈美術・この1年〉『沈滞感』『逆風』の中の表現 日本作家の海外紹介、目立つ」毎日新聞(夕刊), 1997年12月11日
- 宝玉正彦「〈回顧'97〉美術 新芽の息吹と秋風交錯 足元見直す機運 着実に進行」日本経済新聞, 1997年12月27日
- 「〈文化〉人物概要—土方巽氏」日本経済新聞, 1998年2月14日
- 高橋豊「〈夢の現場で〉土方巽の13回忌 今また輝きを求めて」毎日新聞, 1998年2月16日
- 「〈特集 世紀末に降臨する舞踏の・魔人・土方巽〉第2部 アーティストたちとの大興行 美術家編 中西夏之」『芸術新潮』no.579, 1998年3月, pp.36-39
- 巖谷國士「〈Art Vision 土方巽〉鏡がピカッ—『土方巽全集』刊行に寄せて」『美術手帖』no.755, 1998年5月, p.173, 174, 183
- 三光洋「ケント・ナガノの飛躍 リヨン・オペラの「三人姉妹」」『週刊アエラ』1998年5月4日, p.59
- 小林一彦「27日から開館10周年記念の名品展 所蔵作品を一堂に ぶくやま美術館」毎日新聞(広島), 1998年5月20日
- 「高松次郎氏死去 前衛美術集団で活躍」朝日新聞(夕刊), 1998年6月25日
- 「〈訃報〉高松次郎氏 死去 現代美術の代表的作家」毎日新聞(夕刊), 1998年6月25日
- 「〈死去〉前衛芸術、街頭活動も、高松次郎氏」日本経済新聞(夕刊), 1998年6月25日
- 「〈追想録〉美術家高松次郎氏—美術界の前衛の星」日本経済新聞(夕刊), 1998年7月3日
- 「〈ART NOW〉訃報 高松次郎」『美術の窓』no.180, 1998年8月, p.123
- 三「〈単眼複眼〉美術家高松次郎氏の死『戦後美術』を見直す契機に」朝日新聞(夕刊), 1998年8月19日
- 「〈ホットライン〉今は亡き画廊の歴史的な位置付けを試みる資料展示」『月刊美術』no.276, 1998年9月, pp.75-76
- 瀧梯三、米倉守「〈対談展評〉せらびい」『美術の窓』no.181, 1998年9月, p.200
- 「〈10月のもよおし〉目黒区美術館 シンポジウム」『博物館研究』no.364, 1998年9月, p.38
- 「山手線事件 幻の前衛の全貌が判明」新美術新聞, 1998年9月1日
- 木方幹人「〈瀧口修造とその周辺〉瀧口修造をめぐる16人の作家」『美術手帖』no.763, 1998年11月, p.187
- 「〈New Books〉種村季弘著「奇想の展覧会」」『美術手帖』no.763, 1998年11月, p.215
- 「〈Exhibition guide〉日韓現代美術展—自己と他者の間 目黒区美術館」『美術手帖』no.763, 1998年11月, p.239
- 三田晴夫、嶋崎吉信、高島直之、高島平吾「1999/RANDOM TALK 年間総括放談会」『美術手帖』no.765, 1998年12月増刊, p.64
- 権田萬治「〈交遊抄〉大井町ビート族」日本経済新聞, 1999年1月15日
- 三田晴夫「〈SPECIAL REPORT〉2 西武美術館／セゾン美術館の25年」『美術手帖』no.768, 1999年3月, pp.129-130

- 千葉成夫「〈美術時評〉山手線事件、そして大阪ミキサー計画—あるシンポジウムから」『藝術評論』12, 1999年3月
- 三田晴夫「不況と美術館の行方 少数でも強力な観衆を セゾン美術館閉館を考える」毎日新聞(夕刊), 1999年3月12日
- レディメイド「20世紀アート マテリアル&メディウム百科」『美術手帖』no.769, 1999年4月, p.50
- 「池田龍雄個展 構想の大きさ、思考を徹底 先駆的パフォーマンス(福岡市)」読売新聞(西部夕刊), 1999年5月26日
- 「〈特集 最新東京アート&カルチャー完全ガイド〉板橋区立美術館」『美術手帖』no.774, 1999年8月, p.97
- 三田晴夫「〈現代アート考〉菊畑茂久馬の試み 全オブジェ公開の意義」毎日新聞(夕刊), 1999年8月19日
- 小沼純一「オペラ〔三人姉妹〕覚書」『セゾンアートプログラム・ジャーナル』no.1, 1999年9月, pp.34-40
- 後藤充(撮影・構成)「〔三人姉妹〕フォト・ドキュメント」『セゾンアートプログラム・ジャーナル』no.1, 1999年9月, pp.41-47
- 天児牛大(インタビュー)「〔三人姉妹〕演出家として」『セゾンアートプログラム・ジャーナル』no.1, 1999年9月, pp.48-60
- 尾野正晴「〈話題の〔展覧会〕から〉高松次郎—「影」の絵画とドローイング 手仕事によって顕になった「不在」の感覚」『月刊美術』no.290, 1999年11月, p.218
- 加藤義夫「〈展覧会〉高松次郎—「影」の絵画とドローイング展—秘密の一端明らかに」日本経済新聞(近畿), 1999年11月9日
- 岩成達也、川端隆之、井坂洋子「〈鼎談討議 一九九九年展望〉詩の「ゲリラ」を擁護せよ」『現代詩手帖』vol.42-12, 1999年12月, p.33
- 村松友視「〈わが街わが友〉大森 坂の道の怪しい占い師」東京新聞, 1999年12月20日
- M「BACK STAGE/編集後記」『美術手帖』no.782, 2000年1月, p.325
- 日向あき子「〈岡本太郎ルネッサンス〉⑦ 芸術家の祖型・現代の呪術師」『版画芸術』no.107, 2000年3月, p.139
- 篠原弘「〈展覧会PREVIEW 島田章三〉絵画が絵画であるために」『美術の窓』no.201, 2000年4月, p.50
- 三田晴夫「〈美術〉『清水晃—光る、闇—』展 内なる風土を掘り返す視線」毎日新聞(夕刊), 2000年4月25日
- 瀧梯三「〈芸苑 雑事記〉丈夫逝く」『美術の窓』no.202, 2000年5月, p.88
- 瀧梯三、米倉守「〈対談展評〉せらぎ」『美術の窓』no.202, 2000年5月, pp.221-222
- 三田晴夫「〈展評 美術館〉吉村益信の実験室—応答と変容—大分市美術館」『美術手帖』no.787, 2000年5月, p.168
- 「〈New Books〉谷川渥著『イコノクリティック』」『美術手帖』no.787, 2000年5月, p.229
- 菅木志雄「〈From Exhibition〉高松次郎〈拡大する断片〉」『美術手帖』no.788, 2000年6月, p.157
- 神谷幸江「〈マリオン〉高松次郎展 ぶらりミュージアム」朝日新聞(夕刊), 2000年6月28日
- 「突撃インタビュー 石原慎太郎大いに語る「知事飽きちゃったら、現代美術館の館長でもやろうかな」」『芸術新潮』no.607, 2000年7月, p.60
- 中ザワヒデキ「〈特集 ロンドン2000 東京21世紀〉東京直接表現小史 ミキサー計画から秋葉原TVまで」『美術手帖』no.791, 2000年8月, pp.90-98
- 西村陽平「〈試論私論〉表現する人の立つ位置」『Aigo: 知的障害福祉研究』no.525, 2000年10月, p.7
- 神谷幸江「〈マリオン〉日本美術の20世紀 ぶらりミュージアム」朝日新聞(夕刊), 2000年10月4日
- 篠原弘「〈展覧会PREVIEW 大沼映夫〉大沼スタイルの到達点」『美術の窓』no.209, 2000年12月, p.76
- William Marotti, "Simulacra and subversion in the everyday: Akasegawa Genpei's 1000-yen copy, critical art, and the State" *Postcolonial Studies*, Vol. 4, No. 2, Institute of Postcolonial Studies, Melbourne, 2001, pp.211- 239
- 稲田奈緒美「土方巽の舞踏と文章—形式と文体による舞踏解読の試み—」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』vol.46, 2001年2月, p.19
- 「赤瀬川氏、老人力放つ 100冊目の本刊行祝う会『面白い何か、やりたい』」読売新聞(夕刊), 2001年8月6日
- 三田晴夫「〈美術〉『田中敦子 未知の美の探究1945~2000』展 絵画への展開探る企画」毎日新聞(夕刊), 2001年8月28日
- Reiko Tomii, "State v. (Anti) Art: Model 1,000Yen Note Incident by Akasegawa Genpei and Company" *Positions-east Asia Cultures Critique*, Duke University Press, 2002 Spring, pp.141-172
- 「制作過程の素描展示 名古屋市美術館、23日から中西夏之企画展」読売新聞(中部), 2002年4月6日
- 「23日から中西夏之展 名古屋市美術館」朝日新聞(愛知), 2002年4月19日
- 「生き続ける前衛の精神 名古屋で触れられる3氏の活動 ハイレッド・センターその後」中日新聞(夕刊), 2002年5月25日
- 天児牛大「〈交遊抄〉創作の原動力」日本経済新聞, 2002年9月6日
- 「現代美術探究の軌跡 県美術館で『中西夏之展』が開幕」朝日新聞(愛知), 2002年12月10日
- 上山陽子「〈A Feature—特集2〉中西夏之展 広さと近さ 絵の姿形」『愛媛県美術館ニュースCanforo』17号, 2003年
- 深山孝彰「中西夏之展 広さと近さ—絵の姿形」『Aichi Arts Center No.35 2003』愛知芸術文化センター, 2003年, pp.17-18
- 住友友彦「レディメイド、写真、そして観賞者」『アール』issue02, 金沢21世紀美術館, 2003年, pp.46-51
- 「『美学校』、存続の危機に 南伸坊さん、渡辺和博さんら輩出」朝日新聞, 2003年3月25日
- 「〈文化短信〉県美術館美術体験講座「のぞいてみよう・中西夏之の世界」」愛媛新聞, 2003年4月1日
- 「会場に『地表』出現 県美術館で11日から中西夏之展」朝日新聞(愛媛), 2003年4月10日
- 「きょう開幕へテープカット 県美術館で中西夏之展」朝日新聞(愛媛), 2003年4月11日
- 「現代抽象画の大家、中西夏之の作品展 松山市の県美術館(愛媛)」読売新聞(大阪), 2003年4月18日
- 「絵は芸術を統合する 中西夏之さん講演 県美術館」愛媛新聞, 2003年4月18日
- "L'apaisante beauté des Sankai Juku, jardiniers en missin zen", *Le Monde*; Paris, Apr 26, 2003
- 「絵画の存在意義、手法凝らし追求 松山で中西夏之展」朝日新聞(愛媛), 2003年5月17日
- 篠原資明「〈風雅の未来〉ムラサキまぶさび展の心」産経新聞(夕刊・大阪), 2003年5月28日
- 大西若人「〈美術〉時代を集積させた『現在』山口晃展」朝日新聞(夕刊), 2003年6月5日
- 「舞台美術も見どころ 山海塾新作『仮想の庭』 9月20日、21日」産経新聞(夕刊・大阪), 2003年7月12日
- 「〈ここに注目〉山海塾『うつり』—中西夏之の美術と“競演”」日本経済新聞, 2003年8月18日
- 「山海塾『仮想の庭』、日本初演 滋賀・びわ湖で20日(大阪)」朝日新聞(夕刊), 2003年9月17日
- 「新作を上演する山海塾のリーダー 天児牛大『仮想の庭』の中で踊る」読売新聞(夕刊), 2003年9月19日
- 「山海塾の新作『うつり』初演 20日から滋賀、東京で」朝日新聞(夕刊), 2003年9月19日
- 松永健夫「〈現場考〉新橋駅西口 画廊を作った精神科医の物語」朝日新聞(夕刊), 2003年9月20日
- 高橋豊「人々の営みを動力との対話で 山海塾が新作『うつり』」毎日新聞(夕刊), 2003年9月25日
- 馬場駿吉「〈ダンス〉山海塾公演『仮想の庭—うつり』 水平、垂直、平衡保つ様式美」日本経済新聞, 2003年10月2日
- 鈴木晶「〈ダンス〉山海塾『仮想の庭—うつり』 宇宙と交歓する肉体」日本経済新聞, 2003年10月6日

- 三田晴夫「〈美術〉この一年 うら悲しい『数こそ力』」毎日新聞(夕刊), 2003年12月10日
- 菅原教夫「〈2003回顧・美術〉“現象”となった村上隆 広がる、外界との『繋がり』」読売新聞(夕刊), 2003年12月10日
- 大西若人「〈回顧2003〉美術 幅利かす数字やシステム」朝日新聞(夕刊), 2003年12月11日
- 「〈人物略歴〉中西夏之氏(画家)」毎日新聞(朝刊), 2004年1月1日
- 中原佑介「〈特集 第45回毎日芸術賞 受賞者の業績〉中西夏之氏 独自の絵画思考を示す」毎日新聞, 2004年1月1日
- 「毎日芸術賞の人々・3 中西夏之さん 中西夏之展など」毎日新聞(夕刊), 2004年1月15日
- 三田晴夫「〈毎日芸術賞の人々〉中西夏之さん「中西夏之展」・「二箇所一絵画場から絵画衝動へ—中西夏之」展 たゆみない実験精神」毎日新聞(朝刊), 2004年1月15日
- 有本忠浩「〈毎日芸術賞・書評賞贈呈式〉桂信子さんから笑顔の受賞」毎日新聞, 2004年1月27日
- 有本忠浩「第45回毎日芸術賞と第2回毎日書評賞の贈呈式 東京会館で」毎日新聞(大阪), 2004年1月27日
- 「六本木クロッシング展 来月7日から東京森美術館で」毎日新聞, 2004年1月29日
- 「第45回 毎日芸術賞 喜びの一言」毎日新聞(夕刊), 2004年2月2日
- 「『六本木クロッシング・日本美術の新しい展望2004』」毎日新聞, 2004年2月7日
- 白木緑「〈創作探訪〉高松次郎『変身』の謎、前衛捨て内面に向かう—後期の油彩、検証始まる」日本経済新聞, 2004年6月13日
- 大西若人「〈単眼複眼〉ハイレッド・センターから40年 前衛のココロ」朝日新聞(夕刊), 2004年7月6日
- 田中三蔵「〈美術〉『物証』で語る旗手の孤独『高松次郎—思考の宇宙』展」朝日新聞(夕刊), 2004年7月22日
- 前田恭二「〈美術〉『高松次郎—思考の宇宙』展『だまし絵 見るような楽しさ』」読売新聞(夕刊), 2004年8月5日
- 三田晴夫「〈美術〉この1年 目立った草間の活躍 美術館“冬の時代”に新たな胎動も」毎日新聞(夕刊), 2004年12月14日
- 中野稔「〈芸文百話〉前衛美術の時代3 ハイレッド・センター 社会と日常を攪拌」日本経済新聞, 2004年12月19日
- 池上裕子「ロバート・ラウシェンバーグの《ゴールド・スタンダード》—現代美術のグローバル化に関する一試論—」『美術史』158, Vol.54-No.2, 美術史學會, 2005年3月, pp.339-355
- 「〈書評B〉平田実写真集『超芸術』」読売新聞, 2005年3月27日
- 依田彰「〈著者に会いたい〉『超芸術 前衛美術家たちの足跡』平田実さん」朝日新聞(夕刊), 2005年4月17日
- 杉山はるか「〈アート〉の散歩道 県美術館から」17『作品—たとえば波打ち際にて13』朝日新聞(愛媛), 2005年7月30日
- 「〈現代美術の歩き方〉中西夏之展」『美術の窓』no.272, 2005年10月, p.183
- 前田恭二「〈回顧2005 美術〉大衆化果たした展覧会 海外発信へ批評に重みを」読売新聞(夕刊), 2005年12月7日
- 「武満徹をみる その1 ようこそ、武満美術館へ タケミツ謹製現代美術 特集 はじめての武満徹」『芸術新潮』no.677, 2006年5月, pp.58-59
- 「〈私の一冊〉『東京ミキサー計画』 世界子ども美術館学芸員・吉塚愛さん=島根」読売新聞(大阪), 2006年10月8日
- 橋本啓子「一九六〇年代の倉俣史朗のインテリア・デザインをめぐる一考察—同時代の美術との関わりからの観点から—」『美術史』162, Vol.56-No.2, 美術史學會, 2007年3月, p.313
- 塩田靖子「山海塾作品における構成要素の特徴とその評価—批評文を中心に—」『演劇映像』通巻48号, 早稲田大学第一文学部演劇映像研究室, 2007年3月, pp.129-146
- 深山孝彰「〈特集II 芸文のプロデュース〉連載第1回 愛知県美術館の自主企画—企画展とその思い出から—」『AICHI ARTS CENTER』vol.58, 2008年
- R C Baker, “Spoiler Alert”, *The Village Voice*; New York, 53-5, 2008.1.30-2.5, p.49
- 郷「〈自由席〉戦争画に込められた思い」日本経済新聞(夕刊), 2008年2月6日
- 「『戦争と芸術』展、中村研一や現役作家ら、京都造形芸大、来月16日まで。」日本経済新聞(近畿), 2008年1月23日
- “l’Opéra de Lyon à l’heure du théâtre Nô” *Le Monde*, Mar 10, 2008
- Francis Carlin, “Lady Sarashina, Opera de Lyon” *FT.com*, Mar 10, 2008
- Francis Carlin, “Scenes from an anonymous life” *Financial Times*, 2008.3.11
- 藁科英也「満寿夫・マスオ・MASUO〜2. 『マスオ』の章—詩画集『あんま—愛慾を支える劇場の話』」『C'n : scene news』no.46, 千葉市美術館, 2008年4月, p.5
- 「〈もよおし〉中西夏之特別講演会「報告 絵画に向けて／紫・白・黒」ほか」毎日新聞(夕刊), 2008年5月7日
- 高階秀爾「〈表紙解説〉現代アートの現場から 背・白 edgeIII」『本 読書人の雑誌』講談社, 2008年7月
- Roberta Smith, “Dusting Off A Museum’s Curio Cabinet: ART REVIEW” *New York Times*, 2008.8.22
- 降旗英峰「〈個展〉『画風確立に手応え』行橋の画家・増田さん、東京・銀座で22日から(福岡)」毎日新聞(福岡), 2008年9月12日
- 秋山亮太「『時の裂け目』感じて「横浜トリエンナーレ」舞踊や映像で表現」朝日新聞(夕刊), 2008年9月17日
- 岸桂子「横浜トリエンナーレ2008 主張明確だが、かける「吸引力」」毎日新聞(夕刊), 2008年9月18日
- Joan Kee, “Points, Lines, Encounters: The World According to Lee Ufan”, *Oxford Art Journal*, 2008.9, p.22
- Satoru Nagoya, “〈NEWS〉YOKOHAMA TRIENNALE,” *Flash Art*, vol.XII No.263, 2008.11-12
- 「〈叙情と闘争 辻井喬/堤清二回顧録〉37回」読売新聞, 2008年10月4日
- 「〈回顧2008〉アート 現代美術、『街』を刺激 大型展の東京一極集中が加速」読売新聞, 2008年12月11日
- 岸桂子「〈美術〉この1年 社会を直視した中堅作家が活躍 3回目の横浜トリエンナーレも定着」毎日新聞(夕刊), 2008年12月15日
- Reiko Tomii, “International Contemporaneity” in the 1960s: Discursing on Art in Japan and Beyond, *Japan Review* No.21, International Research Centre for Japanese Studies, National Institute for the Humanities, 2009, pp.123-147
- Kenji Kajiya, “Asian Contemporary Art in Japan and the Ghost of Modernity” International Symposium 2008, *Count 10 Before You Say Asia: Asian Art after Postmodernism*, Japan Foundation, 2009, pp.208-221
- 田中三蔵「〈ニッポン人脈記〉前衛バカ伝説: 1 ミイラ男が銀座を歩いた」朝日新聞(夕刊), 2009年3月16日
- 「高松次郎 前衛は死なず」読売新聞, 2009年4月2日
- 「高松次郎の前衛芸術174点展示「影」などテーマで 広島市現代美術館=広島」読売新聞(大阪), 2009年4月3日
- 「60年代に赤瀬川原平らとともに活躍した現代美術家、中西夏之個展『背・円』」『CINRA (ウェブ)』2009年4月22日配信
- 大西若人「〈美術〉『日常生活 相笠昌義の世界』展 音のない世界で人々を凝視」朝日新聞(夕刊), 2009年5月13日
- 永松左知「〈特集 舞踊と美術〉エッジに佇む室伏鴻、中西夏之」『Corpus : 身体表現批評』no.7, 2009年10月, pp.38-41
- 馬場駿吉「〈馬場駿吉の交友天宮図〉11 詩人との呼応: 上 胸しみるゴーギャン論」朝日新聞(名古屋), 2009年12月22日

- James Jack “Exhibition Reviews : Art, Anti-Art, Non-Art : Experimentations in the Public Sphere in Postwar Japan, 1950-1970” CAA reviews, Art Journal, College Art Association, 2009.6, web
- 石崎勝基「〈美術館だより〉M字型—II 中西夏之」中日新聞(三重), 2010年12月19日
- Mark Franco, “The Dancing Gaze across Cultures: Kazuo Ohno’s Admiring La Argentina”, *Dance Chronicle*; New York,34-1, 2011, pp.106-131, p.178
- Tanya Calamoneri, “Hijikata Tatsumi’s Doubly Fantastic Life”, *Dance Chronicle*; New York,34-3, 2011, p.496-501, p.509
- 市川政憲「〈特集「震災と美術」〉震災に思う」『aica Japan news letter ウェブ版 : 美術評論家連盟会報』vol.1, 2011年11月, p.2
- 赤瀬川原平「元旦第3部・文化教養特集—岡本太郎生誕100年、保守的画壇に反旗。」日本経済新聞, 2011年1月1日
- 「中西夏之、名和晃平、イエッベ・ハインら注目作家の新旧作集う『Beyond』展」『CINRA (ウェブ)』2011年6月1日配信
- Roberta Smith, “Helping the Modern Get Over Itself: Review” *New York Times*, 2011.9.2
- 祐成秀樹「鷹赤児を変えた肉体の叛乱 表現を超越した踊り」読売新聞(夕刊), 2012年6月22日
- 「〈ニュース〉MoMAで『東京1955-1970』展が開催」『TOKYO ART BEAT』2012年7月25日配信
- 芥川喜好「〈時の余白に〉自画像、描けますか」読売新聞, 2012年9月22日
- 「特集 画廊とアーティストの繋がり gallery21yo-j×中西夏之」『月刊ギャラリー』no.331, 2012年11月
- 「ジャンル重なり美術館連携 千葉市とDIC川村記念の両館」朝日新聞(千葉), 2012年11月7日
- 青天目恭子「〈美博ピックアップ〉画廊の系譜 足利市立美術館」朝日新聞(夕刊), 2012年11月28日
- 「画廊が開いた時代 栃木・足利市立美術館 24日まで展覧会」読売新聞(夕刊), 2012年12月15日
- 大西若人「〈回顧2012〉美術『〇〇とは』本質問う 芸術・命・情報…足元見つめ」朝日新聞(夕刊), 2012年12月19日
- William Marotti, “Creative Destruction” *Artforum International*; Los Angeles, Vol.51, No.6, Feb 2013, pp.193-196, 198-201, p.268
- 加木屋健司「進む戦後日本美術研究 MoMAが英訳批評選集」毎日新聞, 2013年6月24日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第14章 アスベスト館・113 中西夏之」秋田魁新報, 2013年4月6日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第15章 あんま・119 ピンクと緑」秋田魁新報, 2013年5月18日
- 星田七重「〈瀧口修造の世界 特別展によせて〉4 中西夏之『コンパクト・オブジェ』日本独自の前衛美術を」北海道新聞, 2013年6月8日
- 山田諭「〈展覧会現在進行形〉ハイレッド・センター「直接行動」の軌跡展」『アートペーパー : 名古屋市美術館ニュース』2013夏号(93), 2013年8月
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第16章 バラ色のダンス・132 ガルメラ商会」秋田魁新報, 2013年8月17日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第16章 バラ色のダンス・133 中西夏之」秋田魁新報, 2013年8月24日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第16章 バラ色のダンス・134 終わりなき対話」秋田魁新報, 2013年8月31日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第16章 バラ色のダンス・135 人と犬のオブジェ」秋田魁新報, 2013年9月7日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第16章 バラ色のダンス・136 千日谷会堂」秋田魁新報, 2013年9月14日
- 峯村敏明「2012~2013年 私のこの3展」『aica Japan news letter ウェブ版 : 美術評論家連盟会報』vol.3, 2013年12月, p.22
- 「〈現代史探検 : 第9回〉1960年代の前衛美術」毎日新聞, 2013年12月10日
- 岸桂子「〈現代史探検〉第9回 1960年代の前衛美術」毎日新聞, 2013年12月10日
- 高橋昌宏「匿名性、ハプニングを誘発『ハイレッド・センター』中西夏之が講演」朝日新聞(東海), 2013年12月18日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第18章 形而情學・154 ネロ・ヒジカタ」秋田魁新報, 2014年1月25日
- 「前衛芸術グループ、ハイレッド・センターによる「直接行動」の軌跡を紹介する展覧会」『CINRA (ウェブ)』2014年1月30日配信
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第19章 肉体の叛乱へ・159 飯島耕一の土方巽」秋田魁新報, 2014年3月1日
- 森下隆「〈不世出の舞踏家 土方巽 秋田から世界へ〉第19章 肉体の叛乱へ・163 宙づり」秋田魁新報, 2014年3月29日
- TARO NETTLETON, “Hi Red Center’s Shelter Plan (1964) : The Uncanny Body in the Imperial Hotel” *Japanese Studies*, Vol. 34 Issue 1 (Online) Japanese Studies Association of Australia, Spring 2014
- 永松左知「〈Review〉わたしから見える工藤哲巳」『現代の眼(東京国立近代美術館ニュース)』no.605, 2014年4月
- 山田諭「〈感想ノートから〉ハイレッド・センター「直接行動」の軌跡展」『アートペーパー : 名古屋市美術館ニュース』2014春号(95), 2014年4月
- 山田諭「〈イベントレビュー〉緊急特別講演会 : 中西夏之、ハイレッド・センターを語る!」『アートペーパー : 名古屋市美術館ニュース』2014春号(95), 2014年4月
- 白石知子「〈クロニクル1964-2014〉現代アート 地方から発信 『北九州市立美術館』開館1974年」読売新聞(西部), 2014年5月3日
- 山田諭「〈時の話題〉この紐は、何処から来て、何処へ行くのか」『アートペーパー : 名古屋市美術館ニュース』2014年夏号(96), 2014年8月
- 高階秀爾「〈目は語る・アート逍遙〉8月 堤清二/辻井喬が残したもの」毎日新聞(夕刊), 2014年8月13日
- 「赤瀬川原平さん死去 77歳、画家・作家『老人力』」朝日新聞, 2014年10月27日
- 「赤瀬川原平さん死去 美術家、芥川賞作家 『老人力』『トマソン』77歳」読売新聞, 2014年10月27日
- 「訃報 : 赤瀬川原平さん 77歳 美術家・作家」毎日新聞, 2014年10月27日
- 島敦彦「〈テーマII 世界の中の日本美術批評〉ニューヨーク近代美術館「東京1955-1970 新しい前衛」をめぐって」『aica Japan news letter ウェブ版 : 美術評論家連盟会報』vol.4, 2014年11月, p.14
- 南伸坊「追悼・赤瀬川原平さん それは言いつこなしだ」週刊朝日, 2014年11月14日
- 鈴木勝雄「〈新しいコレクション〉中西夏之《コンパクト・オブジェ》」『現代の眼(東京国立近代美術館ニュース)』no.609, 2014年12月1日
- 安斎耕一「前衛の奥深さ、読み解く 高松次郎展・赤瀬川原平展」朝日新聞(夕刊), 2014年12月10日
- 「回顧展「赤瀬川原平の芸術原論」よく観察し直感で勝負した人」毎日新聞, 2014年12月11日
- 「『高松次郎ミステリーズ』展 虚構と現実の影に浸って」毎日新聞, 2015年1月22日
- 米本浩二「〈日曜カルチャー〉『赤瀬川原平』展 ジャンル横断、多彩な芸術 22日まで大分市美術館」毎日新聞(西部), 2015年2月1日
- 白石知子「赤瀬川原平 既存価値の否定 大分市美術館で芸術原論展」読売新聞(西部), 2015年2月7日
- 岡田修二「セゾン現代美術館「堤清二/辻井喬 オマーージュ展」に参加して」『成安造形大学紀要』第6号, 2015年3月
- 大崎満「『ヴォイド缶』の歌」『サステナnew ウェブ版』(35), 東京大学, 2015年3月, p.191
- 森村泰昌「世界の『ズレ』が見える日 高松次郎展」読売新聞, 2015年5月14日
- 酒井佐忠「〈詩歌の森へ〉冬野虹の作品集」毎日新聞, 2015年5月18日
- 清水有香「〈展覧会〉大阪で『高松次郎 制作の軌跡』思考の旅、多角的に」毎日新聞(大阪夕刊), 2015年5月27日
- 大西若人「高松次郎ワールド、私だけの解釈 解説排し450点展示 来月5日まで大阪」朝日新聞(夕刊), 2015年6月26日

- 大山真季「反響する景色 [岡崎和郎/伊勢崎淳/中西夏之]」『美術館NEWS』no.109, 岡山県立美術館, 2015年7月
- 「作品に“突っ込む”展覧会 近代美術館で」わかやま新報, 2015年7月28日
- 森本大貴「ともに話す、美術ガイド 和歌山大「美術館部」、鑑賞ツアー」朝日新聞 (和歌山), 2015年8月19日
- Jaimey Hamilton Faris, “Rooms in Alibi: How Akasegawa Genpei Framed Capitalist Reality” Capitalist Realism Art Margins Special, *ART MARGINS* VOL.4 ISSUE3, MIT Press, 2015.10
- 河合大介「赤瀬川原平と《山手線事件》—〈匿名性〉を手がかりとして—」『芸術研究』2016年3月, pp.68-80
- 松岡まり江、畑井恵「ただいま準備中!『ふたつの柱—江戸絵画/現代美術をめぐる』」『C'n: scene news』no.78, 千葉市美術館, 2016年5月
- 耕田倫広「(新しいコレクション) 赤瀬川原平《模型千円札I》」『現代の眼 (東京国立近代美術館ニュース)』no.619, 2016年8月
- 「中西夏之さん死去 戦後の前衛美術開拓」朝日新聞, 2016年10月24日
- 「戦後の前衛美術に足跡 中西夏之氏死去」読売新聞, 2016年10月24日
- 「〈おくやみ〉中西夏之氏 (美術家、東京芸術大名誉教授)」日本経済新聞, 2016年10月24日
- 「中西夏之さん死去 日本の前衛美術リード」毎日新聞 (夕刊), 2016年10月24日
- 「〈死去〉中西夏之氏 (美術家、東京芸術大名誉教授)」日本経済新聞, 2016年10月24日
- 「〈News〉中西夏之死去 (1935-2016)」『ART iT (ウェブ)』2016年10月24日配信
- 「中西夏之さん死去 日本の前衛美術リード」茨城新聞, 2016年10月25日
- 「訃報: 中西夏之さん 81歳=美術家、東京芸大名誉教授」毎日新聞, 2016年10月25日
- 「訃報: 中西夏之氏 (美術家、東京芸術大名誉教授)」産経新聞, 2016年12月25日
- 「美術家の中西夏之さんが死去 日本の前衛美術をリード」千葉日報, 2016年10月25日
- 「故中西夏之さんの通夜・葬儀」朝日新聞, 2016年10月25日
- 「故中西夏之氏 (現代美術家) の告別式」読売新聞, 2016年10月25日
- 「故中西夏之氏 (美術家、東京芸術大名誉教授) の通夜と葬儀・告別式」毎日新聞 (大阪), 2016年10月25日
- 「故中西夏之氏 (美術家) の告別式。」日本経済新聞, 2016年10月25日
- 杉原環樹「1900年以降の日本における「芸術と摩擦」関連年表」『aica Japan news letter ウェブ版: 美術評論家連盟会報』vol.6, 2016年11月, p.20
- 菊畑茂久馬「絵画表現の原理探求 中西夏之さんを悼む」毎日新聞 (夕刊), 2016年11月2日
- 林道郎「中西夏之さんのこと 身体、光、重力…絵から問う」読売新聞, 2016年11月3日
- 窪田直子「〈回顧2016〉美術—何のためのアートか自問」日本経済新聞, 2016年12月2日
- 三田晴夫「〈悼む〉中西夏之さん 絵の起源 正面から問う」毎日新聞, 2016年12月5日
- 永田晶子「〈美術〉この1年 ベテラン、中堅の個展響く」毎日新聞 (夕刊), 2016年12月19日
- 谷新 (談) / 丸山ひかり「追悼 中西夏之 世界を表す「触媒」になろうとした」朝日新聞 (夕刊), 2016年12月20日
- 森田陸「〈回顧2016〉アート つながりゆく美と国と人」読売新聞, 2016年12月22日
- 黒沢綾子「〈回顧2016〉美術 林立する芸術祭 再考のとき」産経新聞, 2016年12月22日
- 丸山ひかり「〈惜別〉中西夏之さん 画家」朝日新聞 (夕刊), 2016年12月24日
- 植村昌五+編集部=構成「〈月刊美術史2016.10.18-2016.11.15〉美術家の中西夏之が脳梗塞のため死去。」『美術手帖』1048号, 2017年1月
- 木本文平「追悼 さよなら中西さん」『美連協ニュース』no.133, 2017年2月
- 江上ゆか「『ギャラリーキタノサーカス』について 福野輝郎氏インタビュー」『兵庫県立美術館研究紀要』vol.11, 2017年3月, p.71
- 宮沢章夫「〈書評〉『土方巽 衰弱体の思想』宇野邦一 (著)」朝日新聞, 2017年3月26日
- 松本紗知「京芸の卒業生、注目の4人を紹介 21日まで大学ギャラリーで (大阪)」朝日新聞 (夕刊), 2017年5月12日
- 「前衛芸術グループ「ハイレッド・センター」展 記録写真&メンバー作品紹介」『CINRA (ウェブ)』2017年6月12日配信
- 永田晶子「〈Topics〉『羽永光利一〇〇〇』刊行 混沌とした時代『目撃』未発表含む初の本格的写真集」毎日新聞 (夕刊), 2017年6月21日
- 一柳慧「〈語る 人生の贈りもの〉一柳慧: 11 楽譜も建築設計も、思うままに」朝日新聞, 2017年7月3日
- 池田龍雄「〈こころの玉手箱〉4 瀧口修造の瓶詰オリブー 神田に画廊、タダで個展」日本経済新聞, 2017年8月17日
- 「〈NEWS〉中西夏之の個展が開催。「六角堂」を摸した作品に見る絵画の成り立ちとは?」『美術手帖 (ウェブ)』2017年8月28日配信
- YUKARI TANAKA, “‘Natsuyuki Nakanishi’ SCAI THE BATHHOUSE, CULTURE/ART” *Japan Times*, 2017.9.19
- 「〈NEWS〉詩集、写真、直筆原稿から活動をたどる。詩人・吉増剛造の個展開催」『美術手帖 (ウェブ)』2017年11月11日配信
- 中村隆夫「〈書評〉『芸術表層論 批評という物語』谷川渥著」産経新聞, 2017年12月17日
- 原田光「〈想い出の展覧会〉《着陸と着水》、平家池とつながった」『美術館たより『たいせつな風景』第25号 音と風景』神奈川県立近代美術館, 2018年1月, pp.8-11
- 「〈NEWS〉森村泰昌のパフォーマンスにみる身体の「行為」。新作《高く、赤い、中心の、行為》も発表」『美術手帖 (ウェブ)』2018年6月12日配信
- 橘川英規「今泉省彦旧蔵資料の受入」『TOBUNKEN NEWS』no.67, 東京文化財研究所, 2018年7月, p.32
- 「〈NEWS〉詩人・吉増剛造の個展が開幕。代表作のほか、中西夏之や森山大道らによる関連作品もチェック」『美術手帖 (ウェブ)』2018年8月11日配信
- 井上卓弥「〈Topics〉渋谷で終章『吉増剛造展』詩とイメージの重層 先人の作品交え独自の芸術に迫る」毎日新聞 (夕刊), 2018年9月3日
- 古田一晴「〈本の虫〉平出隆さんの本と展覧会」朝日新聞 (東海), 2019年1月22日
- 山本悠理「山海塾の天児牛大、若手に託す未来 4年ぶりに新作舞踏、出演はせず」朝日新聞 (夕刊), 2019年3月14日
- 「舞踏『山海塾』4年ぶり新作 北九州で23日初演」読売新聞 (西部), 2019年3月16日
- 「〈文化往来〉山海塾、天児牛大が躍らない初の新作」日本経済新聞, 2019年4月4日
- Kelly Crow, “Life & Arts: The New Game Plan for a Smithsonian Showcase”, *Wall Street Journal*, Eastern edition, 2019.8.22
- 苅部直「〈書評〉『美学校 1969-2019』美学校編 エネルギー渦巻く私塾」読売新聞, 2019年9月22日
- 山田泰生「〈個展〉青色に『好奇心と恐怖心』抽象画家・直野宣子さん個展」毎日新聞 (愛知), 2019年10月6日
- 「展示会「絵本に見るアートの100年—ダダからニュー・ペインティングまで」」『国立国会図書館月報』703号, 2019年11月, p.20
- Jason Farago, “Japan is America; New York Galleries: What to See Right Now: Review” *New York Times*, Late edition (East Coast), 2019.11.22
- 「〈NEWS〉館内に100点以上を展示。「ミュージアムホテル」掲げるホテルロイヤルクラシック大阪に注目」『美術手帖 (ウェブ)』2019年11月24日配信
- 堀越芽生子「〈劇場への招待 びわ湖ホール通信〉山海塾『ARC 薄明・薄暮』人間の内的体質、舞踏で迫る」朝日新聞 (滋賀), 2020年1月8日
- 堀越芽生子「びわ湖ホールから 中西夏之へのオマージュ25日山海塾 洗練されたダンス」毎日新聞 (滋賀), 2020年1月18日

- 平出隆「〈文化〉空中の書架」日本経済新聞, 2020年2月9日
- “Art Basel Hong Kong goes virtual with Online Viewing Rooms” *IANS English*; New Delhi, 2020.3.24
- 大西若人「〈惜別〉菊畑茂久馬さん 現代美術家」朝日新聞(夕刊), 2020年7月4日
- 杉本博司「〈私の履歴書〉16 南画廊—急きょ決まった初の個展、志水楠男氏を説得、作品売れる」日本経済新聞, 2020年7月17日
- 鷹赤児「〈プロムナード〉アヴァンギャルドな旅」日本経済新聞, 2020年9月24日
- 大西若人「明滅し刻む数字、何を見るか『宮島達男 クロニクル1995-2020』展」朝日新聞(夕刊), 2020年10月27日
- 藤高晃右「〈INSIGHT〉MoMAが常設展示を大幅入れ替え。「具体」や「もの派」が加わった理由とは?」『美術手帖(ウェブ)』2021年1月24日配信
- 「中西夏之にささげる舞台 山海塾『ARC 薄明・薄暮』」読売新聞(夕刊), 2021年5月25日
- 吉田純子「自然と人、『弧』の円環を再び 山海塾、美術家・中西夏之へのオマージュ」朝日新聞(夕刊), 2021年5月27日
- 祐成秀樹「〈評〉『ARC 薄明・薄暮』二つの弧 悠久の時の軌跡」読売新聞(夕刊), 2021年6月22日
- COLBY CHAMBERLAIN, “Prescribed Performances: Fluxus and Disability” *OCTOBER 177*, Summer 2021, pp.24-51
- 森下隆「土方と中西 [その(1)] “二人の出会い” (秋田魁新報・「不世出の舞踏家 土方巽(113) 中西夏之」より転載)」『猿橋通信0号, NPO法人舞踏創造資源 土方巽・中西夏之メモリアル猿橋倉庫運営委員会, 2021年10月
- 森下隆「猿橋倉庫[再生] プロジェクト: 保存と活用と」『猿橋通信』0号, NPO法人舞踏創造資源 土方巽・中西夏之メモリアル猿橋倉庫運営委員会, 2021年10月
- 『猿橋通信』1号, NPO法人舞踏創造資源 土方巽・中西夏之メモリアル猿橋倉庫運営委員会, 2021年12月
- “Spotlight on Japanese art”, *Gulf Weekly*; Manama, 2022.8.31
- 高階秀爾「〈目は語る〉9月 国立新美術館『李禹煥』展 自然との応答 導く無限」毎日新聞(夕刊), 2022年9月8日
- 渡辺亮一「山海塾『山海塾』新作、北九州で世界初演」毎日新聞(西部), 2023年3月11日
- 「山海塾 4年ぶり新作公演 18、19日 北九州」読売新聞(西部夕刊), 2023年3月14日
- 「思いこもる寄贈、県美に輝く 贈り主は早大名誉教授、生前に学芸員と深い交流」朝日新聞(静岡), 2023年4月21日
- 祐成秀樹「凜とした空間で踊る 天児牛大 演出・振り付け」読売新聞(夕刊), 2023年8月15日
- 吉田純子「駆け回る光と戯れる舞い 山海塾4年ぶり新作、中西夏之と魂の『共作』」朝日新聞(夕刊), 2023年8月24日
- 石井達朗「〈評・舞台〉山海塾『TOTEM 真空と高み』思索し瞑想する方法論、継ぐ」朝日新聞(夕刊), 2023年9月7日
- 祐成秀樹「〈評〉TOTEM 真空と高み 亡き美術家へ 経緯の踊り」読売新聞(夕刊), 2023年10月3日
- 吉田純子「〈回顧2023〉舞踊 アートと共振、時代の地殻変動を可視化」朝日新聞(夕刊), 2023年12月21日
- 小菅隼人、石本華江「〈北方舞踏派結成記念公演〉〈塩首〉(1975) 調査報告」『慶應義塾大学アート・センター年報/研究紀要』Vol.30, pp.154-165
- 篠原誠司「〈ブロック報告 関東ブロック〉挑戦する公立美術館コレクション展—「夢の自然の探求者たち—19世紀幻想版画、シュルレアリスム、現代日本の作家まで」展と「浅川コレクション」」『ZENBI 全国美術館会議機関誌』Vol.25, 2024年2月, p6
- 小山登美夫「〈アートの伴走者〉映画見て、ゴッホ取りつかれ」朝日新聞(夕刊), 2024年2月27日
- 「舞踏家の天児牛大さん死去 「山海塾」主宰、舞踏世界に広める」朝日新聞デジタル, 2024年3月31日配信
- 吉田純子「「我々の価値観を根本から覆した」欧州に天児牛大さんが与えた衝撃」朝日新聞デジタル, 2024年3月31日配信
- 「天児牛大さん死去 舞踏家、「山海塾」主宰」朝日新聞, 2024年4月1日
- 祐成秀樹「〈追悼 天児牛大〉「重力との対話」舞踏を世界へ」読売新聞(夕刊), 2024年4月9日
- 祐成秀樹「〈訃報〉「重力との対話」で舞踏を世界へ、透徹した美意識で人間存在の本質追究…舞踏家・天児牛大さん」読売新聞オンライン, 2024年4月10日
- 「【開幕】「TRIO ヴァリ・東京・大阪 モダンアート・コレクション」東京国立近代美術館で8月25日まで 組み合わせの妙、存分に」『美術展ナビ』2024年5月21日配信
- 小菅隼人「縫った肉体—舞踏家玉野黄市に聞く—」『慶應義塾大学日吉紀要 人文科学』No.39, 2024年6月
- 森田陸「UESHIMA MUSEUM 現代美術発進 渋谷に拠点」読売新聞(夕刊), 2024年6月8日
- 吉田純子「〈惜別〉天児牛大さん 舞踏家・舞踏カンパニー「山海塾」主宰」朝日新聞(夕刊), 2024年7月6日
- Mutsumi Morita, “Ueshima Museum makes a splash with modern art” *Japan News, The Yomiuri Shimbun*, 2024.7.11
- 山田理恵「個性にワクワク、前衛作家の「鼓動」愛知・碧南の美術館で企画展」朝日新聞(名古屋), 2025年1月24日
- 「【レポート】「夢を追いかけた“前衛”の鼓動」展 ~時代の熱い息吹を感じさせる浅川コレクションの逸品たち~ 碧南市藤井達吉現代美術館(愛知)で2月24日まで」『美術展ナビ』2025年1月26日配信
- 足立智美「音楽を更新し、時代を批評した刀根康尚さんを悼む」朝日新聞デジタル, 2025年5月31日配信
- 大西若人「〈美の履歴書〉899『No.1 真空の踊り場・四谷階段 東京都新宿区本塩町 1972』赤瀬川原平 なぜ上げる? 超芸術トマソン」朝日新聞(夕刊), 2025年6月10日
- 「〈文化〉音楽を更新、絶え間なく逸脱 刀根康尚さんを悼む 音楽家・パフォーマー、足立智美」朝日新聞, 2025年6月17日
- 「『未来/追想 千葉市美術館と現代美術』担当学芸員インタビュー」『C'n : scene news』no.117, 千葉市美術館, 2025年7月
- 川名佑実「痕跡としての舞踏空間—中西夏之の美術における『動性』をたよりに—」『甕星』特別号, 2025年8月, pp.143-147
- 「山海塾が天児牛大の最後の作品『TOTEM 真空と高み』を東京、滋賀で再演」『びあ(ウェブ)』2025年9月29日配信
- 「〈横浜市民ギャラリーゆかりの作家たち〉vol.33 中西夏之」『アートヨコハマ 84』横浜市民ギャラリー, 2025年10月1日
- 杉浦理彩子「びわ湖ホールから「すれ違い」の意味、舞踏の中に 天児牛大最後の作 来月1日、関西初演」毎日新聞(滋賀), 2025年10月11日
- 「東京都現代美術館で開館30周年記念コレクション展が12月開催。森村泰昌らが自己表現と身体性を探求」『TOKYO ART BEAT(ウェブ)』2025年11月26日配信
- 東野芳明「'60年代の奇妙な思い出」(出典・発行年月不明)

6. その他

6-a 版画集

- 詩画集『あんま』(中西夏之「土方巽の肖像」(銅版)ほか) アスベスト館, 1968年10月
- 中西夏之 ブロックノーツ『arc』(銅版) 林グラフィックプレス, 1977年12月
- 中西夏之『Breathing—目前のひびき』(シルクスクリーン) 美学校, 1979年
- 『漂流物épaves』no.3 (中西夏之「作品」) 林グラフィックプレス, 1979年10月, p.27

- 中西夏之『白いクサビ―日射の中で』(銅版) 林グラフィックプレス, 1987年
- 中西夏之『夏至のG/Z』(シルクスクリーン) 星田版画工房, 1993年
- 中西夏之『凹型』(シルクスクリーン) 星田版画工房, 1994年
- 中西夏之『エニアグラム』(銅版) 林グラフィックプレス, 1997年
- 中西夏之『柔らかに 還元』(銅版) 林グラフィックプレス, 2002年

6-b 装画・装丁

- 『三田文学』vol.47-1 [第2期], 三田文学会, 1957年1月 カット
- 『三田文学』vol.47-2 [第2期], 三田文学会, 1957年2月 カット
- ソルジェニツイン著, 小笠原豊樹訳『イワン・デニソビッチの一日』河出書房新社, 1963年, 表紙・扉・デザイン
- ソルジェニツイン著, 小笠原豊樹訳『消された男』河出書房新社, 1963年, 表紙・扉・デザイン・カット
- ジョルジュ・バタイユ著, 出口裕弘訳『無神学大全 有罪者』現代思潮社, 1966年11月初版, 函および見返し
- レオポルド・フォン・ザッヘル・マゾッホ著, 伊東守男訳『毛皮のヴィナス (コレクション・アモールno.5)』二見書房, 1968年, 挿画
- 『文藝』vol.7-5, 1968年5月, 目次, p.9, 10, 11, 107, 154, 188, 189, 198, 255 カット
- 「吐息の相互交換機、馬の吐息も」『血と薔薇』創刊号no.1 (特集 オナニー機械) 1968年10月, p.92
- 『朝日ジャーナル』1967年9月3日, 10日, 17日, 24日 カット
- 『朝日ジャーナル』1968年9月1日, 8日, 15日, 22日, 29日, 10月6日, 13日, 20日, 27日 カット
- 『中央公論』no.977, 1969年1月, p.37, 54 カット
- 「イラスト (詩: 寺山修司)」産経新聞 (夕刊), 1969年1月28日
- 「第二の肖像」『本の手帖』1969年8月 (特集 滝口修造), 口絵
- 黒井千次『時間』河出書房新社, 1969年8月, 装丁
- 金井美恵子「英雄伝説あるいは半島領主の娘たちの小夜曲」『婦人公論』no.640, 1969年9月, pp.278-279
- 飯島耕一「私有制にかんするエスキス 付・ランボー論」思潮社, 1970年7月
- ジョルジュ・バタイユ著, 出口裕弘訳『無神学大全 内的体験』現代思潮社, 1970年11月初版, 函および見返し
- 加藤郁乎『遊牧空間』三一書房, 1970年11月, 函・表紙・見返し
- 文芸総合誌『海』, 新年号-12月号, 1971年, 表紙
- 笠井勲『聖霊舞踏 肉体と神秘』現代思潮社, 1972年, 表紙
- ヴァーツラフ・ニジンスキー著, 市川雅訳『ニジンスキーの手記 肉体と神』現代思潮社, 1972年, 函
- 西脇順三郎『西脇順三郎対談集 詩・言葉・人間』薔薇十字社, 1972年8月, 装幀
- 『現代思想』創刊号 (1月)-12月号, 1973年, 表紙
- 中西夏之「1968-1973」『美術手帖』no.367, 1973年5月, pp.179-202
- 高橋たか子『共生空間』新潮社, 1973年11月, 装幀
- 『季刊トランソニック』表紙1号-12号, 1973年12月-1976年12月
- 矢川澄子『架空の庭』大和書房, 1974年, 装画
- 『中央公論』no.1043, 1974年2月, p.47, 49, 51, 53, 54 カット
- 『朝日ジャーナル』1974年1月4日, 11日, 18日, 25日, 2月1日, 8日, 15日, 22日 カット
- ベルナル・ノエル著, 生田耕作訳『聖餐城 (今日の海外小説)』河出書房新社, 1974年5月, カバーイラスト
- 天沢退二郎『譚海 天沢退二郎詩集』青土社, 1974年8月, 装幀
- アンドレ・ブルトン『シュルレアリスム宣言・溶ける魚』学藝書林, 1974年12月
- Charles Perrault, Puss in Boots, LABO-Teaching Information Center, 1976, 装画
- 加藤郁乎『詩篇II』思潮社, 1976年, 装丁
- 『文芸読本 石川啄木』河出書房新社, 1976年4月, 表紙
- 土方巽「大野一雄の舞踏」(出不明), 1977年
- 『朝日ジャーナル』no.948, 1977年4月8日, 表紙
- J.L.ボルヘス, A.ピオイ=カサレス『ブスト=ドメックのクロニクル (ラテンアメリカ文学叢書1)』国書刊行会, 1977年6月, 装幀
- A.カルペンティエール著, 鼓直訳『時との戦い (ラテンアメリカ文学叢書2)』国書刊行会, 1977年7月, ドローイング
- G.カブレラ=インファンテ著, 鼓直編, 吉田秀太郎訳『平和のときも戦いのときも (ラテンアメリカ文学叢書3)』国書刊行会, 1977年8月, ドローイング
- M.A.アストゥリアス著, 鼓直編, 牛島信明訳『グアテマラ伝説集 (ラテンアメリカ文学叢書4)』国書刊行会, 1977年9月, ドローイング
- 『文芸読本 ランボー』河出書房新社, 1977年9月, 目次・扉・本文カット
- J.コルタサル著, 鼓直編, 木村栄一訳『遊戯の終り (ラテンアメリカ文学叢書5)』国書刊行会, 1977年10月, ドローイング
- E.サンバト『トンネル (ラテンアメリカ文学叢書6)』国書刊行会, 1977年12月, 装幀
- 『文藝』vol.17-1~6, 河出書房新社, 1978年1月-6月, 目次・本文カット
- M.バルガス=リョサ著, 鼓直編, 鈴木恵子・野谷文昭訳『小犬たち・ボスたち (ラテンアメリカ文学叢書7)』国書刊行会, 1978年3月, ドローイング
- 白石かずこ『一艘のカヌー、未来へ戻る』思潮社, 1978年4月
- C.フェンテス著, 鼓直編, 木村栄一訳『聖域 (ラテンアメリカ文学叢書8)』国書刊行会, 1978年4月, ドローイング
- 吉増剛造『太陽の川』小沢書店, 1978年6月, 装幀 (菊池信義と共同)
- 『現代詩手帖』vol.21-10, 1978年10月 カット複数
- 『現代詩手帖』vol.21-11, 1978年10月臨時増刊 表紙, カット複数
- 田辺美砂『詩集 夏・トライアングル』昭森社, 1978年11月, 装画
- J.L.ボルヘス著, 岸本静江訳『エバリスト・カリエゴ (ラテンアメリカ文学叢書9)』国書刊行会, 1978年11月, 装幀
- S.サルドウイ著, 鼓直編, 木村栄一訳『歌手たちはどこから (ラテンアメリカ文学叢書10)』国書刊行会, 1979年1月, ドローイング

- 『月刊ハミング』1979年1月-12月, 表紙
- 「緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」『ユリイカ』vol.11 no.4, 1979年3月臨時増刊, pp.265-281
- G.ガルシア＝マルケス著, 鼓直編, 桑名一博・安藤哲行訳『ママ・グランデの葬儀 (ラテンアメリカ文学叢書11)』国書刊行会, 1979年4月, ドローイング
- 津島佑子『氷原』作品社, 1979年7月, 装画
- 『中央公論』p.1108, 1979年7月, カット, p.39
- 『中央公論』p.1109, 1979年8月, カット, p. 39, 51, 57, 66
- 種村季弘『壺中天寄聞 種村季弘のラビントス』青土社, 1979年11月, 扉絵
- O.パス著, 牛島信明訳『弓と豎琴 (ラテンアメリカ文学叢書12)』国書刊行会, 1980年1月, 装幀
- 篠田一士ほか著, 鼓直編『ボルヘスを読む (ラテンアメリカ文学叢書13)』国書刊行会, 1980年4月, ドローイング
- 『中央公論』p.1118, 1980年4月, カット, p.41, 53, 55, 57, 59, 101
- 辻邦生ほか著, 鼓直編『ラテンアメリカ文学を読む (ラテンアメリカ文学叢書14)』国書刊行会, 1980年5月, ドローイング
- M.ブイグ著, 内田吉彦訳『リタ・ヘイワースの背信 (ラテンアメリカ文学叢書15)』国書刊行会, 1980年7月, 装幀
- フェルディナン・アルキエ著, 巖谷国土・内田洋訳『シュルレアリスムの哲学』河出書房新社, 1981年4月, 装幀
- 渋沢孝輔『花の断章』書肆山田, 1981年8月, 表紙
- 増田みず子『麦笛』福武書店, 1981年10月, 装画
- 『中央公論』no.1146～no.1158, 1982年1月～12月, カット
- 中西夏之「WORK」『Shy's normal』創刊号, 1982年7月, pp.52-57
- 「上皿天秤の橋渡し」『ユリイカ』vol.14 no.9, 1982年9月, pp.167-171
- 増田みず子『自殺志願』福武書店, 1982年12月, 装画
- 『文芸読本 小林秀雄』河出書房新社, 1983年7月, 目次・本文カット
- 矢川澄子『兔とよばれた女』筑摩書房, 1983年10月, 装画
- 『文芸読本 ランボー (新装版)』河出書房新社, 1983年12月, 目次・扉・本文カット
- 『海燕』vol.3 no.1-12, ベネッセコーポレーション, 1984年1月-12月, 本文・目次カット
- 『文芸読本 石川啄木』河出書房新社, 1984年2月, 表紙
- 『新聞経営』no.87～90, 日本新聞協会, 1984年6, 9, 12月, 1985年3月, 表紙
- 辻井喬『静かな午後』河出書房新社, 1984年8月, 装画
- 中西夏之「舞踏の表情から逃れ、空間との震動を受けるための試み 大野一雄『アルヘンチーナ頌』1977.第一生命ホールより」『現代詩手帖』vol.28-6, 1985年5月, ドローイング
- 辻井喬「〈特集 都市の、夢 道の記憶〉金色の循環電車」『現代詩手帖』vol.28-5, 1986年4月, ドローイング
- 夏際敏生『僧形』書肆山田, 1986年5月, 表紙
- 竹内迪也「芸術新潮 料理百科 九月 唐辛子」『芸術新潮』no.441, 1986年9月, pp.104-105
- 芦田みゆき『水色の卵』砂の会, 1986年12月, 装画
- 芦田みゆき『詩集 記憶の夏』昭森社, 1987年4月, 装画
- 波多野須美『中国美食の旅』新潮社, 1987年9月, 装画
- 布施英利『脳の中の美術館』筑摩書房, 1988年, 表紙
- 豊崎光一訳『ロートレアモン伯爵イジドール・デュカス全集』白水社, 1989年9月, 装幀
- なかにし礼『翔べ!わが想いよ』東京新聞出版局, 1989年11月, 装幀
- 『中央公論 文芸特集』復刊7 (1) (22)～7 (4) (25), 1990年3, 6, 9, 12月, カット
- 『中央公論 文芸特集』復刊8 (1)～8 (4), 1991年3, 6, 9, 12月, カット
- 中西夏之「Braceから」『現代詩手帖』vol.33-6, 1990年6月, 作品カラー図版
- パウル・ツェラン著, 飯吉光夫訳『ことばの格子』書肆山田, 1990年9月, 表紙
- 宮沢賢治『土神と狐』(絵本) 物語テープ出版, 1991年1月, 絵
- 辻井喬『沈める城』牧羊社, 1991年7月, 装画
- 『中央公論 文芸特集』復刊9 (1)～9 (4), 1992年3, 6, 9, 12月, カット
- 『中央公論 文芸特集』復刊10 (1)～10 (4), 1993年3, 6, 9, 12月, カット
- 『中央公論 文芸特集』復刊11 (1)～11 (4), 1994年3, 6, 9, 12月, カット
- 中本道代『春分 中本道代詩集』思潮社, 1994年7月, 装画
- ミッシェル・サヌイエ編, 北山研二訳『マルセル・デュシャン全著作』未知谷, 1995年7月, 表紙
- 『土方巽全集』河出書房新社, 1998年1月, 装画
- 『美術フォーラム21』no.2, 2000年5月, 表紙・裏表紙
- 「〈不滅の少女に捧げる、14の作品〉中西夏之の《4つの月》」『ユリイカ』臨時増刊〈総特集 矢川澄子 不滅の少女〉2002年10月, p.235
- 若松英輔『井筒俊彦 叡知の哲学』慶應義塾大学出版会, 2011年5月

6-c 書評

- 春名徹「新刊アラカルト 自作への見取図 大括弧」『太陽』no.335, 1989年4月, p.200
- 大岡信「緩やかにみつめる愉楽」『ちくま』no.219, 1989年6月, pp.6-7
- 種村季弘「左右の間という静謐」朝日新聞1989年6月4日
- 村松友視「読書ノート『大括弧 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置』」『文学界』vol.43-7, 1989年7月, p.143
- 「中西夏之 大括弧」『美術手帖』no.611, 1989年7月
- 田野倉康一「絵。壮大な存在への予感」図書新聞, 1989年7月1日
- 朝吹亮二「中西夏之『大括弧 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置』」『マリ・クレール』1989年10月, p. 417

- 「大括弧 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」『アート・トップ』no.113, 1989年11月1日
- 江國香織「〈BOOKS'90〉読書日記①」『朝日ジャーナル』no.1643, 1990年5月25日, p. 51
- 種村季弘「立ち上がる平面」(再録)『遊読記』河出書房新社, 1992年8月, pp.92-93

6-d 舞踏関係パンフレット

- ガルメラ商会「澁澤さんの家の方へ バラ色ダンス」1965年11月
- 「月報」(山海塾九州公演パンフレット), 羊蹄社, 1979年7月
- 山海塾「日本縦断ツアープログラム」アウストロ・アーツ・アソシエーション, 1985年4月
- 山海塾「卵を立てることから—卵熱」銀座セゾン劇場, 1989年
- 山海塾「そっと触れられた表面—おもて」他 銀座セゾン劇場, 1992年
- 山海塾「常に揺れている場のなかで—ゆらぎ」他 銀座セゾン劇場, 1994年
- 山海塾「ゆるやかな振動と動揺のうちに—ひよめき」他 銀座セゾン劇場, 1996年
- “TROIS SOEURS/Peter Eötvös”OPERA NATIONAL DE LYON, 1998.3.13
- 山海塾「仮想の庭—うつり」他 琵琶湖ホール, 世田谷パブリックシアター, 2003年9月
- 山海塾「常に揺れている場のなかで—ゆらぎ」他 グリーンホール相模大野, 2003年10月
- *Biennale Musiques en Scène 2008*, Opéra National de Lyon, Décors NATSUYUKI NAKANISHI, 2008.3
- *Festival JAPON 2008*, Opéra National de Lyon, Décors NATSUYUKI NAKANISHI, 2008.3
- *Lady Sarashina*, Opéra National de Lyon, Décors NATSUYUKI NAKANISHI, 2008.3
- 山海塾「薄明・薄暮—ARC」北九州芸術劇場, 2019年3月
- 山海塾「TOTEM 真空と高み」北九州芸術劇場, 2023年3月

6-e テレビフィルム、映像等

- 飯村隆彦「ONAN」主演=中西夏之 音楽=刀根康尚, 1963年
- 中西夏之・飯村隆彦(共作)「視姦について」1962年
- 飯村隆彦「ONAN」主演=中西夏之 音楽=刀根康尚, 1963年
- 城之内元晴「シェルター・プラン」(ハイレッド・センター記録映画)1964年
- 中西夏之「橋—睡眠の器」1971年
- 「中西夏之の人は最初どのように絵を描くか」日本テレビ〈美の世界〉, 1981年2月28日放送
- 「中西夏之〜感覚の復習と絵づくりのABC〜」テレビ東京〈新・美に生きる〉, 1993年5月22日放送
- 宮岡秀行『光の種子 後期・中西夏之に就て』2019年

6-f その他 私家出版物、展覧会の出品目録およびリーフレット類

- 京浜絵の会『版画集』第1集, 1955年5月
- 今泉省彦旧蔵資料, 1950-60年代
- 第3回シェル美術賞展目録、応募者名簿ノート, 1959年10月
- 第15回読売アンデパンダン展出品目録, 1963年3月
- 「自立学校シリーズ no.1」1963年4月
- 中原佑介「無題(推薦文)」『ミキサー計画 招待状』1963年5月, HRC
- 中原佑介「無題」『不在の部屋展 案内状』1963年7月, 内科画廊
- 後藤充『高松次郎・赤瀬川原平・中西夏之 Hi Red Center』1982年(自費出版)
- 中西夏之「宮田国男追悼会発起人 ご挨拶」1984年12月6日
- 宮田国男『希望としての精神医療』ついで養生舎の会, 1988年
- 小坂良彦「少年Nへの鎮魂歌(小説 中西夏之の伝)」『浜川中学校四期卒業生記念誌』1989年
- 飯田高誉「中西夏之 汐留のための『4ツの月』」『dentsu artwork project process and structure』電通新社屋推進室, 2002
- 「中西夏之の《柔かに、還元》の絵画／思索展」解説パンフレット, 名古屋市美術館, 2002年4月〔所収：山田論「『中西夏之の《柔かに、還元》の絵画／思索》についての試論」〕
- 「中西夏之展 広さと近さ—絵の姿形」解説リーフレット, 愛知県美術館, 2002年12月〔所収解説：深山孝彰〕
- 「中西夏之 arc・green-1」作品解説カード, 埼玉県立近代美術館, 2003年3月
- 「中西夏之」六本木クロッシング特集_森美術館ニューズペーパー, 森美術館, 2004年
- 「1968 肉体の叛乱とその時代」リーフレット, 慶應義塾大学アート・センター, 2008年7月〔所収：森下隆「反乱の肉体、肉体の時代」〕
- 「平成25年度 第2期コレクション展示」作品目録, 栃木県立美術館, 2013年7月
- 「聖なるものへ ひそやかな祝祭」出品リスト, 茨城県近代美術館, 2013年11月
- 「グループ『幻触』と石子順造 1966-1971 ~時代を先駆けた冒険者たちの記録~」出品目録, 静岡県立美術館, 2014年2月
- 「戦後の美術—絵画の庭」常設展出品目録, 府中市美術館, 2016年12月
- 「2016年度 第5期常設展 常設展示室1 筆触と身体—中西夏之を中心に—」リーフレット, 高松市美術館, 2017年1月
- 「没後三十一年 土方巽を語ること VII」イベントDM, 慶應義塾大学アート・センター, 2017年1月〔所収解説：森下隆〕
- 「中西夏之の個展」ハンドアウト, SCAI THE BATHHOUSE, 2017年9月〔所収解説：市川政憲「『着陸と着水XIV 五浦海岸』について—中西夏之展によせて』〕
- 「中西夏之の Bibliography」横田茂ギャラリー, 2017年10月
- 「ROUGH AND REFINED JAPANESE ART」展リーフレット, LEO CASTELLI GALLERY, 2007年〔所収解説：難波英夫〕

- 山海塾『山海塾 2023』2023年8月
- 「中西夏之：1962～2011」ハンドアウト, SCAI THE BATHHOUSE, 2024年6月〔所収解説：光田ゆり「中西夏之 画家への問いと画家からの問い」〕
- 「40年後の「空白の 粒子の中へ 兆みる。」展リーフレット, gallery21yo-j, 2024年10月〔所収解説：黒田悠子、中尾拓哉、青野文昭、白井美穂、松浦寿夫〕
- 永松左知、福元崇志、常深新平『中西夏之資料の調査研究 2024』2025年3月
- 神奈川県立近代美術館 葉山「コレクション展「中西夏之 光の条件」」出品目録, 2025年4月〔所収解説：高嶋雄一郎「展覧会補記」〕

7. ウェブ記事、アーカイブ等 (2026年3月時点)

- 影山幸一「(アート・アーカイブ探求) 中西夏之《紫・むらさき XVII》—浸透していく無限「林道郎」」artscape, 2018年5月15日
- https://artscape.jp/study/art-achive/10146179_1982.html
- 「ディレクタートーク」(吉本光宏(聞き手)・三木あき子・飯田高誉), dentsu art museum (電通アートワークプロジェクトHP), 2021年7月21日
- <https://www.artmuseum.dentsu.jp/>
- 飯田高誉「展覧会「ヴァイド オブ ニッポン 77 戦後美術史のある風景と反復進行」TECTURE MAG (COMPETITION & EVENT), 2022年8月22日
- <https://mag.tecture.jp/event/20220822-70486/>
- 今泉省彦「絵描き共の変てこりんなあれこれの前説」1～17, 『仁王立ち倶楽部』アリス出版, 1985年6月-1989年2月より転載
- <https://www.asahi-net.or.jp/~ee1s-ari/imaizumi1.html>
- 日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ：池田龍雄、和泉達、今泉省彦、久保田成子、清水晃、谷川晃一、刀根康尚、中村宏、針生一郎、平井亮一、平田実、元永定正、ヨシダ・ヨシエ、吉野辰海、李禹煥